

やう用心なさることであり、今申しましたやうに小兒の鼻は粘膜が極く軟弱でありますから風邪を引くと直ぐ鼻加答兒を發しまして、鼻咽腔の粘膜が腫れ出す爲め鼻道は狭くなりますし、それに鼻汁は澤山に出て、それが固つて鼻蓋となり鼻道を閉塞するやうになります、鼻咽腔と申しましては或はお解りにならぬかも知れませんが、これは恰度鼻の孔の突當りと咽頭の突當りの間にございます、この粘膜が腫れますと鼻が詰りまして口で呼吸せねばなりませんから、乳兒は十分満足に哺乳が出来ない爲め營養が衰へます、又鼻から呼吸が出来ない爲口を開いて眠ります、それですから口を開いて眠る兒でありましたら何か鼻に故障がございます、又鼻咽腔の粘膜が腫れ上りますと、鼻咽腔から耳へ通じてゐる歐氏管と云ふ管の口が腫れ上ります、この歐氏管が塞りますと耳は遠くなりますから、小兒の智慧付も遅れますし又學校の生徒であるならば教師の話がよく聞取れませんから、注意力の集中も出来ず、學問に對する興味もなくなり、従つて學校の成績も悪くなります、斯様な譯でありますから、常々風邪を引かぬやう御用心なさいまして、若し少しでも鼻に故障が見えましたなら、早い内に専門の醫師に診せて治療を受けさせねばなりません。

咽喉の病氣の中で小兒に一番多い又一番注意を要するものは扁桃腺炎であります、扁桃腺は口腔の奥で恰度のどちんこから兩側へ下つた所にございまして凹溜の中に這入つて居りますから、健康人では別に膨上つて見せぬが、寒風に吹かれるとか、空氣が乾燥するとか、或は風邪を引きました折などには、赤く腫れ出しまして、時によると咽喉孔の塞がる位に大きくなることもあります、殊けて北海道の冬季は寒さの烈しい上に、ストーブを焚きますので、室内の空氣も乾燥しますから、扁桃腺炎に罹る小兒も多いやうであります、扁桃腺の作用に就きましては醫學者の間にも喧しい議論がございますけれども、扁桃腺から侵入する病氣は澤山にありますから、御用心、肝腎でございます。

筋骨の衛生、小兒をして完全に發育させますには、十分に食物を與へねばならぬことは前回お話ししたて置きましたが、併し何んなに滋養品を食べさせた所で適度の運動をさせなかつたら、決して満足に發達するものでございせん、十分なる營養と適度の運動と相俟つて始めて完全なる發達を遂ぐるのであります、運動をさせない小兒はたとひ肥滿して居りましても、筋肉は丸で豚肉のやうに柔軟でありますから一向に力がない、それで走らしても仕事をさせましても直ぐに疲れて長く續きませんが、適度に運動を行はせて居りますと筋肉はだん／＼大つて觸れて見ましても軟かくない、力は中々強くて骨折業をさせましても容易に疲れが來ません、それに運動をさせますと血液の循環はよくなつて心臓も血管も丈夫になりますし、呼吸器も消化器も皆強壯になります、又精神も爽快で圓滿に發育するし妙齡になりますも劣情を起しませぬ、斯の如く運動と云ふものは、身體にとつて最善の強壯法であります、然し不適當な種類の運動をさせましたり、又運動の種類は適當でも運動に對する注意が缺けて居りますと、却て害になることがありますから、年齢や體質に適應した運動法を選んで十分なる監督の下に行はせることが必要でございます、現今我國に行はれてゐる運動は凧揚げ、羽根突などの小兒遊戯を始めとして、學校運動では體操、ベースボール、ローンテニス、短艇、劍道、柔道、游泳、弓術、遠足等澤山ございます、之に對する注意は兒童遊戯の方でお聞きだらうと思ひますから、重ねてお話ししません。

次に幼年者の骨は石灰分が少うございます爲に、軟であつて撓み易うございますから、體の姿勢を正し

くする様に注意せねばなりません、所が這へば起て起ては歩めの親心から、まだ十分骨の固まらん時から無理に立たせましたり歩ませましたりする母親がございしますが、脊柱も下肢の骨もまだ十分に體の重みを支へる力がない爲に、脊柱や下肢骨は屈曲し、脊柱彎曲症とか或は彎脚症などになることがございします、早くからそんな無理をなさらんでも相當の月日さへ経ちますれば小兒は自分の力で起ちもしますし歩みもいたします、學校に入りましてから、机腰掛の高さが不釣合の爲又は机に向つて不良の姿勢をとります爲にも脊柱や下肢の彎曲を起すことか多くございします、下關市小學兒童一八六九人検査の成績によりますと、その中四〇二人即ち二一、五%は脊柱彎屈者であります、脊柱彎屈症はその彎屈した方向によつて前後及び左右側彎屈に區別してありまして、歐米人には側音曲が多うございしますのに、日本人には後屈が多いと云ふことです、これは家庭にあつて座る習慣のありますのと、別けて女兒は裁縫の際體を前方に屈する爲ならうと思ひます、斯様な譯でありますから、家庭に於ても十分此邊の注意が必要であります、殊に學校に置きましたは、最も机と腰掛に注意し、授業時間繼續して掛けて居つても、決して胸部や腹部を壓迫することなく、常に正しく衛生的姿勢を保持し得るものでなければなりません、正しき姿勢と申しまするは、軀幹と頭部と眞直にし、上脚は水平に腰掛の上に載せ、下脚は鉛直に近く且つ僅か前方に垂れ、足跡は水平に床面に置き、背部は倚靠に軽く接するやうに腰掛けることでもあります、かう云ふ正しき姿勢をとらせるには、絶えず間なく教員の監督することも必要ですけれども、更に机と腰掛を兒童の身體に適合せしむることが必要であります、尤も兒童の身長はすん／＼伸びて往きますから、いつも數學的にきちんと適合したものばかりを用ゐることは事實不可能であります、次のやうな寸法の机と腰掛を備へて置いて、兒童の身長に合はせて用ゐたら、大體間違なからうと思ひます。

小學校用机腰掛寸法表

| 身長      | 机番 | 机ノ高   | 机ノ幅   | 机ノ長<br>(二人掛) | 腰掛高   | 腰掛幅   | 腰掛長<br>(二人掛) | 倚靠用<br>木ノ高 | 女兒<br>一ノ高 | 女兒<br>二ノ高 |
|---------|----|-------|-------|--------------|-------|-------|--------------|------------|-----------|-----------|
| 一〇〇—一一〇 | 一號 | 一五、五寸 | 二二、〇寸 | 三六、〇寸        | 八、六寸  | 八、二寸  | 三六、三寸        | 四、〇寸       | 五、〇寸      | 一〇、〇寸     |
| 一一〇—一二〇 | 二號 | 一七、〇寸 | ク     | ク            | 九、四寸  | 九、〇寸  | ク            | 四、四寸       | 五、四寸      | 一〇、八寸     |
| 一二〇—一三〇 | 三號 | 一八、五寸 | ク     | 三六、〇寸        | 一〇、二寸 | 九、八寸  | 三三、〇寸        | 四、八寸       | 五、八寸      | 一一、六寸     |
| 一三〇—一四〇 | 四號 | 二〇、〇寸 | ク     | ク            | 一一、〇寸 | 一〇、六寸 | ク            | 五、二寸       | 六、二寸      | 一二、四寸     |
| 一四〇—一五〇 | 五號 | 二二、五寸 | ク     | ク            | 一二、八寸 | 一〇、四寸 | ク            | 五、六寸       | 六、六寸      | 一三、二寸     |

精神の保護

精神病者及び精神發育不全者の殆んど過半数は遺傳的關係あることが醫學上證明せられて居るのであります、随つて精神に異常ある者に對しては結婚を禁戒するか或は少くとも制限することは、健全なる國民をつくる一要件であります、實際には頗る至難の注文でございします。

次に必要なるは育兒上の注意であります、遺傳的素因を全く棄けて居らぬ小兒でも育兒上の注意が屈いて居らなかつたら、精神は健全なる發育を遂げることが出來ないで、時に白痴、癡愚、又は鈍愚の兒となりましたり、或は精神病兒となるのであります、ですから小兒の精神を完全に發育させますには、前回は



べく程度の高い課程を教ゆることを誇りとし、或は成るべく澤山覺悟させて受持生徒の成績を良くしようなどの淺はかな考から、十分教室で詰込んでさへ尙満足が出来ずに、無暗に宿題まで課する教師も間々見受けられます、それが爲に生徒は帰宅後は勿論、日曜日でさへ、ろくに休まぬことがあります、斯の如く過重の授業をしますときは、たとひ智力の能く發育しました強健の児童には案ずる程の大害はなからうけれども、一般の児童はろの負擔に堪へないで、心身の發育が障害されるばかりでなく、貧血症や神經衰弱症などの所謂學校病を起しまして、遂に救ふべからざる禍根を招ぐことがありますから、この過重の授業と云ふことは、最も危険なことで、教育家の深く注意すべきことと云ふべきでございます。

それから児童の家庭に於きましても、學科の復習や豫習に就ては、ろの児童の年齢と身體精神の發育状態によつて適當の加減をする必要があります、所が近來家庭教師が大流行で、中流以上の家庭では家庭教師を雇ひまして、児童を勉強責任にさせるのを以て、最も優れた家庭教育法なりと誤信して居らるゝ方もございますやうであるが、全體小學校では児童の年齢に應じ相當の授業をして居るのであるから、それだけで十分な算でございますのに、ろの上家庭教師を雇うて、勉強させましたところで、ろんな過重な負擔は孱弱い児童の脳にはとても堪へられませんから、恰度瘦馬に鞭打つやうなもので、少しも益にならぬばかりでなく、身體と精神に及ぼす害は決して少なくありません、ろれに豫習とか復習とかの課業は、必ず児童自身にさせますのがよいので、家庭教師などを雇ひましては、児童に依頼心を起させ、自ら勉強せぬやうになります。

次に男女共に春情の發動する年齢に達しますと、生理的並に心理的に餘程變つて參りますから、身體精神に對し十分の保護を加えないと、飛んで禍根を招き生涯救ふべからざる結果に陥ることがあります、別けて發情に對しては深い注意が必要であります、彼のまだ肩揚も取れない時から男女關係を結ぶなどは身體と精神の發育力が一部分生殖力に奪はるゝ爲に、十分の發育を遂げることが出来ないで、身體精神共に薄弱の人間に終らしむるのであります、年少い男女の性交でさへ身體と精神の發育の上に有害なる影響を與へるのであります、況して劣情に驅されて、不自然なる手淫を行ふなどは、ろの危害一層甚しいのであります、即ちHを經、回を重ねるに従つて、顔色は蒼白くなり、元氣が衰へ、記憶力、思考力、決斷力、忍耐力等も皆衰へて、薄志弱行の士となります、ろれに生殖器も發育を妨げられて萎靡を來たし、或は男子では陰萎、早漏、遺精等の生殖器障害を來たし、女子では月經不調、子宮病等を起し、遂に生殖不能に陥ることもございます、ろれですから發情の時期に於ては殊に衛生や教育法に注意しまして、劣情を起させぬやうにし若し起りましても抑壓の出来るやうにせねばなりません、ろれには先づ飲食物に注意しまして、過度の肉食を避け、刺戟性の食物や酒類の飲食を禁じ、日常秩序ある生活を續けて、就寝起床の時刻を一定し、晝間は適度の運動を勤め又冷水摩擦を勵行させるのも宜いのです、ろの他演藝殊に近年著しい勢で流行して參りました性慾的な活動寫眞の觀覽を禁ずるとか、或は淫猥な讀物例へば戀愛小説の如きを禁じて聖賢の傳などを讀ませるとか、或は道德的の教育に依て劣情を抑壓するのも宜いのであります。

次に児童の精神能力を著しく減耗せしむるものは飲酒と喫烟であります、酒の中毒によつて身體及び精神の疾病の發することは申すまでもないことであるが、児童は成人に比べて抵抗力が一般に弱うございますから、飲酒より來る害も多大であります、身體に及ぼす害はさておきまして、精神に與ふる危害に就て一

例を申しますと、埃太利は維也納に於て、五百九十一人の小學兒童に就て、飲酒と學業成績との關係を調べた所が飲酒せない兒童の學業は佳良で、飲酒する兒童の成績は不良でありました。

學 科 成 績

| 飲 酒 量      | 佳     | 良     | 稍 良 | 不 良  |
|------------|-------|-------|-----|------|
| 全く飲酒せざる者   | 四一、八% | 四九、二% |     | 九、〇% |
| 時々 飲 酒 する者 | 三三、一  | 五、六   |     | 九、五  |
| 毎日一回 飲酒する者 | 二七、八  | 五、四   |     | 一三、七 |
| 毎日二回 飲酒する者 | 二四、九  | 五、七   |     | 一三、八 |
| 毎日三回 飲酒する者 |       | 三三、三  |     | 六、六  |

精神を健全に發達させますには、適度に使用すると同時に適度に休養させねばならぬことは、恰度筋肉の衛生に於けると同じ道理であります。精神の休養に最も大切なものは睡眠でありまして、吾々は目の覺めて居る間は絶えず精神を働かして疲勞を來たさせますが、睡眠すればその間に疲勞は恢復致します、で、すか精神を多く使用する程睡眠する時間を多くしなければなりません。睡眠が不足ですと精神は疲勞して種々の病氣を發しますし、さりとて度を過して睡眠すれば却て精神は遲鈍になります。そこで何時間位睡眠したらば宜いかと云ふに大人では大凡七八時間位が適當であるが、小兒では年齢によつて大に加減しなければなりません。例へば哺乳兒は生後一月位は少くとも二十時間の睡眠が必要であります、それですから目の覺めて居るのはほんの乳を飲む時位のものでその他は大抵眠つて居ります、それから満一歳位までは十五時間内外の睡眠が必要である、二歳三歳になりすと夜分十時間乃至十二時間眠らせ、外に二三時間午睡をさせます、四歳になれば午睡を廢させます、七歳になれば十時間乃至十時間半、十歳になれば九時間乃至十時間、十二歳になれば九時間、十四歳になれば八時間乃至九時間、十四歳以後は七時間乃至八時間の睡眠が適度でございます、勿論是は健康なる兒童が精神を適度に使用したる場合に要する睡眠時間でありまして、身體なり精神なり過度使用したる場合にはより以上の睡眠を要することは申すまでもありません。

衣 服 の 衛 生

衣服は主として寒暑風雨を防ぐ爲に用ゐらるゝものであるから、材料、仕立、其他衣服に關する衛生上の要求に戻らぬやうにすることが肝要であるにも拘らず、やゝともすれば外觀にのみ重きを置いて漫りに華美な衣服を纏ひ、衛生に就ては一向頓着しない方がございますやうに見受けられます、例へば西洋婦人の用ゐるコルセット、我國の婦人帯、支那の婦人靴、男子の革製腹帶、高いカラー、及び護謨製靴下止等の流行して居るのを見てもその大勢を察するに足ると思ひます。

御承知の通り衣服は身體の温を保ち同時に外より襲ひ來る炎熱を防ぐ爲のものであるから、この目的に適合する材料を以て作らねばならぬのは當然であります、即ち夏は太陽の炎熱や或は雨露を防ぐ目的でありますから、その炎熱やその雨露を受けぬやうな品で作へた薄い衣服が可いけれども、冬は體温を保ち寒氣や温氣に對して身體を護衛せねばなりませんから、温度や濕氣の不良導體を以て作つた衣服を用ゐねばなりません、それですから衣服の材料としては第一に毛織物が適當でありまして、その次は木綿織物

ろの次は絹織物ろの次は麻織物であります、毛織物は弾力に富んでゐるから軽くて空気を含むことが多い爲に體温の放散を防ぎますので大變温かである、ろの上毛織物は通氣性に富んで居りますので皮膚上の空気が外界の空氣との交換が容易く行はれますから、皮膚上に汚れた空氣の鬱滞するやうなことはありませんし又皮膚より出る汗や水蒸氣を吸収しますから皮膚面を傳うて汗の流るゝやうな不愉快も感じさせません、ろれに一旦吸収した水分を蒸發せしむることが徐々でありますから水分蒸發によつて起る體温の放散も極めて緩慢であります、こゝにいふ譯であるから冬期の衣服としては毛織物に勝るものはない殊にフランネル毛莫大小及びセルなどは理想的の冬衣であります、然し毛織物は度々洗濯します間に次第に毛が落ちますので効力が薄くなります、例へば毛莫大小のシャツも度々洗濯しますと温かさが減るやうなものであります、木綿は衣服としては到底毛織物に及ばないけれども毛布のやうに洗濯によつて効力の減ずることもありませんから日用品としては却て木綿を用ゐる方が得策であります、絹布は柔かであるが着心地はよいけれども衣服としての價値は木綿に及びませぬ、麻布は水分を吸収して速に蒸發せしめますから夏は麻布の衣服を着てゐると大變涼しく感ずるけれども冬の衣服としては適しませぬ。

處で毛織物がろれほど可いならば上から下まで残らず毛織物で作つて着せたら可さうに考へられますがろれは間違でございませぬ、肌へ直接觸れる襦袢まで毛織物で作りますと皮膚が毛の爲にチク／＼するばかりでなく、小兒の皮膚はまだ至つて軟弱でありますから、ろの刺戟の爲に爛れて濕疹を發します、ろれですから肌へ直接觸れる處の肌着にはフランクセルやメリンスなどの毛織物を用ゐることは禁物であります、成るべく地質の餘りよくない晒木綿の一度洗濯して糊を落したものをを用ゐるが可いのであります、そ

して肌着は幾枚も用意して置いて度々取換へ常に乾いた清潔なものを着せて置くやうにしたいものです、大便や小便のついた肌着を取換へもせずろの儘着せて置きませると腰の邊が爛れて濕疹を發すばかりでなく腹部が冷えます爲に下痢を起すやうなことがありますから肌着が汚れたら直ぐ取換へることを忘れぬやうにしたいものです。

ろれから衣服の作り方に就ても少し注意したいことがあります、ろれは衣服を寛かに作つて運動するに窮屈でなく又袖裾などの邪魔にならぬやうに輕便にすることゝ、もう一つは胸部や腹部を壓迫して肺心臓胃腸等の作用を妨げることのないやうにすることでありませぬ、ろれですから西洋婦人のコルセットや日本婦人の大帯は決して褒めたるものでありませぬ、殊に身體發育の未だ十分でない小兒に窮屈な着物を着せ帯紐類で堅く緊めるなどはその弊害實に恐ろしいものであります、一例を申しますと小兒の附紐でありますあの附紐で無暗に胸部を緊く縛りますと胸部に溝のやうな凹みが出来て小兒の發育上非常な害を來すものであります、ろれですからあの附紐も今少し下に附けて寛く縛るやうにしたいものです、次に衣服の長けは何の位が適當であるかと云ふと生後一年間位は足より五六寸長くして置くのが可いのです、餘り短くすると足が冷えます、併し一年以上も經つて歩行し得る時分になつても長い着物を着せて置くと歩行の邪魔になりますから適當に短く詰めねばなりません。

又衣服は氣候に應じて厚着でもなく薄着でもなく恰度小兒の身體に適當した度合に加減することが大切であります、處が世間の親達は多くはろの度合を通り越して、着せ過ぎる弊害があつて困ります、少し氣候でも寒いとソレ感冒をひかせたら大變だ、着せ過ぎて感冒をひかせることはないからなと、誤信して、

餘計に一枚も二枚も着せませぬ、併し着せ過ぎますと、却て皮膚は薄弱になつて抵抗力が減りますから、感冒をひき易くなります、然しさうかと申して、薄着に失すると云ふこともよくないことで、それこそ感冒をひかせ氣管支炎肺炎から肺結核肋膜炎を發せぬとも限りませぬ、薄着をさせると風邪を惹かせると云ふことは何處の親達も心得て居りますので薄着に失することは減多にございませぬが、然し入浴後湯冷のするのに氣が付かずに入浴前と同じやうに着物を着せて置きましたり、或は朝夕と日中の寒暖の氣候が著しく變化のある季節例へば秋の小春日や春先などのやうに日中は大分温かいが夕方になると急に冷やかく感ずるやうな折に夕刻になつても重ね着させることに氣が付かないで日中に着せて置いた儘の薄着にして置いて風邪を惹かせるやうなことがないとも限りませぬからよく注意せねばなりません。

皮膚よりは絶えず表皮が剝がれる汗や皮脂と一所に所謂垢となつて肌面に附くことは前にお話いたしました、衣服も亦永く着て居る内にこの垢が附きましたりそれを外部よりも塵埃や水分が附きますので自然汚れて参ります、ご承知の通り垢染みた衣服は皮膚を不潔にするばかりでなく又氣孔が塞がり通氣性に乏しいから、健康を保持する上に大なる害を與へるものであります、それですから皮膚を保護し身軀の健康を保つ爲には常に清潔なる衣服を纏はなければなりません、常に清潔なる衣服を纏ふにはしばしばこれを洗濯することが必要であります、その外衣には種々の微菌の附いて居ることがあります、例へば天然痘、麻疹、猩紅熱、實扶的里亞、腸室扶斯、結核、癩病などの患者の用ゐた衣服を着て病氣が傳染つたと云ふ話は随分多くありませう、それですから用所不明の古着などは完全に消毒した上でなければ用ゐてはなりません、又古着でなくとも日常小兒に着せてゐる衣服はしばしば日光に晒さねばなりません、日

光は一つの消毒薬と云つても可い位で大抵の微菌を殺す力を有つて居ります。

着物のお話は此の位にて止めて置きますが、序に帽子、襟巻、靴、寝具などに就ての注意を簡単に申しませう、帽子の小さいのは頭を壓迫して血液の循環を妨げるからどちらかと云へば少し寛かな位が可いのです、又重い帽子は頭を疲労させますから成るべく軽いのが宜いのであります、それから帽子の種類を避けなざることが肝腎でありまして餘り蒸すやうな質の帽子を冠らせませぬと第一皮膚の機能を鈍くし空氣の流通を妨げ腦病などを起す基となることになりませぬ、そこで夏時は縁の廣い麥稈帽子、冬時は少し編みの粗い毛糸の帽子などが一番良からうと思ひます、次は襟巻でございませぬが、冬期の極く寒い時に外出する場合などには用ゐるのも可からうけれど、學齡後の兒童には特別の場合の外は成るべく用ゐさせぬ方が可いのです、一體頸部は襟巻などを用ゐなくとも、皮膚面から放散する體温がドン／＼襟元に出て來ますので相當に温かいものであります、次に近年著しく靴が流行して参りまして、歩行も覺束ない小さい時分から靴を穿かせましたり又學校へ往くやうになりますと都會では男生でも女生でも靴を穿くものが少なくございませぬが、御存じの通り靴は足を強く緊めますのでその發育を害します、その證據には西洋人の足を御覽なさい、完全に發育して居るのは殆どないでございませぬか、これは云ふまでもなく小兒の時分から靴を穿いて育つたからであります、又支那の婦人は足の小さいのを美人の相として居りますので小兒の時分から極く小さい靴を穿かせ足を發育させないため成人になつても自由に歩行の出來ないと云ふ有様であります、さう云ふ譯でありますから小兒に靴を穿かせなざる時には足の寸法より少し寛く作らせ足の發達を妨げぬやう注意せねばなりません、終りに夜具に就て注意したいことがある、それは小兒を寢

かす時には成るべく軽いにして十分に暖かい夜具を着せることであります。夜具が重いと疲労を來たし又胸部を壓迫して呼吸運動を妨げるから熟睡が出来ない、若し又夜具が暖かでないで寝冷して感冒に罹り易いのであります。そこで夜具は一般に敷布団を厚く重ね掛布団を薄くすると軽く暖か可いのです。又夜具は衣服と同様極めて汚れ易いものであるから必ず敷布をかければ、是を洗濯すると共に布団も度々日光に晒らして消毒せねばなりません。

#### 住居の衛生

住居は一口に申しますと、吾々の身體財産を保護する一つの城廓でありまして茲に風雨寒暑を凌ぎ生活の娛樂を得るのでありますから、少くとも衛生的であつてほしい、然るに我國には昔から一種の迷信がございまして、住居を新築し或は移轉する折など、家相や方位に就ては十分調べるけれども、衛生上の事柄に至つては少しも意に留めぬ者があるが、かゝる古來の陋習は宜しくこれを一掃しまして衛生を標準として住居を選定するやうに致したいのであります。

住居はこれに住む人の身分や職業によつてその構造は無論一樣に出来ませぬが、然し衛生上から見るときは、何人の住居にしましたところで、空氣の乾燥、空氣の流通、日光の照射、寒暑風雨に對する防備、及び清潔等に注意を拂はなければなりません。そこで住居を選択しますには土地が高燥清潔で飲料水の善良な所に索めなければなりません。低い濕潤した所に住居を構へますと家屋内の空氣も常に濕つて居ります。この濕氣の多い所に住むのは健康上甚だ悪いので種々なる病氣に罹り易い、例へば感冒、氣管支病、癆瘵質斯、腎臟炎、肋膜炎などの病氣は高燥なる土地に棲む者よりも低濕なる土地に住居する人に多く發

るのであります。又濕潤したる土地にあつては種々の微菌の棲息するに甚だ都合であるから窒扶斯、肺結核、麻疹里亞などの恐るべき傳染病に侵され易いのであります。さう云ふ譯であるから家屋を建築する際には成るべく乾燥したる土地を選定することが必要であります。若し不得已事情があつて濕潤したる土地に住居を構へなければならぬ場合には、成るべく床を高くし折々床下の清潔法を行ひの跡に生石灰を撒いて濕氣を吸収させ乾燥を圖るやう心懸けねばなりません。次に注意すべきは空氣の流通と日光の射入であります。この空氣と日光とは健康を保つ上に最も必要でありまして、日光の十分に入り込まない、空氣の流通宜しくない家屋に棲つて居る人にはどうも貧血症、腺病、肺結核等の病氣が多いやうである。その一例を申すならば、大坂府の市部と郡部に於ける結核死亡數を比較して見ますと、明治三十三年より四十二年に至る十ヶ年の平均は總死亡百に對する結核死亡は市部にあつては男一五、女一七、五でありますのに、郡部に往きますと男七、三女八、七でありますから、郡部の方は市部の半數にも足らぬのであります。是は何う云ふ譯かと申しますと、それには種々なる關係がございませうが、住居の適不適に最も深い關係があるだらうと思ひます。即ち市部は郡部に比べますと人家が著しく稠密して居るので日光の射入が不充分で空氣の流通も宜しくない、詰り市部の家屋は郡部のものよりも著しく非衛生的である、是が市部に結核の多い大なる原因でなからうかと思ひます。これで空氣の流通と日光の射入との大切なることは解りましたが、併し空氣は單に流通するのみでなくその清淨なることも亦健康に必要であります。然るに空氣中には煤煙、炭粉、石灰、砂、木綿及び毛纖維、草木の細片等無機有機の細塵が混入するばかりでなく化膿菌、破傷風菌、脾脫病菌、實扶的里亞菌、インフルエンザ菌、結核菌等の恐ろしい微菌も浮遊し





とをお話して、其次に今日結核病が世の中に甚んに廣く傳播して居るか云ふことをお知せして、最後に結核病の豫防撲滅と云ふことに就て少しお話しやうと思つて居る次第であります。

私共實地醫家が毎日患者に接して診療に従事して居るときに、最も惻れに感じますは、最早治療の時期を失して如何とも救ふことが出来なくなつて居るやうな患者、殊にさう云ふ患者はごちらかと申すと貧民の患者に多いやうであります、斯う云ふ患者を見ましたときでありまして、入院させるには資力がありませんし、と云つて病氣の状態が、患者を宅へ歸す事を許さぬ事があります、かういふ場合に施療病院或は救療患者を入院せしめ得る組織の病院——例へば今私の居ります赤十字病院の如き——或はかういふ病院が附近にある土地に於ては左程困りませぬけれどもその便宜のない時には醫者として其處置に甚だ困るものであります、實際さういふ場合に遭遇する事も決して少くないものであります。

元々この貧民下級労働者の生活状態に就て調べて見ますと、皆様の御承知の通りに假令其個人々々の衛生思想が或る程度まで相當に啓蒙されて居りましても、其人の境遇の關係であるとか或は職業の關係であるとか或は資力の關係で、自分には悪いとは知りながらも非常な非衛生的且つ不良な状態で生活して居るのが多いのであります、例へば非常な汚い住居、殊に濕つばいやうな家で日光の入るのも少しいし空氣の流通も悪いと云ふやうな處に而も多人數が混同して住つて居ります、さう云ふ点から見ましても理論上病人が多くあるべき筈であります、又貧困な者が多少何處か身体の工合が悪るい、何處か病氣であるであらうと思つて居りましても自分の體の續く限りは家族の糊口のため、或は自分の生存のために醫者にも掛けられず働いて居ります、随つて身體は段々疲れて仕舞には殆ど勞働することが出来なくなつて来る、全たく

金が這入らなくなつて来る、さう云ふ風になつて来て初めていろ／＼な手段を講じて、醫者の處へ診療を受けに来るやうな次第であります、さう云ふやうな譯でありますから實際病人殊に重症患者は富貴な人よりは貧困者に多いやうに思はれます、西洋でも社會學者が調べた所に依りますと、生活程度と病氣に罹る數とは全く逆比例をして居りまして、貧困者に罹病數及び死亡數が多くて金持に死亡數が少い事は統計上明かな事實であります、其調べの標準としてはいろ／＼あります、が此處では其事に省いて置きまして、兎も角も實際に於て貧民に病人が多いと云ふことを皆さんに御含置きを願ひます、併し貧民に患者が多いと云ふても、救助を要するやうな貧民患者がどの位の數にあるかと云ふことを十分に調べると云ふことは、至難な事で到底一朝一夕に出来ることではありませぬ、殊に日本では未ださう云ふ調査が十分に出来て居らないやうに思つて居ります、曾て獨逸聯邦のバイロン王國で、貧困者にして救助を要する者が幾人ばかりあるであらうかと云ふことを調査して、その結果人口百人に就て三人一分乃至三人二分が救助を要する貧民の數であると云ふことを報告しました、此數が丁度歐洲全土に亘つて學者がいろ／＼の方面から推算しました數と殆ど一致して居る、從て歐洲全土に於ても人口百人に就て三人一分乃至三人二分と云ふ状態を救助すべき貧困者があると云ふことであります、それでありますから今歐洲全土の人口を四億二三千万と假定しますと歐洲全土に約一千三四百万人の救助を要する貧困者があると云ふことになり、風俗習慣或は生活状態が異つて居ります、日本に此歐洲の數を引用するは無理な譯であります、兎に角日本にも可なり多數の貧困者があると云ふことを認めねばならぬと思ひます。

今申上げましたのは貧困者の救助を要するものであります、この貧困者の中で救助を要すべき患者、

殊に疾病に罹つて居る貧困者がどの位あるかと云ふことを調べる必要がありませんけれども、是れと申しましても十分正確に調べると云ふことは難い仕事であります、それで此救助されるやうな貧困者がどうして貧困になつたか云ふ原因を、獨逸で調べたことがあります、獨逸に貧困者を救ふ救助原籍法と云ふ法律がありまして、滿十六歳以上の者が或る一定の場所に一年以上常住して其處で貧困になつた場合に、此の地方で救助されることが出来る籍を得ると云ふ法律であります、この救助原籍法を行ふべき地方に亘つて今申上げた貧困になつた原因を調べたことがあります、その時の調査に依りますと被救助者の二割八分四厘は自分自身の疾病のために救助されて居る、其次に二割七厘は扶養すべき人が疾病に罹つた場合或は死亡した場合、一割四分九厘は自分自身が老衰に罹つた場合、一割二分三厘は當人の精神或は身體の不具に因る場合、七分一厘は子供が多數過ぎると云ふやうな場合、五分四厘は職業を失つた場合、二分一厘が飲酒のため、一分二厘は當人が情弱のため、斯う云ふ調が付いて居ります。一般に貧民殊に労働者が自分の疾病に罹つたとき或は傷でも受けて労働が出来なくなつた場合に、自分の所得が一時的或は永久的に無くする譯であります、さう云ふ時に労働者は自分の今迄に貯へた貯蓄に依るか、或は家族又は朋友乃至は慈善心のある雇主或は慈善家の救助の何れかに依つて、その窮厄に處して往かなければならぬ譯であります、是等の救助が全く絶つてしまつた場合、未だ自分の身體が労働するだけに回復しない場合には已むを得ず、獨逸に救貧院と云ふのがありますが其救貧院の救助を顯出でなければならぬ譯であります、斯う云ふ風に自分が病氣であつたために救助される數が貧困者の約三分の一に近い程の數を占めて居る、其他の扶養者が疾病に罹り或は死亡したために、救助を受けると云ふやうな貧困者と兩方を合しますと、

幾ど全貧困者の半分を占むるやうな状態であり、斯う云ふ状態を見ましても貧民患者の救療と云ふことは一日も忽に出来ない、非常に緊急な事業であると云ふことが明瞭であります。

この貧民患者の救療に對する設備は西洋では大分發達して居るさうであります、それで現在の所では、貧困者には相當な救療方法が講ぜられてありますから疾病に罹つても左程困りませぬが、多少資産の有る者が病氣になつた場合に高い入院料を拂ふことが出来ませぬし、と云つて救療されるだけの資格が無いと云ふやうな譯で中産の者が却つて困つて居るやうな次第ださうであります、獨逸などでは此救療事業は凡る三通りの方法で行はれて居ります、第一には官費或は公費の救療、第二には私設の慈善團體の救療、第三には保險制度であります、今この三つの状態がどう云ふ風であるかと云ふことを簡単に申上げて見ますと、第一の公費の救療と云ふのは法律で定められてあります、一般の救貧制度に依つて貧困者を救助して、その貧困者が疾病に罹つたときに官費で自宅で療養させるとか、或は病院に收容して醫療を加へる譯であります、即ち公費の救療にも自宅で救療するものと病院に收容して救療するものと二通りあります、この自宅の救療と申しますのは、救貧局で救助すべき者が病氣になつたときには、その患者が自分の病氣の有様を當事者の方へ申出る、さうしますと救療証を交付して呉れます、又既に救助を受けて居るやうな者は特別に救療証と云ふものを貰はなくとも、今迄救助を受けて居た金の受取證この救療證或は受取證を持つて公共團體と一定の契約をして囑託されて居る救貧醫の處へ出掛けて往つて診て貰ふ、さうして藥が必要であれば處方箋を貰ふとか或は多少の處置が必要であれば處置をして貰ふ、この處方箋を持つて藥局に往つて無料で藥を調合して貰ふ、勿論處置も無料であります、其他目の悪い患者などは必要があれば眼鏡のや

うなものを給與される、又牛乳だとか肉汁だとかと云ふ濕養物が必要であればそれも無料で與れます、其他少し高價の種類のもの例へば義足義手或は脊隨病などで使ふコルセット、斯う云ふ高價のものは救貧局で診査して必要と認めれば給與して與れます、是は外來の診察であります、時には醫者の往診を要求することが出來ます、往診を要求しますと醫者が其要求に應じて患者の宅へ往きます、さうして十分の診察をする、その時に醫者は患者の住宅の衛生状態をも十分検査して悪い所は叮嚀に注意して與れる、それから妊婦などでは必要があれば産婆を派遣するやうなこともあります、或は重症の場合には看護人を派遣することがある、さう云ふ風に自宅で診療して貰ふことが出来るのであります。

今申しました救貧醫と云ふのは一定の契約で公共團體から囑託を受けた者であります、多くは開業醫であります、さうして其救貧醫が一定の區域を受持つて居る場合もありませんし、或は時には患者が醫者を自由に選擇する、自分の信用して居る醫者の處へ診て貰ひに往くと云ふやうな風に患者の選擇の自由に任して居る處もあります、それから又病氣の種類に依りましては特に専門家を要することがあります、さう云ふ場合には其専門家に臨時囑託をして治療させる、獨逸でも日本と同様に一般の開業醫は矢張り殆ど絶ての科目をやつて居ります、獨逸でも専門家とし、或る科目を標榜するには、一般の醫術を修め尙ほ特別の専門の科目を二年乃至三年或はそれ以上研究した者でなければ専門家と云ふことは標榜されせぬ、獨逸の大きい市では公共團體から一定の契約で普通醫と専門科醫とに囑託してありますから、特別に専門家を臨時に囑託する必要はありませぬが、小さい地方へ往きますとさうしても専門家を臨時に囑託する必要があります、これが自宅治療の概略であります。

次に治療されべき患者が病氣の種類に因り或は手術の都合に因りまして、救貧醫が入院させることが必要であると認めるときには醫者が救貧局へ其を通知する、さうしますと救貧局から一定の契約のある病院の病室が明いて居るか居らぬかと云ふことを調べて、さうして患者の最も便利な都合の好い病院を選擇して其處へ收容することにします、この入院治療と云ふことは患者の爲めには非常に重大のことです、西洋の學者が言うて居る所に依りますと、貧民患者の治療の目的を十分達するには町の内では人口千人に就て病床が五つ、それから市以外の地方では人口千人に對して病床が三つ、割合に病床が必要であるとの事であり、少し古ひ調査かも知れませぬが獨逸にさう云ふ病院が六千三百ありまして、其病床の數が三十七万ある詰り同時に三十七万人を收容しても構はないと云ふ程澤山あるさうであります。

第二には私設慈善團體の救療であります、歐洲諸國に於きまして貧民の救助殊に救療と云ふ事業は、昔は多くは宗教的倫理的觀念から行はれて來たものであります、その根本は確か猶太教の根本義に基いて居るものと思ひます、それで其教義に依りますと富者は其餘りを貧困者に施與すると云ふ義務がある、併し其義務と云ふものは富を富者に與へた所の神に對して行ふ義務である、さうして其神を代表するものが今の世の中では教會であると云ふので、直接に貧民に金を分配しないで教會に其金を納付する、さうして教會から適宜に貧民に分配させる、さう云ふ意味から宗教的の慈善團體が古くから行はれて居ります、今に至るまで引續き宗教的慈善團體が非常に多い、爾後一方には慈善家の寄付金に依て非宗教的慈善團體も追々と出來て居る様子であります、この私立の慈善團體は一定の資本を以て財團組織で成立つて居るものが多い様子であります、その他會員の贖金であるとか或は篤志富豪者の寄付金であるとかと云ふやうなも

ので出来上つて居るものも少なくない、けれどもいづれも一部分は公費から一定の補助を受けますから、慈善團體の基礎が益々鞏固になつて其事業も段々發達し、往く様子であります、併し此私設の慈善團體の救療と云ふことは、公費で救療を受くる資格のない無資力の者を救療するのでありますから、その救療の及ぶ範圍が寔に狭い、のみならず多くの慈善團體と云ふものは純粹の救療ばかりをやつて居ないで、大抵はいろ／＼な救濟事業の一部分として救療事業をやつて居ることが多い、随つて其及ぶ範圍と云ふものが非常に狭い譯であります。

第三に保險制度であります、この保險制度は貧民が病氣に罹つたとか或は傷害を受けた場合、或は年老ひて廢疾に陥つたとか云ふことで總ての救濟手段が盡きた場合の用意として即ちさう云ふ場合の豫防方法として、立法的に干渉して行はれた強制保險であります、この強制保險制度が定まる前には同業者例へば鑛山で働く坑夫であるとか或はいろ／＼な工場に使はれて居る者、或は建築業者さう云ふや、な團體が相互の共濟組と云ふやうなものを拵へて居りましたが、それは皆任意的の組合でありまして其組合に這入つて居らぬ者は少しも其利益を、けると云ふことがない、それでありましてから獨逸で今申上げたやうに立法的の干渉をした譯であります、それで此保險制度は初めは疾病保險、傷害保險並に廢疾保險と云ふ風に三つ別々に發表された制度であります、七八年以前に之を一つに纏めて所謂帝國保險條例と云ふものに總括してしまひました、この制度に就て簡單に申し上げますと

第一に疾病保險と申しますものは一週間以上契約をして労働をする總ての労働者、商業手工及びぶらの助手家庭工業に従事する者、或は山林田園に働く労働者、演藝場の従業者或は薬局の助手、或は婢僕、或は或る種類の事務員で一年の収入が二千五百マルク以下の者は當然この保險に加入すべき義務があります、この法律に據りますれば先程申しました従前より存在した種々の共濟組合の全體を其儘認容して居ります、さうして唯だ其組合の業務を遂行する條件を制定するに止めて居ります、それでありますから此疾病共濟組織にはいろ／＼な組合が出来て居ります、さうして其組合には夫々保險金庫と云ふものが設けてあります、この保險金庫が獨逸全體で二万三千以上ありまして、疾病保險に加入して居ります労働者が其収入の百分の一乃至百分の三を掛金にして居ります、さうして其掛金の全三分の二を労働者の方で負擔し殘りの三分の一を事業家の方で負擔して、その掛金を纏めて保險金庫の方へ入れて居ります、さうして労働者が一旦疾病に罹つた場合に此疾病金庫の金で加療することになつて居ります、併し其加療を受ける期限に相當の制限があります、今の所では確か二十六週間と云ふことになつて居ります、尙ほ疾病に罹つて業を休んで居る間は其業を休んだ三日目から疾病金と云ふ名で日給の二分の一乃至四分の三を給與されて居ります、さうして若し疾病のために死亡するやうなときには日給の二十日分或は四十日分までの埋葬金と云ふものを出して居ります、その他妊婦が分娩の前後八週間の間は矢張り日給の二分の一乃至四分の三の給與を受けて居ります、それは出産の前二週間と出産後六週間と云ふ規定になつて居ります、現在獨逸に於て此疾病保險に加入して居る者が約千八百万人程あると云ふことであります、この疾病保險の方は疾病に罹つた者を加療するのみならず近頃は疾病を豫防することに力を盡して、疾病金庫の金を豫防の有らぬるものに使つても宜いと云ふ規定になつて居るさうであります。

その次は傷害保險です、傷害保險も鑛山に働く坑夫或は總ての職工、建築業に従事して居る者、或は電

信郵便、航海、動力を使用する業に従事する者、或は運搬業、それらから或る種類の事務員で一年の収入が五千マルク(約二千五百圓)以下の者も之に加入する義務があることになつて居りますが、この方は被保険者が一文も掛金をする必要が無い、全部雇主或は起業家の方で其掛金を負擔して居ります、即ち一種の雇主責任方であり、是も同様に同業組合と云ふものを組織して居りまして、さうして澤山の組合の上に帝國保險局と云ふものを置いて全組合を監督して居ります、けれども此保險局は監督して居るばかりで各組合が自分々に作つた定款を有して居りまして、さうして保險局の認可を経て其定款に隨つて業務を遂行して居る譯であります、この同業組合の数が獨逸で百十五箇所以上もあるさうであります、さうして之に屬する被保険者が二千四五百万人もあるさうであります、是は被保険者が或る傷害を受けた場合に十三週間の間は疾病金庫の方から保護を受け、然も其疾病補給は五週間目から被害者の標準勞働額の三分の二に引上げ十四週間目から傷害保險の方が必要があれば入院させるとかして加療をすることになつて居ります、尙ほ此傷害のために不具になつたり或は癱疾になつた場合には、その勞働者の最近の勞働所得額の三分の二を給することになつて居ります、さうして又若し死亡したときには特別に埋葬金をやると云ふやうな細かい規則が出来て居るさうであります、英吉利でも此獨逸の雇主責任法の少し嚴重になつたやうな或る勞働賠償法と云ふやうな法律で、この傷害の保險をして居ります、佛蘭西でも國立老年共濟組合と云ふやうなものを造つて之に似寄つたことをやつて居ります、

次に老癱保險であります、この老癱保險と云ふのは年を取つて衰弱したため、或は疾病其他の原因で全く癱疾に陥つた場合に之を救助すると云ふ目的であります、是は總ての勞働者は勿論であります、教

師教員に至るまで荷も人に使はれて居つて、さうして一年の収入が二千マルクより下の者は全部之に加入する義務があります、今獨逸では加入する義務を有して居る者が一千五百万人、幾ど全國民の四分の一に達して居ります、その他或る事務員で一年の収入が二千マルクから三千マルクの間にある者は、任意に之に加入することが出来るやうな組織になつて居ります、この保險所が獨逸で約三十一箇所と其他に特別金庫が十箇所あります、この保險に依りますと二百週間以上掛金をした者が何かの原因で癱疾に陥つた場合には、その掛け金の高或は年限に因て一定の年金を呉れることになつて居ります、それで若し死亡したときには其の家族或は寡婦或は孤兒等の爲めに勞働者の貰ふべき並の幾部を給與すると云ふやうな組織になつて居ります、若し年取つた老齡の爲めに衰弱した時分には、千二百週以上掛金をしてさうして七十歳以上になつた場合には一定の年金を給することになつて居ります、この保險も癱疾に陥る豫防のために非常に力を盡して居りまして、肺結核その他慢性の病氣で癱疾に陥り易い病氣は早期の診断をして、さうして特別金庫の方で建て、ある療養所の内に收容して早く治療を加へてやつて、癱疾に陥らないやうに豫防して居ります、その他此の老癱保險に於きましては細民の家屋住宅の改良と云ふことに非常に努力をして居るやうな様子であります、英吉利や佛蘭西でも此の老齡の爲めに衰弱に陥るのに對して種々なる方法で年金を給することになつて居ります、

それで此の戦争前の最近の報告に依りますと、獨逸の人口が約六千万人あるとして前述の三つの保險の中の何れかに這入つて居る者が約三千八百万人、残りの二千二百万人の中で千二百万人が通常保險に加入して居るさうであります、でありますから國民の約六分の五と云ふものは何かの保險に加入して居る、さ

うして或る困窮の場合にそれに處する所の方法が講ぜられて居りますから、保険の目的は殆ど十分達せられて居るやうであります、でありますから爾後は疾病金庫の費用を以て疾病豫防のあらゆる目的に使用される様になつて居ります。

斯う云ふ三つの保険の爲めに労働者被保険人が自分が貧困であると貧困でないに拘らず、或る疾病等の爲めに労働が不能になつた時に當然一定の救助を受ける権利を得るものでありますから貧民なる事を認容されて后初めて救助を受くる救貧制度とは自ら趣を異にして居ります、従てこの保険は、被保険者の爲め自覺心を高め人生並に労働を愛し、欣んで労働に従事すると云ふやうな有様でありますし、又一方に老廢保険などがありますために非常に貯蓄心が盛になつて来る、例へば斯う云ふ組織が無い場合には纔に労働で得た金を假りに貯蓄しやうと思つても、微力にして貯蓄し得ないのを嘆ずるか、或は其額少く將來の窮乏の際に十分に療養するだけの貯蓄が出来ない、爲に全然貯蓄心を起さない事もありましようが斯う云ふ組織がありますと假令其額が少くても自分の貯蓄とそれから斯う云ふ組織から得た救助を兩方併せて、自分の窮乏の際に處することが十分であると云ふ觀念が起きますから、非常に貯蓄心を増進すると云ふ利益があります、けれども斯う云ふ保険があるために種々なる慈善的の救療と云ふものが決して不必要に陥ることは無いのであります、それは獨逸などのいろ／＼の團體或は内務省などの調査に依りますと、斯う云ふ保険組織が出来てから貧民救助のために支出する経費が却て年々増加して往々有様であるさうであります、と云ふのは是等の労働保険の救助も全部の労働者に普遍的に普及する譯にはいかない、例へば子供が餘りに多いとか或は疾病が餘り長い間續くとか、或は廢疾に陥つた者或は老齡の者が疾病に

罹つたと云ふ様な場合には、労働保険も十分に効果を現はす譯にいかぬ次第であります、従て斯う云ふ場合には貧救制度或は慈善團體の救療が必要になつて来る次第であります、それのみならずこの保険制度は國民一般の健康を保持するに非常な効果があります、それは前にも申しましたように組織的救護の設備がない時には、労働者が病氣となりました時全々労働不能と云ふ重態になつて初めて業務を停止する風がありますから、どうしても治療が手後れとなり易いわけですが、保險的救護の途が確かである場合には、病氣或は傷害の際に速に適當の治療を受くる事が出来ますから、其の健康を恢復する事が容易なわけです、その上に保險金庫から出費して、労働者住宅の改良、建築、病院、保養院、平民救護所、平民浴場、水道設備、排水設備等種々の設備をなし、或は衛生上注意事項の印刷配布とか通俗衛生講話とか傳染病に罹れる者の住宅の消毒とか種々の方面に向て疾病豫防に盡力して居ますから國民一般の保健に對し多大の効果があります。

然し一方に於ては此の保険の爲めに生ずる弊害と云ふものも全く無いと云ふ譯にはいさませぬ、例へば病氣でない者が疾病の救助を受けやうと思つて病氣であると申立てたり、或は最早病氣が癒つて居るにも拘はらずまだ病氣であると言ひ立て、疾病金を受取らうとしたり、或は醫者の處方を濫用するとか種々労働者を怠惰ならしめ、欺騙心を増長せしむる様な弊害が必らずしも無いとは言はれませぬ、殊に獨逸では年金ヒステリーと申しまして一種の病氣が認められて居るやうであります、と云ふのはいろ／＼な手段を施して此の年金を貰はうとする、それが爲めに労働者がヒステリーに罹ると云ふことを言つて居る程であります、それから又貯金の掛金を騙取しやうと云ふ悪心を起す者もあります、併ながら斯う云ふ弊害はど

うかき云ひますと、人民の教育文化の程度殊に社會の懲罰力だとか一方は醫者の嚴重の監督權、當局者の努力等に依て出来るだけ小さくすることは必ずしも不可能でないと思つて居ります。

斯う云ふ風に先進諸國に於ては公費の救療或は私設慈善團體の救療及び保險制度と云ふやうな三つの組織が互に相俟ち相助けて、さうし救療事業と云ふものが殆ど完全の域に達して居る次第であります。勿論斯う云ふ大きい事業と云ふものは其の一つ或は二つの施設で十分完成されるものではありませぬが、我國の狀態を見ますと實に寒心に堪へない次第であります。日本ではまだ十分な救貧制度と云ふものは出来て居りませぬ、また保險制度と云ふやうなものも出来て居りませぬ、漸く來月の一日から御承知のやうに工場法が施行されます。此の工場法により職工の疾病或は傷害の際にも企業家或は工場主の負擔すべき義務は可なり重大でありますから、職工に對しては非常な恩惠ではありますが、是れとても其及び範圍は僅かに工場に務めて居る一部の勞働者に過ぎないやうな次第であります。其他鐵道院だとか或は私設の鑛山或は工場と云ふやうな處で、丁度獨逸の共濟組合みだやうな組織をやつて居る所もありますが、未だ是れとても僅かな數に過ぎませぬ、次に日本に於きまして公費或は私費で救療をして居る狀態は、どんな工合であるかと申しますと、大正三年に統計局で調べたものに依りますと公私立で純粹の施療病院が日本に十七しかないさうであります。此の十七の全部の病床數が外國人の經營するもの四つを入れて千八百に過ぎませぬ、さうして病院で收容した患者の總數が八千五百六十七人と云ふ僅かな數字であります。しかも其内六百七十二人は自費並に委託患者であります。延日數としても大凡四十万日で外來患者は二十八万六千二百十九人で其延日數が、百十九万〇五百六十六日であります。其他は施療病院でなくて公立の一

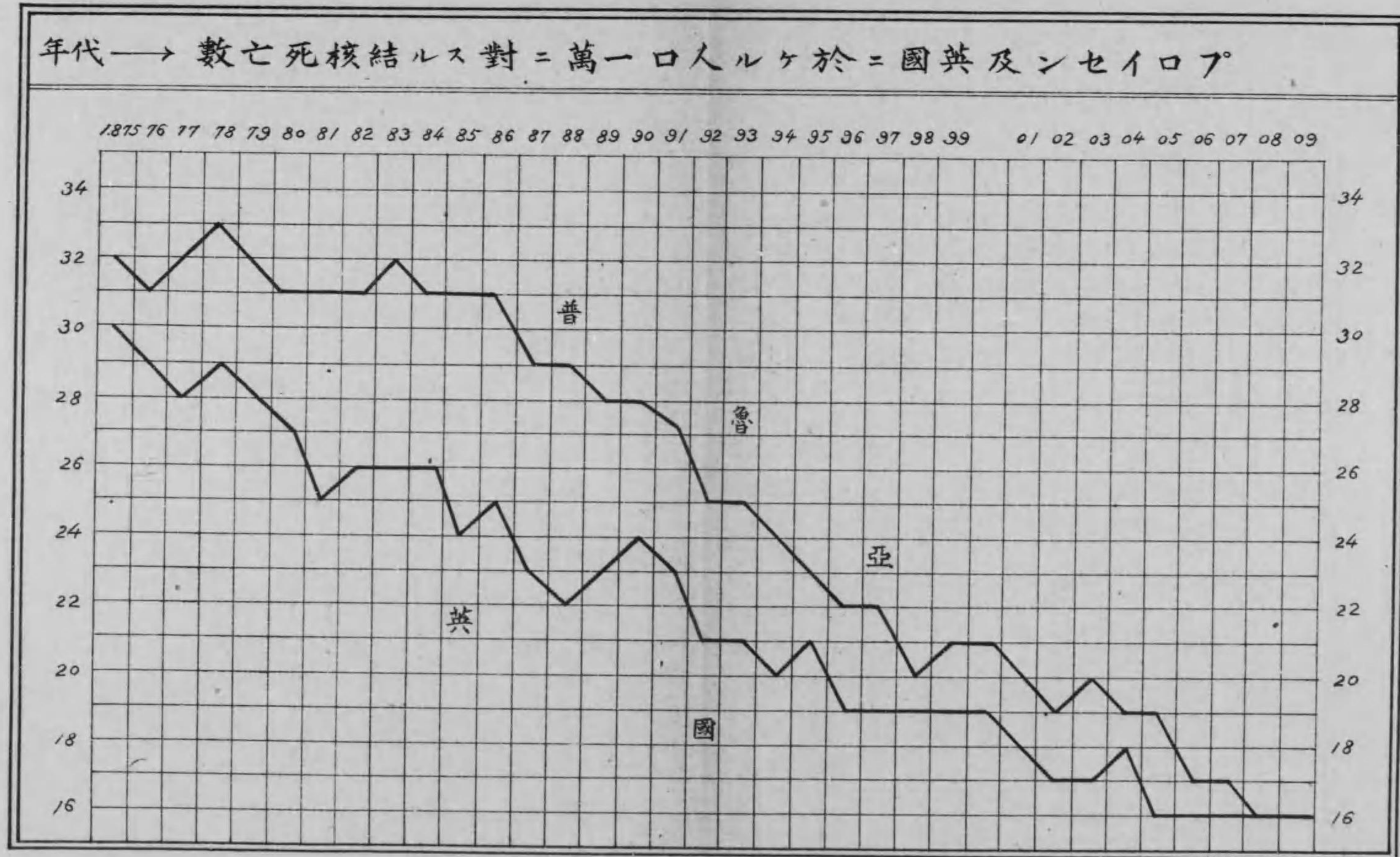
般病院でも多少の數は救療して居りますが、是れとても極く僅かの數で入院患者が二千二百五十七人に過ぎないと云ふ有様であります。この公私の施療病院の中で最も大きいのが東京の巢鴨の精神病院で病床四百四十六を有して居りますが、是は特種の精神病者ばかり入れると云ふ組織であります。さう云ふ風に施療病院と申しても必ずしも一般患者に普遍的なものではありませぬ。その後本年でありますか濟生會で東京並に大阪に病院を建て、居ります。濟生會の病院は確か芝と麹町と兩方合せて病床數が二百に足らないと思つて居ります。大阪の濟生會の病院も病床が約八十位だと思つて居ります。北海道に於きましてはどうかと申しますと純粹に施療をして居るのが七十の病床數を持つて居る小樽の慈惠病院があるのみであります。其の成績を見ますと明治四十二年より大正二年まで五ヶ年の一年平均收容數二百九十一人外來延人員一万一千六百九十五人に過ぎず、大正三年に於きましては收容人員九百三十四人と云ふ有様であります。此外に一般の救濟事業例へば育兒事業を爲すと云ふ傍ら一部分救療事業を爲して居るものもありまして、さう云ふのが本道に確か二十二ありますが、それは救濟の本統の目的が他にありますから救療事業としては徹々たるものゝやうに思つて居ります。日本で一番大きい設備にて行つて居りますのが先程申した濟生會であります。これは明治天皇陛下の御下賜金を資金として尙ほ地方の有志から義捐を募つて財團法人を造つて居るものであります。此の濟生會は地方府縣に一定の配付金をしまして、さうして地方長官の監督の下に施療券を警察或は市町村の役場に渡して、地方の病院或は開業醫に委託して患者を救療し東京並に大阪には病院を建築して救療に従事する外各區に診療所を設け且つ一方巡回診療により醫師並に看護婦を派遣し病床に呻吟せる貧困患者に施薬をなすなど段々救療する、範圍が擴つて來まして、



其事業は年々著しき發展をしてゆきますが、現在の所では未だこれのみでは十分でないと思ひます。其他大學病院或は専門學校の附屬醫院で學用患者として施療患者を收容しますが、是れとても僅かの數にしか満たぬ有様であります。我が日本に於きまする救療事業は斯う云ふあはれな状態でありますから私は皆様の努力に依て此の事業が殆んど完成の域に達するの日は一日も速ならん事を望む次第であります。救療事業に就てはんの概略を申上げたばかりで甚だ簡單に失して居りますが此の位に止めて置かまして

次に結核の豫防撲滅の事を少しお話したいと思ひます。その前に、現今日本に於て結核がどう云ふ風に蔓延して居るか云ふことを少し調べて見たいと思ひます。勿論是は各方面から十分調査しても尙正確を期し難いものでありますけれども、ほんの蔓延の状態を知るために此處に表を出しました日本では結核で死亡する者がどんな風であるかと云ふと(第二表)明治三十四年には人口一万人に就て結核で死した者が一三、八七でありましたものが十年後の明治四十三年には二二、三七と云ふやうな驚くべき増加率を示して居ります。之を今歐洲殊に英吉利と獨逸との状態に對比して見ますと、(第一表)上にある黒いのが獨逸の内の普魯士でありまして下が英吉利であります。是はカイゼルリングと云ふ人の圖から取つたのであります。一八七五年に獨逸では人口一千万に對して三二、英吉利では三〇、と云ふ死亡數でありましたものが三十年後の一九〇九年には一六と云ふやうな減少を示して居ります。日本と丁度反對の状態であります。英獨では段々減少して往々に拘らず日本では段々増加して參ります。誠に寒心に堪へない次第であります。是は一方結核で死亡する者が多くなつたのも勿論でありませうが、一方に於ては醫學の進歩のため従來診斷不明で死亡した者が、最近結核であると云ふことが分つたと云ふやうな關係から死亡數が殖ぬ

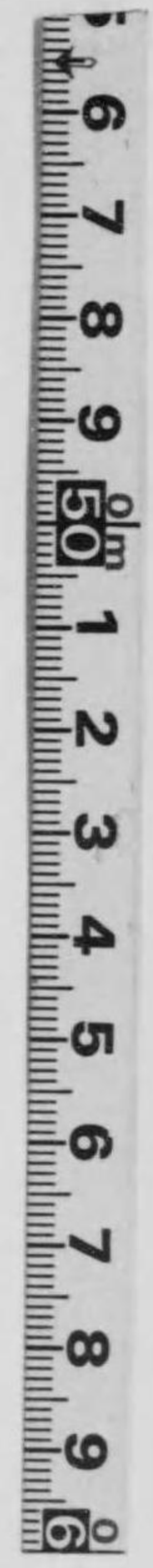
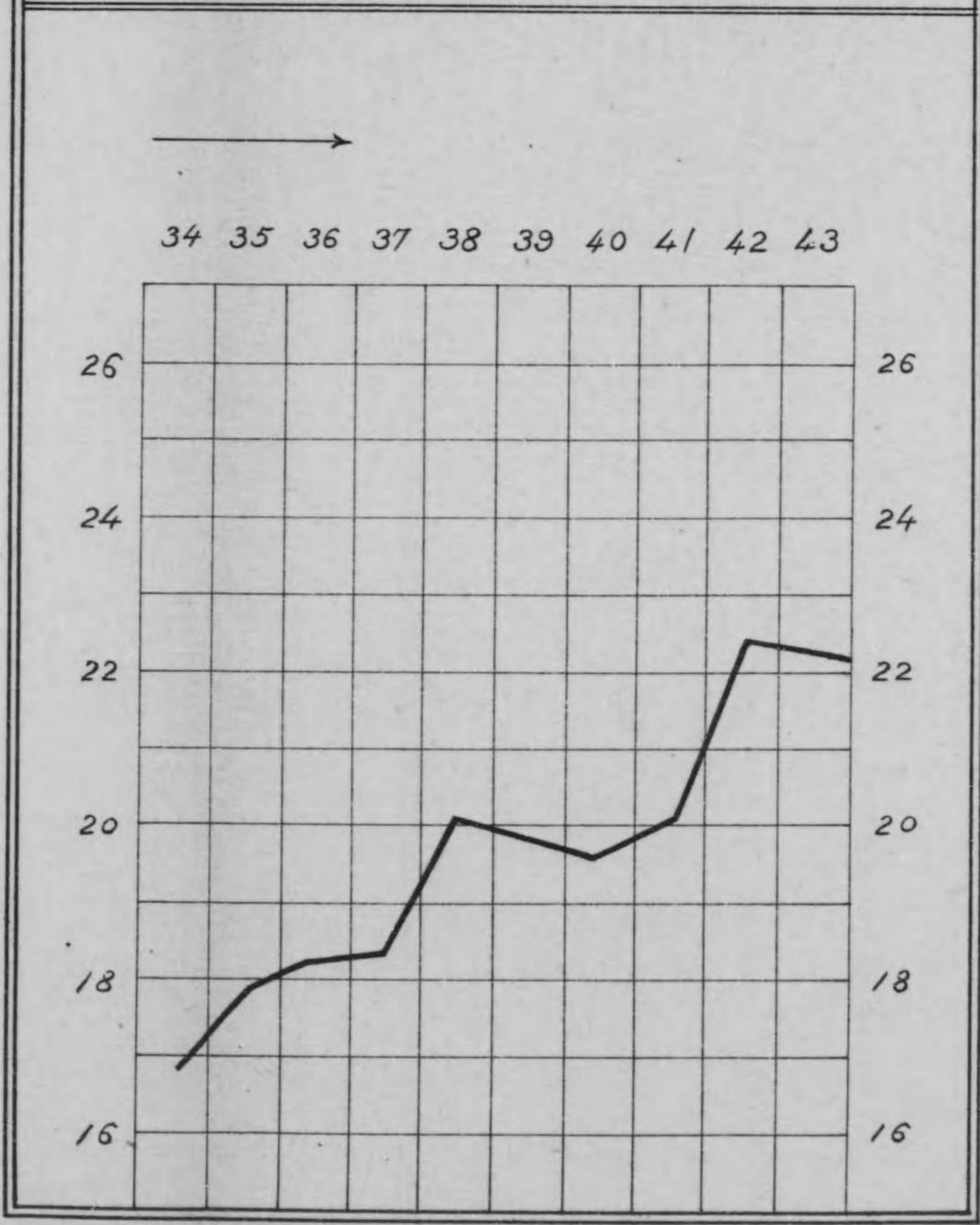
表 一 第



死亡する者がどんな風であるかと云ふと(第二表)明治三十四年には人口一万人に就て結核で死亡した者が一三、八七でありましたものが十年後の明治四十三年には二二、三七と云ふやうな驚くべき増加率を示して居ります、之を今歐洲殊に英吉利と獨逸との状態に對比して見ますと、(第一表)上にある黒いのが獨逸の内の普魯士でありまして下が英吉利であります、是はカイゼルリッヂと云ふ人の圖から取つたのであります、一八七五年に獨逸では人口一万人に對して三二、英吉利では三〇、と云ふ死亡數でありましたものが三十年後の一九〇九年には一六と云ふやうな減少を示して居ります、日本と丁度反對の状態であります、英獨では段々減少して往々に拘らず日本では段々増加して參ります、誠に寒心に堪へない次第であります、是は一方結核で死亡する者が多くなつたのも勿論でありませうが、一方に於ては醫學の進歩のため、最近結核であると云ふことが分つたと云ふやうな關係から死亡數が殖む

表 二 第

ルケ於ニ本日  
數亡死核結ルス對ニ萬一口人



たのであらうと思ひます、併し日本では斯う云ふことを考へなければなりません。

従來或は現在でも日本に於きましては多くの人が結核(肺病)と云ふものは傳染病でなくて全く遺傳病であること云ふことを考へて居ります結果醫者が患者殊に死亡診斷書を出すときに結核と云ふことを發表することを非常に恐れる場合があります、甚しきは結核であると云ふことを申しますと、其の醫者が患者の宅から出入を差止められると云ふ憫れな状態にあることがあります、それでありますから實際肺結核で死んでも慢性の氣管支加答兒であるとか或は肋膜炎であるとか或は肺炎であるとか、いろ／＼外の病氣で死亡したと云ふ届出を爲すものが往々あると思ひます、故に結核による實際の死亡数は統計よりもより以上多數にあると思つて居ります、此の死亡数から見まして、生きて居る者で結核に罹つて居る者がどれ位あるであらうかと云ふことを計算するのは甚だ難いことであります、歐洲の學者の説く所に依りますと、普通結核で死亡した者一人に就て生存して居る結核患者が約三倍乃至三倍半、ごく輕症の初期の者まで入れれば七倍乃至七倍半の生存者が結核を持つと云ふ割合であるとの事であり、日本では實際に於て結核の發表が少いとすれば、死亡者一人に就て生存して居る患者が歐洲よりは多いと考へて宜いと思ひます、内務省の野田醫學士などは死亡者一人に就て生存患者が十人あると見ても差支ないと云つて居られます、併し此の病氣を持つて居つても必ずしも全部が傳染を來すと云ふ危險を持つて居る譯ではありません、一般にこの患者の約三分の一が傳染の危險を持つて居ると見て差支ない事實であります、やありますから今日本で結核殊に肺結核で死亡する者が一年約八万人あるとしますると、肺結核に罹つて居る者が日本中に約八十万人ある筈であります、其の中で約三分の一即ち三十万人足らずの人が盛に病毒を世の中に傳播し

て居ると云ふ状態になります。

表 三 第

表別性び及齡年の亡死核結肺るけ於に邦本

| 種 別       | 男    | 女    | 計    |
|-----------|------|------|------|
| 滿一年迄      | 三〇四  | 三〇三  | 三〇三  |
| 一年以上滿二年   | 一三八  | 一一六  | 一一八  |
| 二 年—三年    | 一四五  | 一四〇  | 一三二  |
| 三 年—四年    | 一七一  | 一八〇  | 一七八  |
| 五 年以下合計   | 七二   | 七三   | 七二   |
| 五年以上滿十年   | 四〇五  | 六七二  | 五三六  |
| 十 年—十五年   | 一〇八二 | 一三三二 | 一八〇八 |
| 十五 年—二十年  | 二七〇  | 三三〇  | 三〇七  |
| 二十 年—二十五年 | 二七六  | 二五七  | 二六二  |
| 二十五 年—三十年 | 二九六  | 二七六  | 二七三  |
| 三十 年—三十五年 | 二四二  | 二七九  | 二六〇  |
| 三十五 年—四十年 | 一九九  | 一六〇  | 一七八  |
| 四十 年—四十五年 | 一六二  | 一四〇  | 一四八  |
| 四十五 年—五十年 | 一三三  | 一三五  | 一三四  |
| 五十 年—五十五年 | 一〇五  | 九〇   | 九七   |
| 五十五 年—六十年 | 七七   | 六〇   | 六八   |
| 六十 年—六十五年 | 五一   | 三五   | 四四   |
| 六十五 年以上   | 六〇   | 二五   | 三三   |
| 不詳        | 二二三  | 五七   | 三五   |
| 合 計       | 七〇二  | 七四七  | 七二二  |

此處でもう一つ結核殊に肺結核で死ぬ者がどんな年齢で死ぬ者が多いかと云ことを調べて見ますと、歐洲では肺結核で死亡する者が六十と七十の間が一番多くて、年齢が若くなるに随つて段々死亡率が殖つて往く、でありますから六十歳乃至七十歳で死ぬ者が一番多い筈になつて居りますが、日本では反對であります、第三表年齢十五歳乃至二十五歳の間に結核で死亡する者が一番多い、西洋では年を取つた者が死亡が多いのに日本では若い者死亡が多い、殊に青少年の活氣に富んで居るべき年齢に死亡する者が多いと云ことに就て吾々は決して雲煙過眼すべからざる事と思ひます、此の青年期或は少年期に死亡する者はどうかと云ふと核結と云ふ病氣の性質より考へて見ますとこの傳染した時は恐く少年の時代或は幼年の時代であらうと思はれます、と云ふのは結核に傳染してから死亡に到るまで時として非常に急速の経過を取ることもあります、多くの場合は數年或は十數年の後に初めて死に到るもので、非常に慢性の疾患であります、それでありますから青年或は少年期に死亡した者は恐く少年期或は幼年期に傳染して、さうして慢性の状態を取つて漸次重症に陥つてゆくか或は一時潜伏して居つた者が新しく其の病を爆發増悪して、竟に青年期少年期に死亡するに到るのであらうと思ひます、つまり幼少年期に於きましては結核に傳染して居ましても臨床結核の症候が現はれないのであります、これは一般に年が若ければ若い程結核に傳染し易いけれども、一方に核核に對し抵抗力も強いと云ふ事で、年を取るに従つてその傳染性も減するが、抵抗力も減少する、從

て年を取つてから一旦結核に傳染しますると、比較的重症即肺結核となり死亡する者が多いのであります。この事實は種々の調査によりまして明かな事であり、福岡の伊東博士もこれに就て十分御調べになつて居りますが、學齡兒童に、ツベルクリン注射と云ふ方法で結核に傳染して居るか否かを檢しまするに、兒童の大約半數は結核の反應が現はれるのであります。これ即ち一見健全に見えても實は結核に傳染して居る證據であり、只外見上結核の症候が出ないか或は所謂腺結核と云ふ状態を呈して居るのであります。然し普通の大人でも結核に罹つた事のある者が決して少なくない事は、いろ／＼屍體解剖のときに見出すものでありまして例へばブルクハルトと云ふ人が千二百八十六人の屍體を解剖した中に其の中で九十一プロセントは身體の何處かに結核があつたと云ふことを證明が出来ると云つて居ります。又エーゲルと云ふ人が五百の屍體を解剖した中の九十五プロセントは身體の何處かに結核あつたと云ふ、是は極端の例であり、諸方の統計に依りまして、大人でも少くとも三分の一以上は何處か嘗て結核に罹つたと云ふ残りが解剖に依て見られると云ふことは一般に認められて居るやうであります。併し此所で御断りして置きたいのは此の結核の病竈があつたと申しまして必ずしも全部結核に依て斃れたものではない、中には全く結核の病巢が十分治癒に赴いて居ると云ふ状態にあるのが往々ある事であり、こう云ふ種々な調査によりまして大人にしる小兒にしる多くの者が結核に傳染し菌を携帯して居ると云ふ事と肺病と云ふと雖しも癒らぬと思つて居りますが、適當な條件の下に治療すれば必ず癒り得る病氣である事が分明になるのであります。

第四表

| 北 海 道 結 核 病 死 亡 者 人 口 對 照 表 |         | 年 次     | 人口一萬ニ對スル<br>結核病死亡者率 | 一般死亡千中ニ於<br>ケル結核病死亡者 |
|-----------------------------|---------|---------|---------------------|----------------------|
| 明 治                         | 三 十 六 年 | 一 五 〇 四 | 八 〇 二 〇             |                      |
| 同                           | 三 十 七 年 | 一 六 〇 〇 | 八 三 三 三             |                      |
| 同                           | 三 十 八 年 | 一 九 六 二 | 一 〇 一 一 七           |                      |
| 同                           | 三 十 九 年 | 一 六 八 七 | 九 六 三 七             |                      |
| 同                           | 四 十 年   | 一 六 八 八 | 九 二 五 八             |                      |
| 同                           | 四 十 一 年 | 一 八 四 二 | 九 三 四 四             |                      |
| 同                           | 四 十 二 年 | 一 七 八 七 | 九 〇 二 一             |                      |
| 同                           | 四 十 三 年 | 一 七 七 一 | 八 八 一 九             |                      |
| 同                           | 四 十 四 年 | 一 六 六 八 | 八 七 三 八             |                      |
| 大 正                         | 元 年     | 一 六 三 四 | 八 三 九 四             |                      |
| 十 個                         | 年 平 均   | 一 七 一 四 | 八 九 六 八             |                      |

備考、本調査ハ現住人ノ同病死亡ヲ現住人ニ對比シタルモノニシテ原籍人ノ對比ニアラズ

第四表は北海道に於ける結核病死亡の状態であり、本道現住人の死亡から計算したものであります。北海道に於ける結核病者の死亡状態は人口一方に對して明治三十六年には一五、四でありましたが大正元年には一六、三四と云ふ數に増加して居ります。先程の日本全體の成績から見ますると餘程成績が良くなつて居ります。下にあるのが一般の死亡者數で此處にあるのが結核で死んだ者の數であります。これで見ますると十箇年間の平均が一般死亡數千に對し結核死亡數八九、六八約九〇、で一割に近い、さうすると

死んだ人が十人の中で一人は結核で死亡したと云ふ状態であります、一般の死亡者と結核死亡者との率は凡う日本全體も之に似寄つたものであります、それから一方に注意しなければならぬのは此方の年齢別であります、十五歳乃至二十歳の所では婦人の死亡者が非常に多い、是にも多少の原因はありますがさう云ふ事は今此處で申述べるには時間の餘裕がありません、兎に角日本のみならず世界各國に於て斯う云ふ風に結核病が人類に甚しく廣く傳播して多くの死亡者を出して居ります、此の恐るべき結核病をどう云ふ風にしたら之を撲滅することが出来るか、どう云ふ風にしたら豫防が出来るであらうかと云ふことの考究は一日も忽にする事は出来ない急務であります。

皆様既に能く御承知の通り此の結核病と云ふのは結核菌の傳染に因て起るものであります、そこで此の世の中から結核と云ふ病氣を全然無くしやうと云ふのには、勢ひ結核菌を全く此の世の中から無くすれば宜い譯であります、けれども此の非常に小さい殊に廣く分布されて居る結核菌を全然無くすると云ふことは殆ど不可能のことであり、が此の結核菌の性質を考へて見ますと、結核菌と云ふものは動物の體內では盛に繁殖する性質を持つて居りますけれども、動物體外では適當な條件の下に纔に生存し得ることが出来るばかりで繁殖は致しにくいものでありますから一方では從來動物體外に散布されて居る結核菌を出来るだけ少くして、さうして是が動物の體內へ這入れば繁殖しますから、出来るだけ動物體内へ入れないやうな方法を講ずることに努め、他方では動物體内に存在して居る結核菌を出来るだけ動物體外に出さぬやうに努める、斯くすれば自然結核と云ふものが少くなる譯であります、動物體外にある結核菌を出来るだけ少くすると云ふことは、詰り結核菌が生存するに必要な條件を除いてやる、例へば家屋を改良したり

或は不潔を除くと云々やうな方法を執り、一方には國民全體の衛生思想を發達せしめ殊に結核菌の傳染徑路即ち云ふ風にして結核菌が傳染するかと云ふことを知らすれば、各個人が其の豫防に十分注意を拂ふことが出来る譯であります、此目的の爲に或は通俗講話會を開くとか、或は衛生展覽會を開くとか、或は印刷物を刊行して汎く配布するとか、結核相談所と設けるとかいろ／＼な方法を講ずる必要があります。

次に動物體内殊に人間の體内にある所の結核菌を出来るだけ體外へ傳播させないと云ふ方法の一として結核患者を出来るだけ隔離してさうして出来るだけの治療方法を講じてやる事が最も必要であります、それで此の結核患者を隔離治療する目的のために、肺結核の療養所と云ふものを特別に設ける次第であります、けれども此の結核患者を全部隔離すると云ふことは殆ど不可能のことであり、殊に結核に罹つて居る者を醫者が診ても臨床ト結核であると云ふ證候の現はれないこともあり、或は又極く初期輕症の中は自分が結核に冒されて居ると云ふことを少しも知らない、且まだ十分活動することが出来ること云ふやうなこともあり、此等の者を全部隔離收容すると云ふことは到底不可能の事であり、殊に貧民者などで患者の扶養に俟つて始めて生活して往くやうな家族がありません、其の患者が十分活動力を有するに拘はらずこれを隔離すると云ふことは甚だ家族の爲めに迷惑な次第であります、斯くの如き場合には家族の扶養方法にも注意をしなければならぬ事になります、結核患者の重症の者は多くは醫者に罹りますから、立法的の干渉をして、醫者にその告發的義務を負はせることにすれば隔離することが出来ぬとも限りませぬが、今申しましたやうに輕症な者は發見することが容易に出来ませぬし、縦し發見しても活動的能力の有る者を全然隔離することは難い次第であります、斯くの如く結核患者を全部隔離することが出

來ぬとすれば、最も傳染の危険性を帯びて居る事柄に非常な注意を拂はねばならぬことになるのであります。

結核の傳染に最も危険なのは肺結核患者の排出せる咯痰であります。此の痰は濕つて居る間は割合に傳染の危険が少いけれども、乾燥して飛散すると非常に傳染性の危険が多くなりますから、出来るだけ此の咯痰の排出並に取扱ひに就て注意しなければなりません。街路の上に咯痰を全然排出してはいけないと云ふやうなことは一朝一夕にして行はれることでありませぬし、幸に街路の上に吐いた咯痰は傳染性の危険が割合に少いと云ふのは街路に咯痰をしてもそれが乾く際に一方日光の直射に遭つて結核菌が生存し難いでありますから街路の上の塵芥の中からは生存して居る結核菌を證明することが困難であります。若しこれが日光の直射に遭つて死ななければ又は雪のために洗ひ去られて下水の中に流れ込む、さうして濕つて居る間は割合に傳染する危険が少い爲であります。然し危険が少いと申すしても街路に痰を吐くと云ふことは決して宜いことではありません。各自出来るだけ謹まなければなりません。けれども室内殊に床の上のように日光の直射しない場所では乾燥後飛散し危険なる爲かゝる場所に咯痰をすると云ふことは非常に注意しなければなりません。此の咯痰は必ずしも重症患者のものが危険な譯ではなく、微候のない初期輕症患者の咯痰の中にも結核菌が存在して居ますから、醫者に肺結核であると宣告された者でなく自分は健康であると思ふ人でも吾々皆常に此の床の上などに咯痰をすると云ふことは注意しなければなりません。さればと云つて一旦口の内へ出て來た痰を飲み込むと云ふ事も往々腸結核の原因となりますから、是亦避けねばなりません。又咯痰の始末をする時分に吾々が手或は衣服を汚さないやうに注意することが肝

要であります。咯痰の中から結核菌が確かに證明されたやうな患者の口腔内であるとか、或は口の周圍或は手の指先には大抵の場合結核菌が着いて居ります。でありますから我國でも湯屋であるとか或は理髪所であるとか宿屋であるとか其他大勢人の集るやうな處では、立法的に警察から干渉があつて特に痰壺の用意が出來て居るやうな譯であります。此の痰壺内には石炭酸の如き殺菌薬を入れ、或は只の水でも入れてありますから生活して居る菌を飛散する事は防ぎ得るのであります。斯う云ふことは各個人が衛生的並に道徳的觀念を以て常に注意をする事が必要であります。然らばこの咯痰の始末をどうしたら良いかと云ひますと痰が出來た場合に日本製の座紙で自分の手を汚さないやうに氣を付けて痰を取つてこれを便所の内へ棄るが比較的傳染の危険が無いだらうと云ふことになつて居ります。或は又外出又は旅行の際には、携帯用の痰壺が出來て居ります。これを持參するのも亦一方法であります。又一方では學校とか或は各官衙と云ふやうな多人數集つて居るやうな場處に於ては一定の時期に健康診断を施して、さうして結核の疑ある者は早く治療を加へて十分隔離すると云ふやうな方法を執る必要もあるだらうと思つて居ります。

次に結核患者の隔離方法でありますが、前述の如く患者を隔離治療をするために療養所と云ふものが設けられてあります。此の療養所に二種ありまして、一は重症患者を收容する療養所、一は輕症患者を收容して治療する療養所であります。此の重症患者を收容する療養所は十分なる設備の下に治療を加へると同時に隔離と云ふことを主な目的としてあります。肺結核の重症患者は全く不治と云ふ譯ではありませぬが非常に癒り難い病氣でありますから、療養所の内へ收容された患者はどうしても死亡する者が多い、それでありますから此の療養所を餘り大きくして多人數を收容すると幾人も幾人も死者が出來ると云ふ



現象が表はれて、却て世の中から彼處の療養所は死人の製造所であると云ふやうな悪感情を抱かれることがあります、さう云ふことを避けるために諾威の方式に従つて成るべく規模を小さくして數多く造つてるのが良いだらうと思ひます、さうして患者と家族との連絡が十分取れるやうにするのと、重症患者を運搬するのに危険が少くて便利であると云ふ目的で成るべく市街に近い處にあつた方が宜い譯であります、或は設備が整つて居れば市街の内でも差支へありませぬ、此の重症患者を收容する療養所に重きを置いて居るのは英吉利であります、獨逸は重症患者と輕症患者とを收容する療養所の双方に偏せず造つて居ります獨逸に於ては一九一一年に重症患者を取扱ふ療養所が百十四ありました、其他一般の病院の結核室は多くは重症患者を收容するやうな風になつて居ります。次に輕症患者の療養所であります、輕症患者の療養所と申しますと、此の方は患者を隔離すると同時に、一方には十分な治療を加へて出来るだけ早く體力を回復させてやらうと云ふやうな目的で建てられて居るのであります。

結核病は早期に十分な治療を加へれば確かに治愈し得るものであります、兎も角も比較的治愈の状態に病巢を潜伏せしめ悪くならないやうに包んでしまふことが確かに出来るものであります、現今は醫學が非常な勢を以て發達して往きますれば、此の結核菌を全く死滅せしめしかも人體に害のない藥を發見されたことがありませぬ、時々諸方から結核の特効藥と云ふので發表されることがありますると、一時世の中が非常に騒いで非常な有名なものと思ひ込むことがありますが、實際に於て今迄臨床上確かに特効藥であると云ふものは未だ發見されませぬ、けれども此の特効藥が無いのに拘らず臨床的方面から前にも申しましたやうに自然療法例へば一方に營養療法を施すと同時に他方には衛生的空氣療法と云ふやうな

方法を用ひて確かに癒ると云ふことが分つて居ります、それで此の療法の趣意と申しますのは、患者は患者自身に最も適して居るやうな衛生的状態の下で一定の規律的生活を行ひ、一方には身體を十分休養して身體に新しき障害が出来ないやうに防ご共、他方では習慣並に練磨によつて體力を益々強くし病原物の作用に對抗して、身體が十分に健康を保つ事が出来、さうして進んでは此の體力が病原物の作用に全く打勝ち、病原物を全く屏息せしむると云ふやうな目的であります、斯う云ふ目的のために非常に空氣の良、日光の良く當る所で十分の設備を整へ、熟練な醫者或は看護人を置いて、さうして一方には精神的の慰安を與へると云ふやうな風で此の療養所を設けるのであります、從てこの療養所は多くは高い山の上であるとか、海岸であるとか或は湖水の附近であるとか、森林の内とかと云ふやうな非常な空氣の良い處を選んで設けてあります、斯う云ふ療養所の内では一方には身體の爲めに十分なる營養物を與へ、他方には患者に適當な空氣療法、例へば天氣の良い時に大氣中に横臥をして居るとか或は裸體にして十分な日光に浴するとか、或は呼吸の練習をやるとか、或は患者に適する運動と云ふやうなことを醫者の嚴重な監督の下に行はせるのであります、さうしてさう云ふ風に治療した者が西洋の例で聞きますと三箇月も経てば十分な効果を現はすものであります、けれども此の自然療法ばかりを用ひないで時にはツベルクリンの注射とか或は其他諸種の藥物的の療法を併用することが必要であります。

獨逸では此の輕症の患者を收容する療養所が一九一一年に全部で百三十六箇所あります、其の中で私立の肺結核療養所と云ふのが三十四、それから國民療養所と申しまして州或は市或は保險局で建て、居る療養所が百〇二であります、兩方の病床數が合せて一万四千百八十六あります、それで患者の平均の日數を

三箇月としますと、丁度一箇年に五万六千七百人の患者を收容することが出来る勘定であります。

次に兒童の結核の話でありますが、前に申上げたやうに兒童には約半数潜伏結核を有して居る者があります、斯の如く他日成長の後、國家の中堅となつて働くべき兒童の多數が結核のために倒れると云ふことは非常に國家的不幸なことであり、けれども結核を有して居る子供でありましても幸に子供の時は身體の新陳代謝が非常に壯んでありまして元氣が克い、随つて自然に治癒した状態に赴く者が多い、併ながら一方には人工的に結核を有するやうな弱い子供の多數を出来るだけ丈夫にし、且つ結核を豫防すること云ふ事は甚だ必要なことと思ひます。

獨逸にはこう云ふ兒童を特に收容する目的で建てた療養所がいろいろあります、所謂小兒結核重症療養所が二十二箇所、その病床数が千、其他結核に似た徴候を有して居る所謂腺病質の小兒を收容するものが八十六箇所、その病床数が八千二百二十三あると云ふことであります、其他輕症な結核に罹つて居る腺病質或は腺病性でなくても普通の虚弱な子供を收容する目的で、特別に森林療養所或は海濱療養所と云ふものが出來て居ります、是は多くは建物は悪いさうであります、設備は十分整つて居る、さうして一方に十分な營養を與ふると共に良い空氣を吸ひ日光に十分浴して、體力を旺盛にすると云ふ目的で建て、居るのであります、それから森林學校或は林間學校とでも申しませうか、さう云ふものが設けてあります、是も建物は非常に粗末であります、が學校醫か子供を診斷して結核の疑ある者或は弱い者を其處へ送つて、一方には僅かの時間の間學科を教へ他方には十分治療の目的を達すると云ふやうな方法で、爲めに大抵は夏の間だけ開くものであります、其他簡單な方法でやつて居りますのが所謂夏期轉地療養團と云ふので、夏

の間だけ數週間弱い子供を伴れて空氣の良い處へ轉地療養をして小兒の健康を増すのであります、獨逸でこの夏期療養を世話して居る處ばかりでも八十箇所もあると云ふことであります。

日本に於ても此の夏期轉地療養と云ふことが、二三年來はつゞ行はれて居るやうであります、東京では確か本郷の學校の子供が一團となつて三週間程鎌倉に往つたこと云ふことであります、それから一昨年から昨年から京都で天の橋立へ子供を三週間伴れて往つて居つたことがあるさうです、其他大阪、仙臺、香川と云ふやうな處で附近の形勝の地へ轉地をして良い結果を收めたこと云ふことであります、けれども日本に於て行はれたやうなことは貧民の子供には行亘つて居らぬやうな様子であります、西洋の林間學校など、云ふものは貧民の子供に對しては無論無料であつて居るのであります。

我國に於きまして絶えず蔓延の状態にある結核病に對し其の豫防撲滅の急務である事は今更ら私が申すまでもありません、それで數年來この事に關して大分喧しくなりました、其の施設も追々増加の傾向あり、是實に喜ばしき次第であります、で只今日本に於ける施設の狀態を簡單にお話して置きます。

衛生當局に於ても所謂結核豫防法案と云ふものを出しまして、三十万人以上の人口を有する都市即ち東京、大阪、京都、横濱、神戸、名古屋此の六箇所に市の經營に係る貧民肺結核療養所を建てしめ之れに國庫の補助をなさんとするものでありまして、東京が五百、大阪が三百五十、其他の四つの都市では百の病床の豫定であつたと思ひます、大阪と神戸はろく／＼建つて居るさうです、東京は今敷地の選定中だと思つて居ります、其他の都市には未だ建つて居りませぬ、これは一般に大都市は郡部地方に比較して肺結核患者の多い事は既に統計上より明かな事であり、先づさう云ふ土地に殊に經濟の比較的大きい自

治團體に經營せしめ、先づ其の地方の流行を減せしめて、この大事業の一端とし引いて他地方に及ぼさんとする意味であらうと思ひます、斯う云ふ風に當局に於ても此の点に注意して居りまするし、民間の各團體も此の結核豫防に就ては大分盛になつて居るやうであります、大正三年に日本にありまする結核病の爲めに特に設けられた病床は、内務省の調査によりますと、公私立一般、並に施療病院を合算して全部で千五十九ありまして、其の中で施療病院にある病床が僅か五十しかないと云ふ状態でありまして、其外日本に於きまして結核豫防撲滅に對して盡力して居る團體は大きいのが五つあります、第一に恩賜財團の濟生會第二に日本結核豫防協會、第三に日本赤十字社、第四に白十字會、第五に救世軍であります。

濟生會に於ては年に五万圓の特別經費を計上して、特に此の結核豫防に就て注意を拂つて居るやうであります、さうして日本の國內に結核の爲めに特設の病床を計畫して、一病床に對して確か一日三十錢の補助を與へるやうな計算になつて居ります、大正三年度の成績を見ますると全國の豫定病床數が二百二十、此の人員が八万三百人と云ふ豫定でありましたもの、實際補助した人數が一万八千二百八十人、丁度豫定人員の二割三分位しか補助して居りませぬ、此れに費した補助金が五千三百五十八圓餘でありますから、大分金が餘つて居る筈であります、斯う云ふ風に成績の悪いのはどう云ふ譯であるかと云ふと、濟生會の直營の病床は比較的良く塞りませすけれども、地方の病床は空床が多い爲であります、是は地方に於ける濟生會の準備が十分行届いて居らぬためではないかと考へます、今少し地方官憲が此の点に注意を拂つて欲しいと思ひます。

日本結核豫防協會は芳川伯爵が會頭で大正二年に設立されたものです、是は會員の會費並に寄附金によりて行ふものであります、正會員が僅かに八百人しかなくやうな譯でありますから十分な金がない、隨つていろ／＼な事業をやる目的で居りますけれども、未だ其の事業は目的の幾部分にも達して居らぬやうな様子であります、此の日本結核豫防協會が主催で東京、大阪、京都、愛知、山形、岐阜、和歌山、愛媛、鹿兒嶋、長野、福井等の府縣に結核豫防協會と云ふものが出来まして互に連絡を保ち追々結核豫防に就て盡力されて居る様子であります、此會では今までの處ではいろ／＼な簡易な雜誌様のものを發行して諸方へ配付して居るやうであります。

次に日本赤十字社の事業であります、是は確か第八回の萬國聯合大會の時に規定になつたものだと思つて居ります、其の時に平時に行ふ事業の一つとして結核豫防撲滅に對し大に盡力すると云ふことに定つたらしい、さうして此の結核患者の救療としては第一に結核の爲めに兵役の免除となつた者、第二に徴兵検査の時に結核の爲めに不合格になつた者、第三に小學校の教職員と云ふやうな順序で結核患者を救療することに規定されて居ります、それで現在の所では愛知、大阪、岡山の三箇所に特別の結核療養所と云ふものが出来て居りまして、其他本社並に十三の支部病院に特別の結核病室を造り患者を收容することになつて居ります、病院或は病床を有して居らぬやうな支部では附近の病院などに委託して、結核患者を收容治療して貰ふことになつて居ります、大正四年に赤十字社で結核患者を取扱つた數は入院が三万三千八百八十三人、外來が六万八千五百九十五人、一年の經費が十万五千六百九十二圓と云ふやうな状態で結核患者を救療して居ります。

次に白十字會であります、此の白十字會と云ふのは確か明治四十四年に設立されました私立團體であり

ます、多くは宗教的關係のある人々に依て設立されて居りまして會長に江原素六さんを戴いて居る社團法人であります、此の白十字會では私設團體として最も大なる仕事をして居るのは、輕症患者の轉地療養をやつて居ることであり、是は相州鎌倉の惠風園へ三十人に限つて委託して治療に従事して居ると、林間學校を設けた事であり、又早期診断所と云ふものを設けて居ります、外種々な仕事をして居りますが丁度次に申上げます救世軍の仕事と能く似て居ります、さうしてこの轉地療養によりて治療した入院患者延八員三万七千四百九十九人、外來延人員十萬四千二百二十四人であり、

次に救世軍の事業であります、救世軍でも明治四十五年に病院を建て、居りまして其處でいろ／＼な患者の診察或は貧困患者の投藥に従事して居りますが、其の傍ら病院の内に結核相談所と云ふものを設けて早期の診断或は結核の養生法を教へてやる、或は入院が必要であるか必要でないかと云ふことを知らせてやる、或は療養所へ紹介してやる、若くは患者が死亡したならば後の家族に對して消毒の方法或は健康診断を受ける必要の有無、或は弱い子供の養育方法、時に依りては貧困患者の生計上の相談に與かる、それから又醫師看護婦と云ふやうな者を派遣して往診或は巡回の治療をやつて居ります、さうして結核の療養所を近く十一月頃までには新築する豫定であるとの事であり、

斯くの如く一方政府當局と他方各種團體が此事業に對し多大の盡力をなして居りますけれど、まだ現今の状態では完成の域に達したとは云はれませぬ、要するに此事業に對し最も必要なるは申すまでもなく經費であります、で各種團體が、各々の經費を別々に使用するよりは、これを一つにして、各自この事業に必要な方面を夫々分擔しこれが遂行に努力した方が、成績の見るべきものがありはしないかと思はれますが、何れにしる、まだ經費が十分であるようではありませぬから、諸君の御努力により、一方資金の充實をはかると共に、他方事業の益々發展し、恐るべき結核なる病氣が全然この世から驅逐され、只今の存在せし事が歴史的興味の下に醫學書の一頁に記載さるゝに過ぎない日が一日も早く來らん事を切に希望して止まざる所であり、

終に臨みまして、かゝる廣い問題を制限のある時間に申しましたる爲ら疎放散漫に失し却て諸君の御清聴を煩はした事をお詫して置きます。

後編

後編の序文は、本書の目的と意義を述べ、読者に読ませようとする意図を示している。序文の冒頭には、本書が「日本の歴史を研究する上での重要な資料」として位置づけられている。序文の本文には、本書の編纂に当たっての経緯や、資料の収集方法、編纂の原則などが詳しく述べられている。序文の最後には、読者に本書を上手に活用していただくよう呼びかけられている。

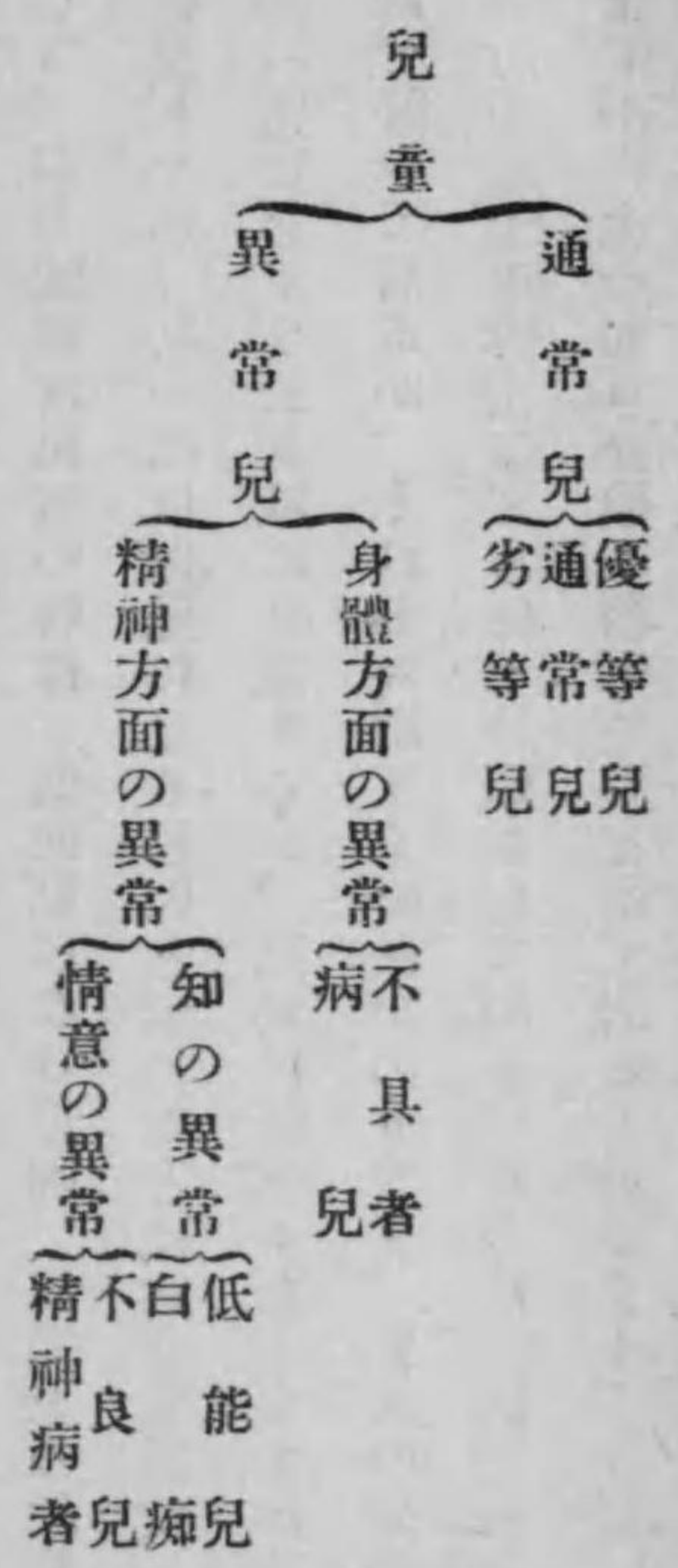
## 低能性兒童に對する注意

北海道札幌師範學校教諭 川村文平

### 第一回

今回感化救濟事業の講習會があるに就て三時間低能性の兒童に關する講演をするやうにと云ふ御交渉がズツと以前にありましたが、どうも私は實際に低能性兒童と云ふものを取扱つたことがない、唯だ書物で讀んで居るだけでありますから自分が堅き信念を持つて話することが出来ない、承はれば東京から段々名家が來られるやうでありますから附たりで三時間ばかり話します、尙又斯う云ふ風にお歴々の方が集りになるとは思はなかつた、さう云ふ都合でお引受致しましたので迎もお爲になるやうな話は出来ぬと思つて居ります。

此の低能性兒童即ち低能兒につきは色々の問題がありますが、今回お話する要項は會の方から定められました、即ち低能性兒童の特徴、低能兒になる原因、取扱上の注意、さう云ふことを話するやうに定められました、初めは低能兒になる原因と云ふことに就て話致します、其の低能兒になる原因をお話する前に兒童をどう云ふ風に分類するか、兒童には色々ありますから低能兒は普通の兒童に較べてどう云ふ位置を持つて居るか、それを話する必要があります、兒童の分類は色々あります、今度此方にお見合になる所の富士川博士なども色々分類されて居る、其の他柳博士の分類もある、又外國人も色々分類して居りますが、次の如き分類は簡單で要を得て居ると思ひます。



斯う云ふ風に分類致します、之に依て低能兒は普通の兒童に較べてどう云ふ位置に在るか云ふことが判ります、若し此の外の兒童を加へれば天才も這入ります、天才も實際は異常でありますから此の中に這入るか知れませぬがそれは減多に無い、通常兒は優等兒、通常兒、劣等兒と分ける、是等は普通の小學校へ收容すべきものであります、異常兒の中で通常兒と異つて居る點は身體の異常——身體の異常には不具者と病兒とある、是は普通の小學校に收容することが出来ないであります、是はどう云ふ處に收容するかと云へば聾啞であつたならば聾啞の學校へ容れる、盲であつたならば盲啞學校へ容れる、病兒も同様にさう云ふやうな種類の學校に收容する、それから精神の働きは知情意の三つの働きのありますが、知識の方面の働きの足りない、是は通常低能兒と稱して居る、併し低能兒は決して知識の方面だけでなくして情意の方面にも缺陷がありますけれども、主として分類するときには知の方面の缺陷を云ふ、それが即ち低能兒であつて是も矢張り普通の學校へ收容して教授することが出来ないものであります、それから情意の方面の異常は不良兒と精神病者でありまして、是等は精神病院或は感化院等へ收容する、實際は知情意の

缺陷は相對立して分けることは出来ないものがある、知に缺陷のあるものは必ず情意に缺陷がある、情意に缺陷のあるものは必ず知の方面に缺陷がある、けれども主として斯う云ふ風に分ける、又通常兒の所で劣等兒と云ふのがありますが之は低能兒とよく混同致しますが、劣等兒と低能兒とは斯う云ふ風に異つて居ります、劣等兒は通常兒の中である、只通常兒中の劣等なるものである、劣等兒は小學校に容れて差支ない、低能兒は劣等兒よりもモウ一段低いものになります、先づ大體斯う云ふ風に分類するのである、其の他色々な學者の分類がありますがさう云ふ事は今お話しませぬ。

それで其の次にどう云ふ譯で低能になるか、即ち低能の原因に就てお話しします、大抵お解りのことをお話しするやうなことになりますが、其の原因を考へれば一體人間はどうして斯う云ふ風に發達して來たかと云ふと、子供が元遺傳的に持つて居る所の素質に親なり、社會なり、教師なりの感化が加はりて發達するものであつて、詰り二つの要素が含まれて居る事になる、一は生れながら持つて居る所の將來發達の萌芽となる所のもので、之を先天的要素と云ふ、他の一は後天的の要素であつて親とか、社會とか教師とかの影響である、それであるからして現在の子供なり或は私なら私を考へるときには此の二つに著目しなければならぬ、此の先天的の素質も後天的の影響も立派であれば其の子供は立派に育つ、併ながら後天的の影響が如何に良くても、即ち後から親なり教師なりの世話が行届いても、先天的の素質が悪かつたならば其の子供はどうしても善くならぬ、又先天的の素質が良くとも後で親なり教師なりの、取扱方が悪かつたために悪くなることもある、此の二つの成分が集つて一の人間になるのであるからして、低能兒なら低能兒を考へるときにも矢張り此の二つの方面から考へなければならぬ、然らば先天的の素質は何に由て來る

かと云ふとは是は遺傳から来る。

四

此處で一寸お話ししますが、斯う云ふ事がある、教育と云ふものは實際効果が有るものかどうかと云ふ議論がある、是は大變ぢかしな議論であるがさう云ふ議論がある、それは何故さう云ふ議論をするかと云ふと遺傳に因て人間になる、遺傳は争ふべからざる事實である、身體の方面に於ても精神の方面に於ても何れの方面に於ても遺傳は争ふべからざる事實であります、争ふべからざる事實であつて遺傳に因て定つて居るならば教育しても無駄である、それが議論の一つであります、遺傳が確實なる事實であつて遺傳に因て定まるならば教育は無駄だと思はれますが實際はさうでない、遺傳と云ふことは事實でありますが遺傳そのものがチャンと出来上つた性質、詰りチャンと吾々の精神が出来上つたものとして遺傳するのではない唯だ萌芽として遺傳する、將來或る方面に發達すべき萌芽若くは傾向として遺傳するのである、それであるから其の萌芽を押へ付ける、こちらの方に發達しやうとするのをそれは宜くないからこちらの方に發達させる、出来上つたものを教育するならば教育しても無駄だけれども、萌芽として遺傳するのであるから教育は出来る、それから又之に後天的の影響が加はつて教育が出来る。

それからもう一つ遺傳の事に就てお話ししますが、遺傳は親なら親の事が皆子供に遺傳するかと云ふとさうは言へない、例へば私なら私が怪我をする或は戦争に往つて負傷をして手を一本断つてしまふ、其の私の子が手が無くて生れるかと云ふとさうではない、足を一本断つた目が潰れた、其の子供が足が無く目が無くて生れるかと云ふとさうではない、さう云ふ例が澤山あります、例へば支那人です、彼の支那の女が骨を曲げて足を小さくする、さう云ふ習慣が何代も何代も續いて來て居るのだが、然らば支那人の子

供は足がさう云ふ風になつて生れるかと云ふとさうではない、普通の足を持つて生れる、それを小さくするには足を縛つて小さくしなければならぬ、又耳朶に孔をあけて金屬製の輪を通す習慣の人種がある、是も何百代となくさう云ふことをやつて居るのだが、生れる子供はどうかと云ふと矢張り普通の耳を持つて生れる、耳朶に孔がない、それだから又孔をあけて輪を通す、さう云ふ例は幾らもありますが詰り身體の或る一部分に變化があつたとするも、其の變化は個體の一部分の變化であつて、其の個體の全生理に影響を及ぼさぬやうな變化は遺傳しない、斯う云ふことになつて居るのです、學術上の言葉で云へば一部分の後天的獲得性と云ひますが、後天的に獲た所の一部分の性質は遺傳しない、生れてから後に何か足を断つたとか目が潰れたとか云ふことは遺傳しない、併ながら其の變化が個體の全生理に影響を及ぼし、延いて個體の生活上に關係を有する如きものは遺傳する、實驗上さうであります、一例を舉げて見れば私が非常な飲酒家で始終酒に浸つて居るとすれば私の一部分ではない、手とか足とかの問題でなくして私の全生活の問題である、全生理の問題であるからさう云ふ風になつたならば生殖細胞の上に影響を及ぼす、それであるからさう云ふものは遺傳する、さう云ふ全生理に影響を及ぼすやうなもの、遺傳は假令其の子供に直ぐ現はれなくても孫の代になつて現はれるとか或は數代経て後に現はれるとか、さう云ふ風に非常に勢力の強いものであります、それで遺傳と云ふことは事實であります、それは唯だ萌芽として遺傳すると云ふこと、それから後天的の獲得性は遺傳しないと云ふことをお話しして置きます。

偕て今度は斯う云ふ風な低能兒は然らばさう云ふ方面の遺傳であるかと云ふことをお話しします、是は大抵御承知のことでお話する必要が無いかも知れませぬが、彼の瀧の川の學園長のお話に白痴はどう云ふ遺

五



傳に因て生ずるか云ふお話がありました、それが詰り低能兒の遺傳の方面と同じである、唯だ白痴は其の甚しいもので低能兒は其の軽いものだ、けれども矢張り遺傳的の方面は似て居ります、瀧の川の學園長の話によりますれば白痴の九〇%は遺傳に因て來るさうです、それは何から來るか云ふと例へば兩親或は祖先に瘋癲の者があつた、或は氣狂ひがあつた、或は白痴があつた、或は癲癇があつた、其の他色々の神經病或はアルコール中毒、それから結核、梅毒、血族結婚、或は兩親の年齢の關係——非常に年齢の差が多い、或は又非常に年を取つてから生れた子、さう云ふやうなものは必ず吾々の腦細胞の上に影響をして居る、それであるからさう云ふ者から生れた子が大抵は白痴になる、白痴の中の九〇%は皆さう云ふ風な祖先を持つて居る、残りの一〇%はどうであるか云ふと、夫れは即ち外部的の原因或は後天的の影響であります、例へば妊娠中に母體が貧血症であつたとか或は其の日の生計にも困つて食物が不足であるとか或は妊娠中に腹を打つとか非常に大きな怪我をするとか、其の他地震とか火事が近所にあつて吃驚するとか、又は一家の生計上に就て非常に心配するとか、さう云ふやうな事が原因になつて居ります、さう云ふやうな事が妊娠中にあると精神の上に非常な感動を及ぼします、更に出産時の瞬間に於ける原因としては早産、難産等に於ける頭部損傷、狹骨盤の頭部壓迫等である、難産のために器械などで子供を引掛けて出す、殊に初産の時に男であるとさう云ふ傾向がある、男の子供は女の子供より頭が大きい、若し初産の子が男であると骨盤の壓迫が劇しい、それがために白痴になることがある、白痴は惣領の子供に多い、私も惣領であります、が果してどうであるかそれは判らぬ、それは生れる時の場合ですが今度は子供が生れてから色々な病氣に罹る、癲癇に罹るとか或は腦膜炎に罹るとか或は傳染病に罹るとか、さう云ふ事が原因に

なつて白痴になると云はれて居ります、さう云ふやうなものであるならば身體の發達が不完全である、健康状態も甚だ宜しくない、それから子供が生れて手や足を動かす、之を自發活動と云ひますが此の活動も鈍い、啼く聲も弱い、それから反射運動(あかりを出す)と見る)さう云ふやうな作用もない、刺戟に對する反應も極く薄弱である、是は白痴の方面であります、が低能兒の方面に於ても遺傳的原因は矢張り同様であります、さう云ふやうな者は甚しきは白痴となり甚しからざる者は低能兒となる、尙又低能兒に就ては後天的の影響は色々ありますが、遺傳方面で實例を一二お話して置きます。

東京の子供であります、が斯う云ふやうなのがあります、父は商人でありましたが元は區役所に出て居つた餘り俐口な人ではない、母は病身で神經質で家庭は圓滿でない、白痴とか低能兒は家庭を調べますがさう云ふやうな家庭である、是は女の子供であります、が胎内に在るときに母が非常な大患を煩つて七箇月目に生れた、それだから早産の部類です、幸に出産の時は唯だ月が早いだけで普通に生れたが身體が小さいさうして非常に弱い、初め生れたときは母の乳を吸ふことが出來ない、吸入力が無い、それで初めはどうしたかと云へば口の内へ乳を流し込んで育てた、ところが漸く二箇月経つてから母の乳を吸ふことが出來た、而も母乳が足らぬから牛乳で育てた、兎に角身體が弱いながらも育つて往つたが六つの年に親戚の伯母さんの處へ往つて蛸を食はされた、それが中つて胃腸を害ねてしまつた、さうして腦膜炎を併發した、病氣は幸に癒つたけれどもそれから頭がぼんやりしてしまつた、何が何やら話も頓珍漢で意識が朦朧として居る、それで六つか七つになつたときに漸く二つか三つ位の子供のやうに漸く匂ふ事が出來た白痴ではないけれども兎に角非常に發達が悪い、其の上に又いろ／＼なことがあつて鼻の内へ物を入れて困つたこ

ともあつた、八つの時に學校へ入れやうと思つたが發育不完全で入れられなかつた、九つの年に學校に入つて初めはお情けで二年生にして貰つたが、六年目の十四才になるまで二年生に居つた、それで見込が無いから學校を下げた、幸に東京高等師範の附屬小學校で低能兒を集めて教育する學級が出来た、それで其の低能兒の學級に入れた、斯う云ふ譯です、詰り是は低能兒の一の原因であります。

もう一つの原因は、前のは父母共餘り惻口でないが今度は父母共惻口である、是も女の子供であります。が父は税務官で高等文官試験に及第した位の人でありますから頭は良い、智力の方面は發達して居つたが道德方面に缺陷があつて素行が修まらぬ、品行が悪い、妻子を捨て、遠くへ逃げて往つた、妾が出来て其の妾に子供が生れた、此の妾なる者は身體が非常に丈夫であるが性質が非常に野卑である、女の子が生れたが是は早産ではない普通に生れた、出産の時には普通の出産でありましたが、父なる人は今お話ししたやうな不品行の人でありますから母が妊娠中に、斯う云ふ席でお話するのは憚りますが露骨に言へば梅毒に罹つた、其の毒を受けて生れたから身體が非常に虚弱である、母の乳を吸ふことが出来ない、一年経つても匂ふことが出来ない、それであるから布団の上に寝かして居る上の方に新聞などを吊すと漸くそれを見て居ると云ふ有様であつた、さう云ふやうな關係から梅毒の影響を受けて身體に色々の腫物が出来たそれは治つたけれども腫物の痕が残つて居る、さう云ふ譯であるから智力の方面にも影響して居る、それで此の子供が學校へ入つたけれども學業が一向進まないで、是も東京高等師範學校の附屬小學校の低能兒を集めた學級に編入された、今お話ししたやうな事から低能兒の原因は大抵了解りであらうと思ひます、一は先天的に親の悪いため、一は親の不品行からさう云ふ影響を被る、されば親たる人が餘程注

意しなければなりません。

教育の方面で非常に高いエレンケールと云ふ婦人があります、是は瑞典の人でありまして教育に御關係の方は御存じでありませうが、此の人の著した『兒童の世紀』と云ふ有名な本があります、此の本を出版したのが十九世紀が終りを告げて將に二十世紀の始まりとする其の瞬間、一八九九年の十二月三十一日の午後十二時、さう云ふ奇抜なことをした人であり、其の兒童の世紀と云ふ本の一番初めにどう云ふ事が書いてあるかと云ふと『兩親を選択する兒童の權利』と書いてある、生れてしまつてから親を選択することは出来ない、私は親が嫌だから取替はると云ふことは出来ぬ、此の意味は親たる者が其の責任者である、子供が悪ければ其の責任は親だと云ふのです、是は確にさう云ふ風に思はれる、實際子供がさう云ふ風な低能に生れたり白痴に生れたならば其の責任は親だ、尙ほ此のエレンケールと云ふ人が婦人の爲めに丈の氣焔を揚げて居ります、家庭に於ける婦人の地位を盛んに論じて居る、女子を教育するのは婦人の權利である、と云ふやうな家庭の教育を論じて現在の學校教育を非難して居ります、さう云ふ事があります、斯う云ふやうなことでありまして低能とか白痴とか云ふものは遺傳の影響を持つて居りますから、親たる者は十分注意しなければなりません。

其の他にまだ低能の影響と看做すべきものは生れてからも澤山ありますが、是は皆さん既に御承知のことでありませうが營養不良のために矢張り低能になることがある、營養不良も食物が悪いだけでない、食物が良くても吸収することが出来なければ營養不良になる、それから瘰癧、それから瘰癧——瘰癧と云ふのは御承知の通り一つの瘰癧と云ふ病氣があるではない、唯だ瘰癧をすると云ふことは身體の何處かが病

的狀態であると云ふ一の徴候である。痙攣それ自身が病氣でないけれども痙攣をする際には身體の何處かに病氣がある、それだから痙攣は其の原因を除去すれば治る、併ながら話が戻りますが痙攣はどうして子供の時に多いかと云へば、子供の時には脊髄神経の作用を受けて居る、脳細胞の影響を受けない、脳細胞は吾々の高等精神作用であります。脊髄神経の作用を受ける、詰り反射作用である、蠅が此處に止まる手を以て拂ふ、是は反射作用です、此處に何か物が觸れれば手をやりて之を除ける、是は反射的作用です。或は日光が非常に強いと瞳を小さくする、暗いときは瞳を大きくする、さう云ふやうに反射作用を營む、それが脊髄神経の作用です、子供の時には脳神経が十分發達しない、脊髄神経の影響を受ける、それだから刺戟に應じて反射作用を爲す、刺戟は外から来るばかりが刺戟でない内部から来るのも刺戟である、内外の刺戟に對して反應してしまふ、それだから痙攣ける、さう云ふ風に説明して居ります、であります。今話したやうな譯で痙攣其のものが病氣でない、他に何處かに病的の狀態があつて痙攣けるのだから其の原因を除去すれば宜い、胃腸が悪ければ胃腸を癒せば宜い、或は呼吸器が悪ければ呼吸器を癒せば宜い、詰り其の原因を除去すれば低能兒にならぬ、けれどもさう云ふ痙攣を頻繁にやつて而もそれが強く來ると云ふと矢張り脳細胞の上に痕跡を残す、それが低能の原因になる場合もある、今段々お話ししたやうな先天的の事情と後天的の事情とに因つて低能を生ずる、もう一つは更に進んで親たり教師たる者の不注意に因つて低能になることもあります、今日は是だけにして置きます。

## 第二回

今日は昨日に引續きまして低能性兒童に關する話を致しますが、昨日は低能兒となる原因に就て大部分

は遺傳から來ると云ふこと、それから又其の一部は極く一小部分であります。母の胎内に在る時の狀況及び出産の時の狀況に因る、又他の一部は生後の病氣とか或は痙攣とか、さう云ふやうな事情に因つて低能になると云ふことをお話しして置きましたが、尙更に子供が大きくなつてから父兄の取扱の悪いために低能になることもあります、それは即ち往々ある事でありますが教育と云ふことを呑込まないために全く放任して置く、或は非常な嚴格の取扱をする、斯う云ふやうな場合に往々低能等の原因になることがあります。

私の知つて居るのにもあります、それは相當の位地に在る或る官吏の人であります。が子供を非常に嚴重に取扱ふ、丁度往古の武士の作法のやうなことをやらす、家に居つても子供が袴を穿いて端座して居る、阿父さんの居る室の隣室にちやんと端座して父から呼ばれたときに何時でも往けるやうにして居る、途中で阿父さんに逢つても他の目上の人に會つたやうに敬禮させる、さう云ふやうな嚴重な躰方をした、それはさう云ふ教育法を執らねばならぬと云ふことを考へてやつたのだが、其間に親子の愛情と云ふものが無い、家庭の教育は非常に嚴重であつたが親子の愛情が無かつたために、其の子供が道徳方面に於て悪いものになつた、それから知識の發達も非常に遅れて居る、中學校を何回も落第して遂には退學の悲運に遭つた、それだから餘り峻嚴に流れてはいけない、詰り家庭は愛情が中心にならなければいけない、愛情が兒童養育の中心である、それを忘れたがためにさう云ふ風になつたのであります。

それから官吏の方などは已むを得ないこととありますが非常に移轉する人がある、彼方此方に移轉して子供が小學校を卒業する間に五回も六回も學校を變へる、其の爲めに兒童と教師との間に本統の接觸が出來ない、所謂眞の人格接觸が出來ない、其の爲めに低能になることがあります、或はさう云ふ都合が或る

子供に依りましては學校は更へないけれども先生と生徒との間の理解がどうしても旨いかな、先生は生徒を誤解し生徒は先生を理解しない、其の兩者の理解が缺けたがために子供の取扱が順當に往かなかつた其の爲めに道德方面に於ても悪くなつた、随つてそれが低能の原因になつた、さう云ふやうな教師や両親の取扱が悪いために低能の原因になることがあります。

是は普通のことではありますが、殊に此の御婦人の方で神経質か何かのために子供の悪くなるのが往々あります、さう云ふ時には或る醫者に依りますと轉人療法と云ふことをやらせるさうであります、それではなければ到底癒らない、詰り子供の周圍の状態が悪いからそれに接觸する人を更へる、さうすると癒ると云ふことを言つて居ります。

以上は低能兒になる原因に就てお話ししましたから、今度は低能兒の特徴及び其の検査の方法等に就てお話しします、低能兒の特徴としては低能兒と云ふことを認定するために色々の方面から眺めなければなりません、第一は身體の状況であります、身體の状況で先づ第一に注意すべきは營養の方面である、子供が營養が悪いと明かに身體の方に現はれます、身體の纖維の内に水氣を澤山持つ、是が營養不良の原因になつて居りますがさう云ふのが澤山ある、或る時期になると水氣が引いて瘠せてしまふ、それが原因になつて癲癇けたり或は心臟が悪くなつたりするが是が精神病の原因になる、營養不良が原因となつて低能或は白痴になる、又或人は是も營養に關係すると言つて居りますが、子供の時に鼻の内に肥厚性鼻炎と申しますか贅肉が發する、あれか矢張り營養不良から來ると言つて居りますが、是が低能の原因になることがある、けれども之には異説がありまして決して左様なことは無いと云ふ説もありますが、子供の時分に鼻

に故障があつた時分には腦髓が悪い、けれども大人にも鼻に故障があるのがあります、是は必ずしも低能でない、外科手術をすれば癒る、子供も外科手術をすれば癒るが兎に角鼻に故障があれば腦髓が悪い、現に私は鼻に故障がありまして昨年手術をやりましたが、鼻に故障がある際には疲勞が早い、又記憶が悪い殊に數學のやうな問題は到底考へる力がない、さう云ふ風になります、手術をしましたがところが前よりは餘程良いやうに考へます、大人はさう云ふ風に手術をすれば低能になることはないと言ふ話であります、けれども子供は低能の原因になる、それだから成るべく速に醫療を施すが宜い、是は營養の方面です。

其の次には身體の恰好等であります、それは白痴の方ですが腦水腫と云ふのがあります、是は詰り低能です、其の他頭が尖つて居つて幾らか小さ過ぎる、是は白痴若くは低能に伴ふ所の現象であります、或は又兎唇と云ひますかさう云ふのは矢張り腦髓の發達に關係を持つて居ります、或は口が大きくて顎が合はない者、或は喉佛が普通よりも大きくなつて居る者、さう云ふのが往々精神方面が薄弱であると云ふことを言ひます、けれども兎唇の人でもさうでない人もあります。

それから神経系統の状況であります、それは第一眼の運動であります、眼の運動は主として眼瞼運動であります、低能の者は瞼の開閉が正しく出來ない、吾々の瞼は日の照つて居る處に往くと小さくなり暗い處に往くと大きくなる、ところが低能の者には此の調節が旨く往かぬ、それから左右の眼が同時に動かぬ、それからもう一つは運動して居るものに對して瞼を据わて見ることが出來ない、普通の子供は汽車なら汽車が走つて居ると瞼を動かして見る、ところが低能兒はそれが出來ない、蚤取眼のやうになつてそれを續けて往くことが出來ない、其の次は歩き工合がしつかりして居ない、ベタ／＼した歩き方をやる、

それを試して見るには階段などを昇らして見ると、さう云ふ風な歩き方をするから能く分る、それから姿勢です、殊に學校などで先生が何か言つて聞かせる、其の時に聴いて居る態度に依て低能の者は直ぐ判る普通の子供は姿勢を正しくして謹聴して居る、さうして嬉しいこと悲しいことには顔面に表情が現はれる愉快なことを聴くとニコ／＼して居る、悲しいときには同情したやうな顔付をして居る、何か質問すればハッキリ答へる、低能児にはそれが出来ない、身體を曲げ筋肉が非常に緩んで精神も放散して居る、顔面に表情が少しも現はれて居らぬ、それだから先生が愉快な話をしてもぼんやりして居る、悲しい話をしても平氣で居る、さう云ふ風で顔面に少しも表情が現はれて居らぬ、精神が放散して居るからさうだ、さうして質問などをされても無論答へることが出来ない、縦し答をしても其の答は不十分である、さう云ふ風な状態であります、且つ其の時には始終何處か動かして居る、身體を貧乏揺りして動かす、或は足を動かし腕を動かし指を動かす、或は袂を嚙る、さう云ふやうなことをやる、それは姿勢態度の方であります、其の他言葉は無論はつきりして居らぬ、論理的でない、是は無論のことであり、元來子供のこと論理的でないものであります、それが十幾つになつても筋道が立たぬ。

其の次には心理上の方面であります、精神の方面殊に感覺器官を調べて見ることが低能児の特徴を知ること上に大切であります、即ち物を視るときに(後で段々實驗法をお話しますが)正しく見ることが出来るか四角なものを四角と見、三角なものを三角と見るか、或は距離はどうであるか色はどうであるか、是は普通の子供でも大人でも間違ひますが低能児は其の程度が劇しい、亦聴く音も是は硝子の音か金属の音か或は何方の方向で音がして居るか、或は物に觸らして見て是は絹であるか天鷲絨であるか、さう云ふ觸覺を

試して見る、或は筋肉の運動などを試して見る、或は鉛筆を削らして見る、さう云ふ試験をして見ると旨く往きませぬ、普通の子供に比較して見ると遙に劣つて居ります。

それから道徳上の方面であります、是は矢張り他の者に劣つて居つて而も一方に偏して居る、他の子供に對する同情、それから動物に對する同情などが無い、他の子供を虐めたり動物を虐待したりする、或は盜癖がある或は虚言を言ふ、此の虚言を言ふことに就てちよつと話をしますが、子供と云ふものは元來大人よりは虚を言ふものである、併ながらそれは故意に虚を言ふのでなくして、子供は事實の真相を得ることが出来ない、觀察を間違ふから虚を言ふ、之に於ては種々學者の説がありますが、ロブジエンと云ふ人が九歳乃至十四歳の男女四百六十九名に就て檢べて見た、それは斯う云ふのです、或る一人の少年が海岸の岩に腰を懸けて釣をして居る繪を二分間見せて隠してしまつた、さうして今の繪は何かと云ふ質問を發したところが正當に答へ得た者が極く少い、男の方は多くは斯う云ふ風に見た、非常に身體の丈夫な荒々しいさうして非常に勿體振つた男が居つたと斯う觀察した、女の方は今の人は白い靴下を穿いて居つたとか或は縞子のチョッキを着て居つたとか、さう云ふ答をした、其の質問に對して正しい答をした者が極く少数である、之に因て兒童の觀察が如何に不完全であるかと云ふことが判る、子供の觀察が間違つて居りますから事實に違つたことを言ふ、大人は故意に虚を言ふが子供はさうでない、觀察が違つて居るために虚を言ふ、それから子供は暗示に動かされ易い、教師が見童に繪を見せたときに木も何も無いのに木が有つたらうと言ふと木が有りましたと言ふ、さう云ふ風に何か先生がちよつと言ふと皆さうだと云ふ、斯う云ふ風に子供が暗示に動され易い、是は精神が單純であるからであります、其の爲めに事實の觀察を誤

る人が何か言ふ友達が何か言ふと直ぐそれに動かされて観察を誤ることを非常にやる、此の暗示と云ふことは大人でも能くあります、或る軍人が他の四五人の者と喧嘩を始めた、ところが其の軍人の従卒でありましたか下士の者が非常な大騒ぎをした、それから或人が往つて前往つて助けたら宜からう、成程さうだと言つて向ふへ馳けて往つたが、どうしたかと云ふと四五人の者と一緒になつて自分の主人を毆つた、なせさう云ふことをするか彼の従卒は何も知らないでやつて居る、それは暗示に動されたのです、四五人の者がやつて居るから知らず識らず手が動いた、大人でもさう云ふ暗示に乗り易い、吾々でもさうであります、四五人の者と一緒歩いて居る、其の時に誰かヒョツと側を見ると他の者も見ると又次の人も見ると云ふ風に皆見る、誰か一人足を速めると皆速める、併し大人は反對觀念があるから子供程ではありませんが子供は暗示に動され易い、さう云ふやうな事情等に依て子供は事實と違つたことを言ふものでありますから是は父兄の方は能く注意しなければいけません、子供が斯う云ふことがあつたと言つても事實と違つたことを言ひます、其の爲めに學校の教員や何かが非常に迷惑することがあります、是が低能兒になると殊に甚だしい、殆ど事實と同じやうな觀察が出来ぬ、是は普通兒と比較すると低能兒の方が遙に多い。

其の次には徳育の方面であります、色情の方面が特に發達することがある、是は低能兒などになると何んでも目前に在る所のものに動かされ易い、思想が單純で目前の不快に侵され易い、一方に走つたことをやる、詰り大人は物を観るのに多方面であります、それから或事をやらうと思つてもいけないと云つて高等精神が止めるけれども低能兒になるとさうでない、唯だ一方にだけ働く、目前の不快にだけ働きますから此の事が愉快だ此の事が不愉快だと思へば直ぐ其の通りやる、それで一方の悪い方面に發達して往

く以上低能兒の特徴とも云ふべき事を大體話致しましたが其の精神方面を學術的に検査するのにどう云ふ風にするかと云ふと種々の方法があります、子供の持つて居る觀念の検査をして見ると是も低能兒と通常兒と違つて居ります、此の觀念の検査は正確にはいかぬけれども詰り斯う云ふことの検査は出来る、紙を與へて五分間なら五分間の間に魚の名を書いて見る、斯う云ふ問題を出して書かせて見る、さうすると普通の子供には順序がある、先づ川に居る魚を書き次に海に居る魚を書く、或は大きい魚を書き次に小さい魚を書くと云ふやうな風に順序がある、ところが低能兒になりますと餘程大きくなつても間違ふ、或る子供を調べましたところが鯛其の次に蝶々、蛙、刺身——お刺身や蝶々を魚と思つて居る、或は鯛平目乾物、海老、榮螺と云ふやうなことを書く、或は草なり木なり書かせて見ると櫻の木、桃の木、枝の木と云ふやうなことを書く、斯う云ふ間違つた觀念を持つて居ります。

其の次には注意力の検査であります、是は先程話した事に關係して居ります、其の方法は圓い輪でも何でも宜いが規則正しく若くは不規則に描いて、此處に輪が幾つあるかと云ふことを一回だけ算へさせるさうすると例へば十一なら十一と言ふ、之を何回も算へさせて見ると低能兒は誤りがある、或は音を出して算へさせる、さうすると幾つ打つたか低能の者には解らぬ、彼等の精神作用が動揺して居るから氣を付けて聽いて居ることが出来ない、之をやらせて見ると大變間違ふ、或は斯う云ふやうな方法もあります、矢張り同じく注意力の検査であります、が字消し方と云ひまして、何か意味の分らない「アキカアニ」とか「トムリアサミ」とか云ふやうな字を書いて此の中から「ア」の字を消して見ると云ふ、是は「ア」の字に注意力を集中してやらなければなりません、斯う云ふことには正しく出来ない、斯う云ふことに依て注意力を検査

します。

それから記憶の検査であります、是は一時的記憶の検査ですが之れも色々ありまして先づ視覚の検査をやる、是は極く短時間に繪を見せる、例へば③斯う云ふ繪を描いて先刻のは二分であつたが今度は三十秒間なら三十秒間見せて隠してしまつて紙に描かせる、さうして正しく描くかどうかを試すのです、是は視覚に因る記憶の検査方法であります、次は聴覚に因る記憶の検査をして見る、是は何か聯絡の無い言葉を先生が無茶苦茶に言ふ、机、腰懸、子供、黒板と云ふやうなことを言へば聯絡があります、ちつとも聯絡の無い机、花、天井、議事堂、空と云ふやうなことを言つて書かせる、さうすると低能兒は間違ふ、想像力或は思考力を調べて見るのにさう云ふ方法があります、是等は學術的の検査法であります、ちよつとした事に依て調べて見ますと低能兒は普通兒に較べて遙に劣つて居ります。

昨日は我國の低能兒の例をた話しましたが、外國の低能兒の例をお話しますと斯う云ふのがあります、極く簡単にお話します、是は女の子供でありますが眠つて居る時に齒軋りをする、それから學校から歸つて來ると街の内を唯だぶら／＼歩く、それから動物を虐待する、亦他の子供に對しても同情心が無くして抓つたり撈つたりする、それから營養は無論不長である、それから疲労が早い、居眠りをする、子供は先生の教授方が悪いと能く居眠りをしますが低能兒は教授方が善くてもやる、他の子供が興味を持つて謹聽して居るときでも居眠りをやる、それから思想が非常に動搖し易い、笑ふかと思へば泣く、それから身體の状態はどうかと云へば小さい、體格は中等である、歩き振りはグニャ／＼した歩き方をする、それから不器用である、眼の運動は左の眼が斜規で右の眼が正當である、其の他耳などには故障が無い、呼吸は口

でやる、口を始終開いて居る、喉佛が高い、齒は不整である、さう云ふやうな例が擧つて居ります、此の原因は親が悪い、父親が酒毒のために死んだとか云ふやうな者が多い、大體さう云ふ風になつて居ります、是で今日は極く粗末であります但し低能兒の特徴を御話しまして、明日は取扱上の注意をお話します。

### 第三回

本日は低能兒の取扱上の注意と云ふことのお話を致します、其の初めに低能兒教育の方針を確立して置かなければなりません、低能兒を教育するには何處に目的を置くか其の方針です、是は低能兒は到底普通兒のやうに高尚の目的を持つてやつても駄目であるから其の方針を先づ斯う云ふ所に置く、即ち自分で生活し得るに至らしむる、何か仕事が出来ると云ふことを先づ第一の目的とする、是は皆さんでありましたならば唯だ自活すれば尙ほ宜いが自活し得ると云ふことを先づ第一の目的とする、是は皆さんでありましたならば唯だ自活すると云ふだけでは駄目だ、必ず其の上に國家の爲めなり社會の爲めに貢献すると云ふ、さう云ふ立派な目的を持つて居らなければならぬ、即ち活きて居ると云ふことは高尚な目的を達するための手段である、活きると云ふことが目的ではない、活きるとは條件であつて目的ではない、ところが低能兒に取つてはさう云ふ高尚な目的を立て、も駄目であるから先づ低い所に目的を置いて、自活し得ると云ふ所に目的を置く、隨つて決して高遠な目的を持つのでなくして百姓でも何んでも宜い、父兄の地位が官吏であつても銀行會社の社員であつても、其の子弟が低能兒であつたならば百姓でも商工業者でも労働者でも何んでも宜いから、何か一つ仕事の出来る一定の職業に従事することの出来るやうに教育しなければならぬ、それを餘り目的を高遠の所に置いて父兄が教員であるから必ず教員にしやう、學者であるから必ず學者にしや

うと強ふるから却て其の子を害うて、何等の仕事も出来ない自活することの出来ない、詰り一生他人の厄介者になつて暮らすと云ふ者になつてしまふのだから、矢張り根本方針を其處に立て、置く。

さう云ふ所に教育の方針を立てたときに今度は先づ第一に注意すべき事は何であるかと云へば、是は身體の方面です、教育の方では養護と云ふ言葉を用ゐて居りますが、身體の養護鍛錬と云ふことが一番大切であります、此の身體の養護を圖るにしても矢張り普通の兒童とは違つて居ります、普通の兒童でありましたならば成るべく強健の體格を造る、さうして剛毅の精神——どんな困難に遭つても必ずやり通すと云ふ剛毅の精神を造ることが目的であります、低能兒にありては多少違ひます、低能兒に對しては強健と云ふ事も無論必要であります、熟練と云ふ即ち自分の手や足が自分の意思の儘に動くことと云ふことを一番主眼とする、即ち能く手足の働ける人間、運動の自由自在に出来る人間たらしむることを目的とする、それだから普通の人間とは主眼點が違ふ、低能兒にも身體の大きいのが随分あります、此の間例を引いたのは極く身體の弱いのでありましたが、身體の丈夫なものもあり身長の高いのもあり體重の重いのもあります、手や足が自分の意思の儘にならぬのが多い、力士などにはさう云ふのが有つて、身體が大きいけれども自分の意思の儘に手足が動かぬ者がある、それがために身體が大きく力が有つても自分より身體の小さい弱い者に負ける、是は身體の方面であります、

今度は德育の方面はどうであるかと云ふと、低能兒に對して高尚な道徳を説いたり或は忠君愛國はどうであるかと云ふやうな高尚なことを説いても駄目です、低能兒に對しては日常の座作進退即ち行儀作法のやうなことに主力點を注いで、さうして人並に行くやうにする、それから常識を興へて人の中に遣入つても餘り人並に外れないやうにする、さう云ふ所に注意を置く、それから段々進んだならば友愛とか孝行とか忠君とか云ふことを説く、初めの目的は矢張りさう云ふ所に置く、是は矢張り低能兒教育に就て必要なこととあります。

次に智育の方面はどうであるかと云へば此の點は餘程注意しなければなりません、餘り強ふると低能をして益々低能ならしめますから決して無理をしてはいけません、詰り其の者が辛うじて生活することが出来れば宜いと云ふことに目的を置く、全力を智育に注いで普通以上の子供にしやうとするのは是は低能兒教育の本旨に反する、それだから父が學者であつても子供は百姓にする、百姓にするにしても全然學問が無くてはいかぬからそれに相當なる智育を興へる、それ以上に餘り多くを望まない、それで先づ第一低能兒教育に就て注意すべき所は体育、德育それから智育と云ふ順序になります。

それで低能兒の職業はどう云ふ職業が宜いかと云ふと是は一概には言へない、其の者の身體の狀況或は智力の有様、或は周囲の關係、さう云ふやうな所から極めて往かなければなりません、是は我國と事情が違ひますが第一に擧げてゐるのは農業其の次は園藝、其の次は靴屋——西洋では靴屋を擧げてありますが我國では主要なものにならぬかも知れませぬ、其の次は種々の細工物、斯う云ふものを擧げて居りますが却て成功するのではないか、それを無理に何處までも押通してやらうとしても到底不可能であります、一二の除外例はありますが一般に不可能であります。



斯う云ふ風に申上げましたが更に之をもう少し細かに申上げますと、低能兒と云つても實は色々種類がありまして、此の間もお話を致しましたが遺傳から來るもの、或は出生當時の状況から來るもの、或は出生後兒童の病氣から來るもの、或は學校へ入つてから教師若くは親の取扱方が悪いために低能兒になる斯う云ふやうな色々な原因があると云ふことを申上げて置きましたが、遺傳から來るもの若くは病氣から來るものは先づ第一に注意しなければならぬ、それは低能なり白痴なりは身體方面で何か病的原因が有るのではないかと云ふことに第一注意しなければならぬ、さう云ふ方面があつたならば、それに對して相當の治療を施さなければならぬ、例へば鼻に故障があるとしたならばそれに對して外科の手術を施すとか、或は微毒の遺傳のためであるならば相當の醫療を施すとか、それが先づ第一の手段であります、それに就てはさう云ふ方法を執れば宜いかと云ふことは私は専門家でありませぬから一々申上げられませぬが兎に角さう云ふ方法を執る、西洋では林間學校と云ふのがあります、我國でも多少やつて居るやうであります、が是は文字の如く森や林の中に學校を拵へる、是は初めの起りは獨逸でありましてシャーロットテンブルヒ及びホーヘンリッペンンの二箇處であります、さう云ふ方法でやつて居るかと云ふと低能性で身體の薄弱な隨て精神の方面も薄弱である兒童を、七月から十月までの四箇月の間森林に移す、殊に松の木や杉の木の新芽が茂つて居る林の中に移してバラックか何かで外で授業をする、さうして絶えず新鮮な空氣を呼吸させて授業は二時間乃至二時間半位やる、食物は朝には牛乳幾許、晝には幾許と云ふ風に注意する、其處に集まる兒童はさう云ふ者かと云ふと肺病の傾向の有る者、或は心臟病の患の有る者、或は腺病の疑の有る者、或は貧血の傾向の有る者、さう云ふ傾向の有る兒童を集めて四箇月間森林學校で教育するのですが、其の

結果は非常に良く往つて居るやうです、それで其の子供等が十月になつて森林學校から出て來る時には身體も良くなり隨て精神方面も回復する、是は獨逸ばかりでありませぬ、各國此の方法を真似て居るやうです、是は相當の費用は要しますか斯う云ふ方法は確かに宜い、天氣の好い時には快潤に外でやり雨の降る時には内でやる、さう云ふやうな方法に依つて彼等の身體方面の薄弱を先づ第一に癒して往くことに力を注がなければならぬ、尙ほ体育の方面は運動のこと睡眠のことなどに注意しなければならぬ、西洋から歸つて來た人は日本人は食物が悪いから低能兒が多いと云ふことを申しますが、實際日本で取扱つた所の例を見ますと食物の悪いために低能兒になつたと云ふ者は少い、營養不良のために低能兒になることはありますが食物の悪いために低能兒になつたと云ふ者は少い、それから運動遊戯は無論のことです、が体操なども亦低能兒に取つては必要であります、殊に近頃の体操は筋肉の運動と云ふことに重きを置いて居ります、私共の學校に居つた時とは違ひまして今の体操は一舉一動皆目的が有つてやつて居ります、是は何處の筋肉を運動させる、是は何處の部分の運動させると云ふ目的を持ってやつて居りますから大變宜い、其の他電氣療法とかマッサージなども一部の低能兒に對しては宜いと思つて居ります、是は主に身體方面に就て申上げましたが、

次にこの低能兒にも當振りませぬが、一般の遺傳的若くは病的の低能兒に對して感覺器官の練習と云ふことが必要であります、是はさう云ふ風にして感覺器官を練習するか或は筋肉の運動を練習するかと云へば種々の方法があります、昔から色々な方法をやつて居りますが、要するにそれを見ますと現今教育の方面で相當に名高くなつて居るモンテッソーリの方法に似たやうなことをやつて居るやうであります、此

の人は伊太利の人で今四十幾歳になつて居る婦人ですが、羅馬大學を卒業してから精神病院の助手を勤めて居りました、其の時に白痴低能兒に關係しました、それだから此の人は低能兒教育を實際やつたのです、其の時に低能兒教育に關する所の意見を發表しまして初めて社會から注目された人であります、今は醫學博士になつて居りますが、非常に低能兒教育に興味を持つて二たび大學に入つて教育方面の研究をしまして、唯今では低能兒教育ではない普通兒の教育をやつて居りますが、三才から七才までの兒童を受持つてやつて居ります、其の教育所を兒童の家と申します、唯今幼稚園の方面で餘程參考になるやうなことがあります、此の人の教育法の原理はお話しませぬが感覺教育の事だけお話し致します。

第一に視覺の練習であります、視覺と云つても色々ありまして大小の判断もあり或は形體の判断もあり或は色彩の判断もあります、今茲に其の教具の實物はありませぬが、東京のフレイベル館と云ふ處で賣つて居りまして一組二十五圓です、私はフレイベル館の器械を見ましたが、自分でも拵へることが出来ます、大小の判断はどうしてやるかと云ふと一つは天秤の分銅の如きものを孔の中に入れる、木で拵へたもので分銅の形のやうな孔が明いて居る、其の孔は大きいのもあり小さいのもある、分銅は澤山拵へて混雜せしめて置く、さうしてそれを早く入れさせる、早く入れるには是は何處へ這入るのだと云ふことが判らなければ早く這入らぬ、早く這入つたのは大小の判断の早いのです、其の器械は先づ三種あります、分銅の高さが同じで幅の違つて居るもの、幅も同じで高さの違つて居るもの、幅も高さも違ふもの、斯う云ふ三種あります、それから斯う云ふやうな四角な器械がありました、初めに大きくて段々小さくなつて居る、それを混雜せしめて置く、さうして大きなものから小さいものを段々上へ積重ねさせる、それを高塔と云ふ、

それから横にさう云ふのを列べる、幅は同じでありますが高さが少しづつ違ふものを横に列べる、さうすると梯子が出来る、さう云ふのを長梯と云ふ、それに依て大小の判断をやらせるのです、其次に形體の判断をさせる器械があります、今此處にモンテッソリーの本を持つて來ましたが是はモンテッソリーの肖像です、モンテッソリーが今子供に教へて居る處です、是は今話したやうな高塔を積重ねたのです、こちらの方は長梯或は階梯を列べた處です、是は分銅のやうなものです、それを順次に入れて居る處です、それから形體の判断と云ふのは是れです、是は矢張り斯う云ふやうな形の板に凹んだ處がある、其處に嵌るやうに形が出来て居る、其處へ持つて往つて亂雜になつて居る板を嵌める、それが形體の認識が早くなければ早く嵌めることが出来ない、是で以て形體の認識をさせるのです、それから色彩の判断と云ふのは是れであります、是は絲卷です、絲卷に色々な絲を巻いて置く、さうして同じ赤なら赤の色であつても濃い處から段々淡くなつて居る、斯う云ふものを八種なら八種用意して是も混雜させて置く、初めは赤と青を選ばせる、それから段々進むと赤なら赤の色で濃い色から段々淡い色に列べさせる、それが出来たならば今度は總ての色を濃い處から淡い處に排列させる、種々の色が混雜して居るのを選別けてそれに依て色彩の判断をさせやうと云ふのがモンテッソリーの方法であります。

其の次には觸覺の練習です、之をやらせるのは何んでもない、實際に物に觸らせる、初めは極く粗末な鑷紙と普通の紙とでやらせる、斯う云ふ板に此方の半分は鑷紙、此方の半分は普通の紙を貼つて置いて目を閉ぢて觸覺の練習をやらせる、それが馴れたならば色々な布片に觸らして觸覺の練習をやらせる、仕舞には先生の處に往つて觸らして見て是は何んであると云ふことを判らせる、其の次には溫覺、是は餘程困

難ですが金属の器具にそれ／＼温度の違つた湯を入れて持たせて此の方は此の方より温度が高い、此の方は此の方より温度が低いと云ふことをやらせる、其の次には重量感覚、之をやらせるには何か二つのものを持たせて此方は重い此方は軽いと云ふ判断をさせる、是は形の違つたものは大人でも間違ふ、間違ふのは當然のやうです、間違ふのは却て精神が発達して居ると云ふことを申しますが、モンテッソリーの方は大さ一寸五分ばかりの平方の薄い板です、是は桐或は檜或は樅等で出来て居るのがあります、桐の木で出来たのは軽く樅の木で出来たのは重い、それを目を閉ちて持たせて孰れが重いか孰れが軽いかと云ふことを判断させる、初めは十枚位持たせる、それから段々減じて五枚にし三枚にする、一枚にして判つたときには本統に重量感覚の練習が出来た時であります、普通の人でも重量感覚は面倒ですが低能児は尙更むづかしい、それから嗅覚です、嗅覚の方は薔薇若くは菫などの香を實際に與へなければならぬから困難です、而も香及味は直々麻痺されてしまひますから困難でありますがモンテッソリーはやつて居ります、それから聴覚の練習、是は木で拵へた小さな壺に蓋がしてありまして其の内に小石或は穀物或は鈴などを入れて置く、何か入つて居るか判らぬ、之を耳の傍で振つて是は何の音であるかと云ふことを判断させる、それから何方で鳴つて居るかと云ふ方向の判断若くは距離の判断をさせる、是がモンテッソリーの感覚教育の方法です、其の他には紐を結ばせること、それから鈕を掛けさせること、ホックを掛けさせること、さう云ふやうな練習もやらせて居ります。

何故にさう云ふ事をやらせるかと云ふと吾々の智識は悉く感覚器官から来る、即ち吾々が視たり聴いたり觸つたりすることに因て智識が発達して来る、若し吾々が視たり聴いたりする機能が不完全であれば正

確な智識は得られない、詰りさう云ふ所から感覚器官の練習をやらせるのです、低能児の観察が不十分なのは感覚器官の不完全に基きますから感覚器官の練習と云ふことが必要であります、モンテッソリーは三才から七歳までの子供に對してやらせますが、低能児は七歳になつても八歳になつても五歳か六歳の普通児にも劣つて居りますから此の練習をやらせる、それをやらせるには一度に命じて是は聴覚の練習だ、是は視覚の練習だと云つてやらせては駄目だ、詰りお前等は自分の好きな事をやつて見ろと言つてやらせる、彼等にさう云ふ事を苦痛を與へてやらせることはいかぬ、彼等が自ら好んで發動的に遊戯的にやるやうに仕向けなければならぬ、此のモンテッソリーの方法は亞米利加に餘程盛んに行はれて居ります、亞米利加人は物好きでありますから他國人が何か違つた事を始めると直ぐそれを真似する、昨年か一昨年でありましたが亞米利加から來た教育雜誌を一寸見ますと、家庭に於ける兒童教育に付て一番参考になるべき本は何かと云ふ質問に對してモンテッソリーの本が一番参考になると云ふことが書いてありました、モンテッソリーは低能児を研究した人でありますから斯う云ふ方法は低能児の方から考へたことであらうと思ひます、それでさう云ふ方面から感覚器官の練習をすることが必要である。

次にお話致しますのは、今迄は遺傳若くは病氣に原因した低能児の事でありましたが今度は斯う云ふのがあります、先生がやれ／＼と無理に強ひた／＼めに低能児になつた、或は家庭に於て父兄が無理にやれ／＼と強ひた／＼めに低能児になつた、是は何かと云ふと非常に精神力を使つた／＼めである、最早是れ以上一步も進まぬ状態になる、恰も吾々が徒歩で旅行して無理に遠い處を歩いた／＼めに最早是より一步も進まぬと云ふ状態になると同じことになるのです、之を稱して精神上の死點と云ひます、餘り無理に強ふると竟

に其の點に到達する、さう云ふ風に總て無理にやつた所の兒童に對して注意すべき事をお話しますが、さう云ふやうな兒童は所謂精神的の怠慢で何をやらしてもやる氣にならぬデツとして居る、或は又取扱が非常に困難で始終のらくらして居る、學校へやつても遠くへ遊びに往つて二時間も三時間も遅れて往く、仕事もしない、斯う云ふやうな者に對してどう云ふ方面に注意するかと云ふと、斯う云ふ兒童に對しては食物の注意を要する、或は運動遊戲等をさせることは必要でありますが教師が唯やれ／＼と言つても駄目である、さう云ふやうな兒童でも何か一つ長所を持つて居りますから其の長所を繋り處にする、例へば圖畫が巧いとか、繪を描くことが好きだとか或は園藝が好きだとか、或は細工物が好きだとか、手工が好きだとか或は音楽が好きだとか、まるで何處も採り處の無いものではない、何處か引掛る處がありますから其の採り處を捉へてそれを出發點とする、丁度開墾事業のやうなものであります、開墾事業は遠く郷里を離れて茫漠たる開墾地へ這入つて往く、開墾地は初め水の在る處に這入つて往く、さう云ふやうな水の在る處を根據地として段々鋤を入れ鋤を入れて開墾して往く、不毛磽确の地から開墾すると云ふことは減多に無い、それと同様に精神上に就ても出来ない方面を無理にやつても駄目であるから矢張り何處かに長所がある、其の長所を捉へてやつて往かなければいかぬ、ところが精神方面には矢張り一の精神作用の傳播力を持つて居る、傳染力を持つて居る、悪い所があれば其の悪い所が擴がらうとする、長所があつても其の長所が擴がらうとする、今迄は善い箇所が一箇所あつたが悪い方面が大であつたからそれが擴つたが、今度善い方に手を擴げて往くとそれが段々擴つて悪い方面が直ると云ふことがありますから、さう云ふ方面に注意して段々精神を改良して往くことが白痴でも低能でも必要であります、白痴教育に就て瀧の川學園長

の話にもさう云ふことが表はれて居ります、教師がさう云ふ子供を扱ふにはどう云ふ點が必要であるかと云ふと二つの點が必要である、一は屢々僅かづゝ改めて往くこと、二は多くを望まないことと云ふこと、是が大切であります、丁度譬へて見れば茲に一匹の蛙がある、其の蛙の足へ棒を上から落す、落して往くときに非常な緩慢なる速度である、一分間に〇、〇三仙米突の速度で續いて落して往く、さうすると蛙は自分の足に棒が落ちて居ると云ふことは知らずに居るが五時間の後には蛙の足が棒で貫かれてしまふ、それを蛙が痛いと感じない、吾々が或る程度以上の刺戟がなければ痛いことと云ふことを感じない、其の痛覺の刺戟の域に達しない所の一分間に〇、〇三仙米突の速度を以て棒を落とすと五時間の後には蛙の足が棒で貫かれて居る、それから又蛙を常溫の水に入れる、さうすると蛙が喜んで居る、其の水を徐々に温める、一秒間に攝氏の寒暖計の〇、〇〇二と云ふ温度で段々之を温める、さうすると二時間半經つと云ふと其の蛙が死んでしまふ、けれども其の蛙は少しも苦痛も何も感じない、若しさうでなくして初めから温めた湯の中へ蛙を入れると蛙は大騒ぎをする、ところが極く僅かづゝ徐々に温めると殆ど苦痛を感じない、又斯う云ふことがある、生きて居る魚を淡水の中に養ふと云ふ考で初めは鹹水の中に飼つて置く、さうして一日に一柄杓つゝ鹹水を出して淡水を入れる、又翌日も一柄杓づゝ鹹水を出して淡水を入れる、さうすると何日間かには淡水にすつかり變つてしまふ、それでも魚が生きて居る、永久には生きて居らぬけれども或る期間は生きて居る、それを初めから淡水の中に入れては駄目だ、斯う云ふ風に徐々にやれば其の性質を變化することが出来る、之を低能兒教育に應用すれば宜いと云つて居ります。

其の次には道徳方面に於て往々缺陷のある者があります、一般の兒童でもさうであります但しにさう云

ふ低能児に對しては一定の作業を興へる、是は學校でも家庭でも同様です、其の作業はどう云ふものが宜いかと云ふと、學校では學校園の手入をやらせるとか或は手工とか或は掃除とかさう云ふ事をやらせる、又家庭では鶏を飼ふとか蜂を飼ふとかして彼等に其の世話をさせる、詰り何か彼等に一定の作業を興へる矢張り閑居すれば不善を爲す、其の點は低能児に於ては殊に甚しい、それから或種の低能児になると平生は極く溫和しいが一時に爆發する、さう云ふのは白痴でも低能児でも危険であります、而もさう云ふのは非常に劇しく起つて来る、何かの機會にちよつとでも自分の氣に喰はないことがあるとか或は何か自分が空想に驅られた時分に急に爆發する、其の時に親であらうが兄弟であらうが朋友であらうが何んであらうが頓著ない、非常な殘忍酷薄な行爲をする、それで低能児の取扱に對しては平生何時でも心を平和の状態に置くことが大切である、殊に斯う云ふのは十八歳から二十五歳頃に多く現はれる、さう云ふ時には殊に精神を平和の状態に置くことが必要であります。

それで低能児に接する教師や、親は三つの注意すべき事項があります、それは何であるかと云ふと第一は確固、第二は親切、第三は忍耐である、即ち今お話ししたやうな蛙の足を五時間も掛つて棒で突通すと云ふ忍耐が必要である、又低能性の子供は非常に依頼心があるから親切に教育することが必要である、それから確固——しつかりとやらせることが必要である、其の他教授の方面に關しては是は學校に關係する人だけに必要な事柄であります、唯だ項目だけを申して置きます、それは直觀的に教育すること、即ち實物を視せたり聴かせたりして教育する、而してそれは餘り多くを授けないで少しづつ授けて成るべくそれを練習する、西洋の言葉に斯う云ふ言葉があります『能ふは知るよりも良し』是は當然のことでありませんが

さう云ふやうな趣意で僅かづいでもそれを本統に自分の物にすると云ふことが必要であります、それから低能児に對しては團體教育はいかぬ、個人教育でなくてはいけません、一教室に十人なり十五人なり容れても宜いが實際教育するには個人々に教育する、それから實際的の智識を重んずると云ふやうな事であり、さう云ふやうな事であり、西洋諸國では低能児の教育は餘程發達して居ります、向ふでは一の學校となつて居るときには補助學校と云ひ、それからさうでない普通の學校に低能児の學級だけ設けてあるのを補助學級と云ひます、さう云ふ設のある處では初めから補助學校に容れることをしませぬ、大抵は普通の學校に容れる、さうして一年教育して見てどうしても是は駄目だと云ふことになる、學校長の検査、訓導の調査及び學校醫の診査、それだけの意見を集めて補助學校若しくは補助學級へ送つてやります、さう云ふ風に十分な注意を拂つてやつて居りますが、其の目的とする所は普通兒若しくは普通兒以上に教育すると云ふことではないやうであります、我國でも之をやつて居る處がありますが、此の低能兒教育に就ては未だ十分發達して居りませぬ、以上三時間に亘りまして極めて概畧を話致しました、自分は此の方面に於て經驗の無い者でありまして、隨て確信を以て皆さんにお話することの出来なかつたのは甚だ遺憾とする所であり、御清聴を瀆しまして有難うございます。(完)

○遊 戯 運 動

北海道札幌師範學校教諭

牧

信 立

第一回

私は唯今御紹介を戴きました當師範學校に職を奉じて居ります牧と云ふ者であります、此の名簿を拜見致しますと大分に見識りのお方がございます、今回私が御依頼を受けました此の遊戯運動に就きましては、從來より見識りを受けた方々殊に不肖私と同様に教育事業に従事して居らるゝ諸君に對しては、何等お話する必要はないと認めて居ります、否な種々御研究の上に著々やられつゝあることゝ考へますが、唯だ此の團體には宗教家の方々及び感化救済の事業に御従事なさつて居らるゝ方々もあり、亦御婦人方を拜見致しますと篤志の方方もあります、私の平素考へて居ります事の一端を述べるとは非常に私は此上もない仕合と存して居ります、實は私は此の遊戯運動に就きましては平素研究して居ります所の不良兒低能兒に對する遊戯運動、其他一般の遊戯運動の定義、是等は如何なるものであるかと云ふことに就てお話を致したい考で腹案をいたしましたところが、いや主務省に於てあなたにお願をする講話はさう云ふ事柄ではない、さう云ふ理論めいたことは他の方々からお話もあらうし且又さう云ふ時節でない、大に實行の方面に向つて意を注がなければならぬ今日である、殊にあなたは此の遊戯運動に就ては朝から晩までやつて居ると云ふことを聞いて居るから、此の三時間に於てどうか其の一端なりともお示しを願ひたいと云ふことのお話が一昨日ありましたので、急に材料を變へまして今日から三時間に亘り、甚だ不束でありま

すけれども諸君と共に實際もやり、亦之に對して説明もして御免を蒙りたい考でございます。

本時間に於てお話します事は、不良兒及び低能兒其他感化救済の事業に従事して居らるゝ方が應用して居る所の運動遊戯は、歐米先進國の事柄を調べて見ましても大同小異で、殆ど小學校の教材に準據して居ることが明かであり、そこで今此處で小學校の教材を全部に亘つてお話することは到底出来ませぬから、先づ現在初歩の時代としてやる今日に於て此の位の程度であると云ふことを御参考に供したいために、甚だ拙いものであります、此處に表を掲げましたが、遠い方々には字が小さくて見えないと云ふ方もあらうと思ひますが、急にやつたことでありまして餘り粗末に書いたために諸君に對してはお氣の毒であります、之を以て御辛抱を願ひたいと思ひます、それで此の實際に就きましては此の會員の中に私と共に手を取り汗を流した方々がありますから、一昨日其の方々へお係の方から御指名を願つて今定めて準備中であらうと思ひますが、其の方々にお出でを願つて實際此の方法を御覽に入れ、最後に時間の許す限り説明を加へて此の一時間を終りたいと思ひます。

| 種 別   | 運 動 練 習 案 | 運 動 順 序 | 用 意       | 運 動       |
|-------|-----------|---------|-----------|-----------|
| 教 練   | 同 體 操     | 下 肢     | 手 腰       | 足 左 右 出   |
| 同 體 操 | 同 體 操     | 頭       | 手 胸       | 頭 前 (後) 屈 |
| 同 體 操 | 同 體 操     | 上 肢     | 直 立       | 臂 左 右 下 伸 |
| 同 體 操 | 同 體 操     | 胸 肢     | 手 胸 足 前 出 | 同 上 下 伸   |
|       |           |         |           | 上 體 後 屈   |

主運動(十六分)

同 同 同  
遊 同 同  
載

平 均  
軀 幹 側 方  
跳 躍

手 腰  
手 胸 開 脚  
手 腰  
圓 形

舉 踵 半 屈 膝  
上 體 左 右 屈  
其 場 跳 躍  
ボ ー ル 送 リ

整 理 (四分) 教 體 操 練

呼 吸

直 立

掌 外 反 頭 後 屈

此處に掲げましたのは或る一例でありますからして、必ず此の方法に據らねばいかぬと云ふことは毛頭ございませぬ、先づ一例を簡単に説明致しますと、此の一番上の欄はごう云ふ事をやるのであるかと云ふことを書いたのであります、次の欄はごう云ふ運動をどう云ふ風に排列してやるのであるか即ち形式段階運動の順序方法、或は基本的段階とか標準的段階とか小學校では申して居るのであります、即ち順序方法であります、事を爲すに當つては必ず方法順序があります、例へば一の器物を拵へるにしても指物師は何の材料を用ゐて幾日間乾かして、然る後何分位削つて何分位仕上飽を掛けて此の板と此の板と斯うくつ著けて一つの函を拵へる、最後の仕上としては如何なる塗物をするか如何なる彫刻をするか、而して出来上りは何程位に販賣するか、斯う云ふ順序方法になります、運動を排列するには即ち繁簡難易緩急強弱に依て排列するのであります、例へば餘り強い運動ばかり長く続けられない、或は餘り容易い運動ばかり長時間続けられない、又同一運動を長く繰返さぬ、亦非常に意思を用ゐる運動も長く続けられない、或は又意思を用ゐない所の粗雑な排列ばかりではなくして生理、解剖、心理上其の他諸方面から考へて排列した運動の順序であります、尤も此の練習案は初歩の練習案でありますから至つて平易で段階が極く少い、丁度食物に譬

へますと子供は人乳或は牛乳を以て身體の營養を爲すことが出来ませんが、二歳になり三歳になり四歳になり漸次成長するに随つて、十分に健康を維持するには種々なる食物營養分が必要であると同様に、先づ初歩の時分に課するには一汁一菜位で宜しいが、お酒を飲む人にはお刺身も要る口取も要る其の他の食物も要ると云ふやうな譯で、大人の身體を養ふためには大人の嗜好に適應する所の種々なる飲食物を要すると同様に、段々進むに随つて種々なる排列を要します、次には運動するには皆それ／＼準備が要る、即ち諸君が山に行くには山の仕度を要する、擊劍柔道をやるには擊劍柔道の仕度を要する、お芽出たい席に列するにはそれ相當の服裝を要する、御婦人方は束髪の時もあり丸髻の時もある、男子はフロックコートを著る時もあるが今日のやうな極く輕装の時もある、凡て運動は其の時々に依て準備と云ふものが變る、即ち吾々は其の時其の場處に依て服裝を變へて人に敬意を表するとき、お互ひの間に於てはイヤ君で済みますが晴の場處にはさう云ふことが出来ぬから種々なる用意を要すると同様に、運動を爲すに當つては必ず用意と云ふものがあるのであります、先づ斯う云ふやうな三段の順序であります。

次には本問題たる運動であります、足を出す運動、頭を正しうする運動、頭が曲つて居つては腦の血液循環が悪くなるから頭を正しうする、尙ほ頸の筋肉を強固にして所謂肺病などにならぬやうに頸は縦横前後にする、さうして血液の循環を盛んにして腦の活力を増す、次に上肢の運動——上肢の運動と云ふのは所謂腕であります、即ち二の腕一の腕、是は胸廓に附隨して居りますから單に上肢の運動と云つても此の胸廓に非常に影響するのであります、近來我國で呼吸器病が非常に多いために専門家が憂へて善後策を講じつゝあるやうであります、腕の運動と云ふものは單に腕のみにあらずして胸廓の發達、内臓器官の最

も主要なる肺臓心臓の機能を良くしてバチルスなどを嚙んでも感染しないやうにするのであります、頸が細くて腕が如何にも弱々として大根のやうに肋骨を見ると算へることが出来るやうに露はれて居る人は、一代二代位には必ず亡びる家柄であると私共は申して居ります、即ち胸が悪ければ活動が十分に出来ない腕の働さが十分でなければ日常の生活に不自由を感じる、重いものが持てない、作業に困難する、延いては心臓肺臓の機能が妨げられる、故に此の腕の運動と云ふものは單に吾々が腕のみのやうに考へますけれども、此の附根を考へて見ると胸廓と云ふものがあつますから、人體中最も健全に最も立派に元氣克く發達させなければならぬのは、此の胸廓中の肋骨の包藏して居る大切な器官、即ち肺臓心臓が此の上肢の運動に依て大に發達するのであります。

次は此の胸の運動——上肢の運動も無論胸廓内の運動にはなりませんけれども特に胸を正しうする、さうして胸の生理的作用を良くし機能を旺盛にする、一體我邦の人が歐米人と比べて見ると先づ第一に脚の發達が非常に悪い、次には胸廓の發達が非常に宜しくない、尤も脚などの發育の悪い原因は即ち神武天皇時代より今日に至るまで生活状態が皆座つて居る、行儀を良くする、此の行儀作法と云ふものが建國二千六百年間に體格の發達を非常に阻害して居ります、所謂退歩的にして居ります、即ちお座りをする脚を壓迫しますから筋肉の發育が十分でない、血液の循環を悪くする、脚の骨を曲げるから下肢の發達が非常に悪い、それで私は始終例を引くのであります、近頃は餘程無くなつたやうでありますけれども、御婦人方の歩き方を見ると内股に歩く、是は生活状態に因つたのが一つ、又一つには女子は服裝の關係から支那風を受けて外に出て歩いてはいかぬ、内に閉籠つて居るべきものと云ふ古來の習慣が此の原因を成して居ります。

りまする、今日は大分進化しつゝあるやうであります、殊に近頃の女學生などは文部省の統計に依りますと下肢の發育が非常に良い、何故かと云へば袴を穿く風か出来たために脚の働さが輕快になつて居る、その爲めに暢かなる脚が出来て居る、ちよつと今忘れましたが五年間に餘程伸びて居るやうです、脛骨大腿骨が餘程伸びて居るやうです、どうも我國では朝から晩まで座つて居る關係上、脚と共に胸の發達が非常に悪い、十分注意をして昔の武士のやうに嚴格なる習慣を以てちやんと座つて居るのは別であります、胸が整々堂々になつて居る、けれども段々それが不作法になつて參りまして安座と云ふことが盛になつて來たために、昔の人のやうに端然と座つて居らぬ、座るにも直ぐに横丁に寄つたり何かしますから、胸と云ふものが日々退歩する有様になつたのです、殊に二十年來の統計を見ますと胸の發達が非常に宜しくないと云ふ結果が、中等學校女學校などの生徒に現はれて居ります、そこで現在行はれて居る我が體操に於ては胸の發達を計るがために胸の運動を大にやらなければならぬ、此間他の講師から話があつたやうであります、婦人が乳が出ない、それがために牛乳、煉乳其の他を以て子供を養ふことが非常に多くなつた、是は實際であるやうであります、と云ふのは即ち胸の發達が悪いから自然此の乳腺と云ふものが發達しないそれで乳が出ないのであります、胸の發達が十分出来ましたならば、必ずや親の乳で子供を育てることが出来ぬと云ふやうなことは萬々無いと信じます、種々なる原因はありませうか、要は胸の發達が不十分なるがために斯ることになつたのであらうと識者が大に憂慮して居ります。

次の運動は平均と書いてありますが、身體の平均を取つて全體を調和させる、精神の命ずる所に因て我が身體を正しく扱ふと云ふのが是れであります、人は大なる活動を爲すに當つては先づ沈思黙考大に平靜



に安息することが必要であると同様に、運動と云ふものは手でも足でも亂暴に無暗に動かせば宜いと云ふ譯ではない、即ち平均運動の如く大に落著き大に靜に穩に安らかにする運動などは又大に養成しなければならぬ事柄であります、殊に亂暴なる不良兒低能兒其他感化救済を要する子供などは普通の子供と同様に之を矯正することが出来ない、彼等は何を以て矯正するかと云へば修身などを以て矯正しますが、一は平均運動を以て精神を落著ける即ち此の心身の調和を計ると云ふことが必要であると思ひます。

次は軀幹側方運動——是は一口に言へば横腹の運動です、どうも横腹と云ふものは使用されないものでございます、身體を前後に屈することは始終やりまされども、左右に曲けることは容易にやらない、殊に日本人などは前後に屈することが多いが、意氣揚々として輕快に歩くことが出来ない、教育家にしるた役人にしろ銀行會社員にしる其他總ての人が路を歩くのに必ず斯う云ふ按排式に考へ込んで歩く、殊に御婦人などは古來の習慣が然らしめたのでありませうが考へ込んで歩く風が多い、兎角御婦人は閑雅に優美に見せるためか内股に歩いて胸は縮めるに宜いだけ縮める、それだから内臓器官の發育が宜しくない或る外國人が神戸の波止場の上つて日本人のお迎の人を見たところが、其處に一見優美な立派な服装をした所の奥様風の婦人が、或は御亭主でも亡くなつたか或は親でも亡くなつたかと思はるゝやうに憐れで如何にも優柔なる姿勢をし、顔色蒼白意氣銷沈したる歩き方をして居る、之を見て彼の婦人はどうしたのだらうと訊いた外國人があるさうであります、一體此の前後の運動は日常多いが左右の運動は極く少い、それだから横腹の運動が非常に大切であります、日常やつて居る所の動作は運動から云ひましたならば必要ではありませんけれども、先づ左右の運動よりも前後の運動は効果から云へば少い、又餘り要求しない、

肋骨が弱かつたならば、如何に内臓器官を良くしやうと思つて滋養分を取つても藥を服んでも駄目です、外部的から之を良くしなければいけません、即ち横腹を擴張して横腹の機能を良くし血液の循環作用を好くする、殊に肋骨と肋骨との筋肉即ち肋骨筋肉が狭かつたならば、如何に内で活動しやうと思つても牢舎に容れられた囚人の如くで活動することが出来ない、内の大切なるものが參つて居る、之を時計に譬へて見るならば、如何に外側ばかり時計屋にやつて磨いても駄目であります、どうしても内の器械を掃除して貰はなければ時計が止る、内を良くするには外の胸廓を擴張する所の運動をしなければなりません、故に此の軀幹側方の運動は大に習練する必要があります。

次に跳躍運動であります、此處に御婦人が多勢居られますから一言しますが、今より十五年位前に私は附屬の小學校の教師として立つた時代があります、元來私は運動好きでありますから東京邊の諸大家の著した書物や雜誌を見て、跳躍運動と云ふものがあるが之を如何にして生徒に課したら宜からうか、從來は跳躍運動と云ふものが少く、一體跳躍運動の効果と云ふものは第一自信力、勇往邁進の氣象を養ひ身體を輕快に扱ふ運動と、此の筋肉とが相倚り相輔けて各部分圓滿なる發達をさせ、而して跳躍運動を以て總仕上げをするとも謂ふべきものである、其頃の新聞雜誌を見ますと跳躍運動と云ふことが頻りに書いてありました、軍隊では能く此の跳躍運動をやつて居りましたけれども、所謂軍隊一點張の跳躍運動は小學生や女子などには課されない、そこで私は是れならば宜からうと信する所の跳躍運動をやらせたのです、ところが君は何故女子に跳躍運動などをやらせるか、當學校の如き全道の模範となるべき所の學校に於て、斯の如き事を主任訓導の許可を得ないでやらせるのはいかぬぢやないかと大目玉を喰つた、何をやらせたか

と云へば繩飛です、今から考へますと何んでもありませんが、其頃はそんな事をやると女子の徳性を壊るとか女子をお轉變にすると云つて大に叱られたものです、今日は如何でありますか、男女殆ど選ぶ所のないやうな運動をやつて居ります、女子小學校に於ても餘りひどいと思ふやうなお尻が出るやうなことをなせをやつて居ります、あれをやらせることは宜いけれども極端だと云ふ考を持つて居ります、殊に女子の横股などが觸るゝとは少し憚りますが或は性慾を増させると云ふやうなことが起りますから横股を觸らせるやうなことをするのは宜しくない、現に七歳位の子供が淫らな事を覺れたなどと云つて、福岡の榎博士などが研究して居ります、是は一番仕舞に簡單に申上げる積りでありますが由々しき大事であります、私は其頃大に自信があつたから主任訓導に申したのでありますが、どうしても此の跳躍運動は運動中の運動として今から大に奨励しなければならぬ、併ながら男子と女子と青年と老人とは大に其の趣を異にして居る、青年男子は青年男子らしく勇猛果敢なる運動をやるけれども、女子の方は優くして女子の體格を造る上に於て必要なる部分は世界各國から善い所を採て以て、尙ほ女子の服裝等を考へてやつて居りますから先づ今の所では安全であります、寧ろ心配に堪へないのは自由跳躍運動と云ふもので、是は諸君と俱に大に研究しなければならぬこと、考へます。

次に遊戯であります、此の遊戯は遊戯一點張として扱ふこともありませんが低能兒不良兒、其他諸君の從事なさつて居らるゝ感化救済の諸團體に於て、遊戯を遊戯として扱ひになりますと云ふと、却て其の不良兒などは二倍の不良兒になります、勝負争ひなどをやらせると不良兒などはより以上の考を持ち、悪いことをしても必ず勝たうと云ふ心が此の遊戯に於て大に養まれるさうであります、是は斯道に關する本な

どを見ますと痛切に感じますが、私は残念ながら研究を致しませぬので唯だ諸君に言葉でお傳へするに過ぎませぬが、遊戯の取扱方は不良兒劣等兒其の他感化救済に従事して居らるゝ方々に於ては、遊戯を遊戯として單獨に用ゐることなく常に他の體操運動と相俟つて其の用を爲さなくてはいけません、即ち例を海軍に取つて申しますれば、軍艦には戦闘艦もあり巡洋艦もあり水雷艇、驅逐艦もある、其の他飛行機などがあります、是は單獨で以て決して戦に勝つことは出来ない、各相倚り相輔けて往かなくてはなりません、遊戯なども丁度それと同じとです、從來遊戯を遊戯として無茶苦茶に勝敗を争はせ、唯だおかしき面白いで過去つたことがあります、唯今世界各國の教授要目に據て制定せられた所の此の遊戯、殊に諸君が是から以後お奨めになるべき所の遊戯は、今日は遊戯の時間である明日は何々の時間であると云つて單獨にすべきものでないと云ふことを、文部省は非常に緻密な調査を以て其の精神を瞭かにして居ります、それですら必ず他の運動の終りに於て生徒が互ひに競争する、今迄は非常に嚴格でありましたが少し是から膝を崩して打解けて相笑ひ相樂んで往かうぢやないか、先づ一口に言へば斯う云ふことになるのであります、働いた後には茶菓子が出るお茶が出るのでありますから一番最後に遊戯をやる、即ち心身の整理、心身の調和を計る、餘り四角張つた運動をやつてはいかぬから、教師と生徒とが競争の上に於ては大に競つてやるが、不注意のために負けたとか或は大に活動したのために轉んで隣の人に追越されたとか、子供は天真爛漫でありますから大に笑ふ、そこで最終にやるのが此の遊戯であります。

次に遊戯をやつた後には必ず纏める運動をしなければなりません、先程お話しした通り函を拵へるにしても只だ拵へ放しではいけない、能く木賊トッパを掛け磨を掛けて而してワニスを塗りペンキを塗つて賣らなければ

ばならぬ、丁度それと同様に體操運動も最後に整理をする、詰り括りをする、建網に練が乗つても括らなければ取ることが出来ない、最初から順を逐ふて此處に到りますと心身の状態が如何にも圓滿に都合好く往きます、その状態を見ますと筋肉が皆ふつくりと膨れて内の血管なり毛細管なり總て血液の進らざる所なしと云ふ状態になります、今諸君の呼吸状態は如何と云つたならば沈黙考、私の不束なる話を聴き下さいましたために呼吸が怡も蟲の息の如き状態であります、けれども此處までやつた結果呼吸運動は實に盛であります、即ち運動の極點まで往つて居りますから呼吸作用が實に旺盛であります、でありますからどうして整理運動を行はなければならぬ、整理運動の中最も宜いのは何のであるかと云ふと、呼吸を調節する即ち深呼吸であります、深呼吸と云ふのはどう云ふものであるかと云ふと、今迄使はない肺の實質内にある所の氣泡、澤山の毛細管に空氣を送る、空氣の内には御承知の通り酸素がありますから、其の酸素を今迄五なら五送つて居つたものが此の遊戯まで往くと自然に要求をします、其の要求を入れて十なら十八なら八體格に應じて酸素を入れる、さうすれば平常の安靜なる呼吸に復するのであります。

以上は運動練習案に就ての極く大體の説明であります、細かいお話は時間の制限があつて出来ませぬが先づお客様に喚はせるには必ず此の方針に據つてやつて居ります、是は生理、解剖、心理上から割出して二十四分の時間なら是れでやれ、四十分の時間なら是れでやれと云ふことを明かにして嚮ふ所を吾々に示して居るのであります、故に諸君が是からお取扱になる所の子供は此の方針に準據しておやりになることが必要と思ひます、ちよつと休みます。

## 第二回

唯今申上げました運動は小學校に於ける現在の運動法であります、感化救濟事業にお用ゐになるには之に準ずるのが至當であると考へます、亦歐米に於てもさう云ふ風にやりつゝあるやうであります、諸種の著書に據つて見、又大家専門家に就て親しく聴きましても矢張り他に良法が無いやうであります、此の運動方法は獨り學校或は團體等でやるばかりでなしに將來は大に社會の方々に實行して貰ひ申し、社會に於ての一般體育に就ても向上發達を期さなければいかぬと考へます。

そこで極く簡単に申すならば、外國では學校に於ての體育運動と云ふものは寧ろ振はない、社會に於ての體育運動は實に夥しいものであるさうであります換言すれば日本では學校が非常に運動體育に努めて居ります、實に校長先生以下諸先生は子供の體育に就ては寢ても覺めても注意して居るのであります、例へば暑中休暇などの場合に於ても、學校に於ては父兄に衛生上其の他の注意をして居ります、即ち日本に於きましては體育と云ふものは學校なり軍隊では非常な勢を以てやりますが、之に反して社會では近頃は太分崩して參りました各府縣共に調子を揃へて來たやうではありますけれども、まだく歐米先進國には及ばぬこと甚だ遠しでのあります、例へば倫敦であるとか伯林であるとか或は紐育であるとか市俄古であるとか「ポストン」であるとか、其他二流三流の都會と雖も必ず町には公開體育場と云ふものが設けてある即ち社會の人の體格を良くし一日でも若返つて藥瓶などを持つて歩かぬやうに、氣分を良くして日常業務に従事するやうにと云つて、特に政府では命令を下して其の主管廳では莫大な金を投じて、人口の多少に因て體育場と云ふものが設けてあるさうであります、其の體育場の仕組は如何と云つたならば、札幌ならば先づ大通りとも謂ふべき處に二三千坪位より一萬坪位の敷地を取つて、其處には體育場長を置き専門の

教師を澤山備ひ、さうして幾多の器械即ち老人の使用し得る器械或は子供の使用し得る器械或は娘さん達の身體を良くするため、それ相當の器械を澤山設備して、さうして専門教師が此の器械は斯う云ふ風にやる、此處の部分をよくするのだから之をやりなさい、又老人の方々には只だ立つて居てさへも困難でありますから、助手の人が傍に往つて伸びない手を伸ばさせて或る物に鈍らせるとか、或は若い時にやつた陸上ボートなどをやらせる、其の他子供には砂遊び水遊び實に至れり盡せりであるさうであります、小さい區などでは區債を起して體育場を設けて盛にやつて居ります、殊に獨逸などでは近頃専門家の發表する所に依れば、實に幾十年前から我が身體と云ふことを考へて、常に心身の發達を計つて往かなかつたならば國が亡びると云つて、身體の練習法に就ては遺憾なく設備が出来て居るやうであります、私は日本の悪口を言ふのではありませんが、例へば鞆が壊れても金が無いからと云つて打棄つて置く、或は動搖圓木なども綱の斷れた儘經費が無いと云つて修繕が出来ない日本の今日の狀態であります、向ふでは壞れれば直ぐ修繕する、勿論金の力ではありませんが如何に體育に注意して居るかが判ります、歐米に於ては斯の如く社會體育が非常に盛でありまして、寧ろ學校及び軍隊に於ては體育と云ふことに就ては日本と反對ださうであります、聞く所に依れば今回の歐洲戰亂に因りまして得た所の事柄は澤山あるであります、中央政府に於ては幾多施設の中殊に體育上の事に就ては大にやらなければならぬと云ふやうな御計劃のあることも、或る有力な方々から時々報告があります、遠からず我が社會體育の發展を見ることが出来ると思ひます、又是非大にやらなければならぬこと、信じて居ります。

外國では其の様に社會體育が盛であつても、尙且つ各家庭に於ては之を以て未だ足れりとせず、家の主人及び妻君又はお爺さんお婆さんも共に起きたならば必ず此の運動法をやる、亦寝る時分にもやると云ふやうな工合に、寸時も我が身體の爲め運動の練習と云ふことは怠らぬと云ふことを聞いて居ります、又確かに記録にも書いてあります、ところが日本では三度の飯を食ふことは忘れない規律正しい、けれども内臓器官を健全にし何時でも活々とした氣分で業務に盡すと云ふ精神を以て居る人は至つて少い、運動などをやると何んだ君、書生になつたのかなど、云ふ、殊に御婦人などはあなた運動ですか、そんな事は女學校の娘時代ですと云ふやうな譯で毫も顧みない、もう十八九にもなると身體の鍛錬などはそつち除けにしてヤレ茶の湯とか生花とかお琴とか或はお化粧などに熱中して居ると云ふ風であります、是は良い風でありませうか私は日本將來の爲めにどうか諸君と共に此の風習の改良刷新を加へたいと考へて居ります。

然らば外國の家庭に於て如何なる事をやるかと云ふと、財産家は體育家と云ふものを備入れて置いて、お醫者の藥を服んでも癒らぬと云ふ娘さん或は息子さん或はお爺さんお婆さんに體操をやらせるのであります、諸君は體操と云ふと兒童のやるものゝやうに思はるか知りませぬが、外國ではどうか私の處へ來て見て下さい、どうも私の子供は脊骨が曲つて來たやうです、或はどうも娘が近頃肩が落ちて肺が悪くなつて居るやうですと言へば、宜しうございます何時々上に上りますと言つて體育の先生が往つて見て、是は二箇月位掛ります、此の筋肉を斯うやつて引張直さなければいかぬとか、或は是は藥を服んで左腕右腕を癒さなければならぬと云ふやうな譯で、向ふでは家庭體操が非常に盛であります、朝起きると直ぐに輕装をして芝生などに出て家族一同が主人と共に體育の教師から習つた所の體操運動を行ふ、之を家庭體操と云ひます、殊に盛に行はれて居るのは丁抹の「ミューラー」と云ふ人の著した家庭體操法であります

是は丁抹だけで五万部位賣れたと云ふことであります、又亞米利加人の著はした擬似體操法と云ふのがありますが、それは餘り堅苦しくはいかぬと云ふので水を汲む真似、珠を磨ぐ真似、或は戸を開けるとも軽い戸であるけれども無理に力を出すとか、いろ／＼な物真似をして自然興味を付けて筋肉を丈夫にしやう、身體を立派に發達させやうと云ふので、種々なる物真似の運動が十幾つか載つて居りますが、是れなども何萬部賣れたと云ふ記録があります、近く日本で申しますならば、嘉納高等師範學校長なども此の擬似體操と云ふものを表はされました、嘉納先生は知名なお方で非常に多忙であつたしやいますから、東京へ出たのを幸ひ同先生の多年濫奥を窮められた體育談を聴きたいと云ふので、一週間も前から手紙をやつて漸く面會して目的を達すると云ふ方が澤山あるさうでございます、私なども出京の節は必ずお目に懸つて歸りますが、先生は殆ど寢食を忘れて教育事業に盡瘁され應接に違ないと云ふお方であるにも拘らずどうしてさう何時もお健かでありますかと質問しますと、それは良い質問であるが自分は疑るから起さるまで運動をやつて居る、寢て布団一枚で身體を伸す運動をやる、寢て居つて突張る運動、それから臍下丹田に力を入れて呼吸をする腹の運動もやつて居る、又シユラー氏の著はしたやうな擬似體操もやつて居る、それから若い人と講道館で柔道をやることもある、そんな事をやつて薬も服まず益々健康で意氣天を衝くと云ふ有様でやつて居る、君等は職掌柄大に此の體育を奨励して呉れなくてはいかぬと云ふやうなお談義を聴いて最近歸つて來ました、又諸君の中には御承知の方もあらうと思ひますが東京高等師範學校の教授に永井道明と云ふ方があります、此のお方は高等師範博物科の御出身で卒業以來中學校師範學校等に職を奉じて中學校長を歴任して今日は高等師範學校にお務になつて居るのであります、此の方は元來青年

の體育運動と云ふことに非常に力を入れられて、どうしても青年を率ふるには身體を精神と結び著かなければいけない、單に學科のみ注入してはいけない、必ず身體の圓滿なる發達を期して然る後に智育なり之に結び著けなければいけないと云ふので、學生時代から研究して論文などを書いたと云ふ方でありませう、自分が學校長になつてから主に修身を受持ち外に體操の教科を受持ちて私のやうな輕快な服裝をして常に青年を指導したのであります、さうして職員や青年などを率ふるに平素さう云ふ言葉を以てしたかと云へば、青年は大に活動せなければいかぬ、然る後に規律ある生活を爲さしめ之に智育德育を結び著けなければいかぬと云ふ方針を示して大にやつた結果、時の所管廳の方々の認むる所となり、さうか一つ君が體育家となつて日本全體の學校體育運動の主管者になつて欲しいと云ふ約束の下に遙々留學して歸朝せられ唯今高等師範學校の教授の職を奉じて居られます、昨年當地へ來られ小學校教員の方々を指導して往かれましたが、永井先生が留學して居る中に到る處家庭體操をやつて居るのを見て大に感ずる所あり、我が日本などに於ては殊に此の家庭體操が必要だと云ふので、先年簡易家庭體操と云ふ本を著はされて、丁抹の或人の體操を紹介し瑞典の家庭體操を紹介し、次に日本現在の家庭問題として是れ／＼の運動をやつて居つたならば業務執行上、生活狀態上必ずや資する所があるだらうと云つて外國の例を引いて先年公にされたのが、即ち左に掲ぐる所の家庭體操法であります。

## 永井道明氏の簡易家庭體操法

- 一、踵を上下し足尖を開閉する運動
- 二、頭を前後に屈げる運動

手 腰  
手 胸

- 三、臂を上下に伸す運動  
直立
- 四、體を前後に屈ける運動  
手開脚立
- 五、臂を上下に振る運動  
直立
- 六、臂を左右に振り體を左右に廻す運動  
手開脚立
- 七、臂を左右に上下し膝を屈伸する運動  
立
- 八、仰向に臥し脚を上下する運動  
手開脚立
- 九、體を右左に屈ける運動  
手開脚立
- 十、臂を前より上に舉げ左右より下す運動  
直立(呼吸)

以上

そこで前にも述べました通り學校だけで體操をやつても効果がなと思ひます、どうしても家庭に於て日常やらなかつたならば効果が少い、それは學校の體操のやうに一二とか何んとか嚴格なる號令の必要はありませんが、兎に角規律正しい體操を正確に行ふと云ふことが肝要でありますから、本時間に於て是丈の説明をして永井道明先生の家庭體操を御紹介しますから、どうか諸君が卒先して役所に出て居る方は晝辨當を食つた後に此の體操をやる、或は商法に従事して居る方は或る閑を見て廊下若くは裏などに往き斯う云ふ體操をやる、又吾々のやうな教育家は體操運動の外に、斯る家庭體操を日常行ふことを希望して息まぬのであります、私は不肖ながら師範學校に職を奉じて居りますが、朝八時より午後三時に至るまでの間に十二時から一時まで休憩しまして六時間、朝から晩まで斯う云ふ服装でやつて居ります、一週間に

五時間受持つて居ることが三度、その他附屬小學校の教生の指導やら及び自分の研究やらで身體は綿の如く疲れますが、元氣は潑刺として毫も消耗しませぬ、是れ全く體操運動の結果と信じて居ります、どうか諸君は不肖私が御紹介致しました體操運動及び家庭體操などを十分に實行されまして、私より以上の健康を以て勇往邁進されんことを希望致します、私は斯う云ふ體格でありますから家庭體操などは必要でありませぬが、私の宅へ來られた方は御承知であります、寔に詰らぬ長屋であります、種々なる運動器械を設備しまして四歳になる男の子、十一歳になる女の子に家庭體操をやらせて居ります、子供等は輕装して私の號令の下に一生懸命家庭體操を主として致して居ります、四歳の男の子などは母體に居る時から旨く往つたか知りませぬが慾目で研究して居りますが、家庭體操をやつてから一層身體が宜しくなつたと認めて居ります、唯だ困つたことには老人と自分の妻には未だ家庭體操を施すことが出来ませぬ、妻などはどうも笑つて困ります、老人は七十六歳でありますから強てやらせることも出来ませぬが、自分の妻には早晩子供と一緒にやらせたい考であります、若し他日相當な宅でも拵へましならば簡易な體操器械などを設備しまして、自分を首め家族等の身體精神と云ふものを家庭體操を以て陶冶鍛鍊したいと考へて居ります、此の時間はどうか皆さん御迷惑でありませうが私と共に此の體操をやつて戴きたいと云ふことをお約束致したいと思ひます、是は決して理窟の學問ではありませぬ、實行して効果あることを確實に認めたことを御紹介申すのでありますから、出来るだけ皆さんたやりになることを切望致します、先づお饒舌は是れで止めまして實習をやつて来目に懸けます。(以下實習)

實は先達て一時間の所を二時間申上げることになりまして、多分今日の一時間目は先日の二時間目にやつた事柄だらうと思ひ、實は私も心の中に多少心配して居りましたから電話を掛けて伺ひましたところが今から直ぐ始めるやうにと云ふ御注意がありましたして飛んで参つたやうな次第でございます、今日は一時間で遊戯の事を申上げ、尙ほ先日申上げた家庭に於て亦各團體に於て極く簡易な器械で且つ費用も餘り掛らずに大に奨励した方が宜いと思ふものを持つて来て、諸君の御覽に入れる考でありましたが、餘り急なので夫等の準備が出来ませぬために、唯だお饒舌だけをして御免を蒙りたいと思ふのであります、それで先般も申上げた通りに、私共と職を同うして居る諸君は是より私が申述べるやうな事柄は既に業に十分御承知のことと思ひます、寧ろ駁辯に過ぎぬだらうと考へますけれども、此間も申上げた如く各團體の方々が居られますので、特に其のお方々の爲めに多少なりとも御参考になつたらと云ふ考を以て申上げるのでありますから、十分御承知の方はどうか其の積りでお聴を願ひたいと思ひます。

遊戯の目的及び教授上の注意に就きましては、諸君が十分御承知のことと思ひます故に、本時間に於てはさう云ふやうな理論めいた事柄は止しまして、直に本論に入つてどう云ふ遊戯が一番効果があるか、又絶対に用ゆべからざる遊戯は如何なるものであるか、尙ほ斯う云ふ遊戯は大に警戒を要すると云ふやうな事柄に就てお話をしたいと考へます、本日も此處に書いて参りましたが東京の高等師範學校に於きまして児童は如何なる遊戯が一番好むであらう、又男兒はどう云ふ遊戯を好くであらう、女兒はどう云ふ遊戯を好くであらうと云ふので先年統計を取つて見たことがあります、是等も大に諸君が注目して將來教育の爲めに参考にしなければならぬと思ひますが、吾々が曾に遊戯を以て勝負争ひをさせる、何等そこに系統及

び生理、解剖、心理上等より考慮した確定の案なく、唯だ斯う云ふ事は宜からうと思ふから課するのである斯う云ふ事は宜しくないと思ふから課さないと云ふやうことを以て、遊戯を勝負の爲めに全力を擧げてやると云ふやうな事柄に就ては、どうも是迄私共がやつた事で如何はしい遊戯が澤山あるのであります、そこで高等師範學校で調査した事柄は、一つは歐米の各小學校に於てやつて居る所の遊戯を其の儘児童に課す、又從來日本にあつた所の所謂日本獨特の遊戯がありますからそれも課す、即ち歐米の遊戯と日本で古來からやり來つた所の遊戯をも混ぜてやつたのであります、それを滿三箇年間同じ教師が児童に就て實驗して見た、尙ほ高等師範學校ばかりでなく中央を基點として百八十二の適當なる學校に御依頼をしましてこれ／＼の遊戯が我が學校ばかりでなく歐米の各團體各學校に於てもやつて居るが果して共通するか否や如何なる遊戯を児童が一番喜んでやるか、又男女に依てどう云ふ遊戯を最も好むか嫌ふかと云ふことに就て、運動方法審判等の一定の方案を定め同じ教師を以て滿三箇年間實驗をしたのが即ち左に掲ぐるものであります。

○男兒ノ最も好ム遊戯

|             |       |
|-------------|-------|
| 一 帽子 取      | 六十七 校 |
| 一 バスケッ トボール | 二十四 校 |
| 一 旗 送 リ     | 二十一 校 |
| 一 蛇行競走      | 十 九 校 |
| 一 陣 取       | 十 八 校 |

先づ初から説明しますと男兒の最も好む遊戯には帽子取と云ふのがあります、是は紅白の帽子を冠つて各個人がやる場合がございます、即ち隻手で帽子の取合をすることもあり兩手でやることもあります、それから團體を組んで前列後列即ち紅白二組に別れて或る若干の距離を置き、吶喊の聲を揚げたり軍歌を唄つたりして帽子の取合をやらせることもあります、それで教師なる審判官は兒童の狀態を見て、例へば全滅といつて一方が帽子を全部取られるまでやらせて勝敗を決する場合と、それから三分間か五分間やらせて紅白軍を一教師の前に集めて紅が何人残つて居るか白が何人残つて居るか、帽子の残つて居る數に依つて勝敗を決する場合もあります、此の帽子取が百八十二校の中六十七校と云ふ多數を占めて居ります、茲に示すが如く男兒の最も喜ぶ遊戯が現在に於ては是等の遊戯でありまして、而も運動の量も多く教育的で且つ活動的に充満ちて居ると云ふことが断定が出来ます、近く我が附屬校に於きましても此の方針を執つて益々遊戯の方面を研究したいと云ふ考でやつて居りますが、矢張り附屬校でもまだ八箇月位にしかありませんゆけれども主任訓導の方々と相談をしまして、果して斯う云ふ風に往くか往かぬかと云ふことを調べ又十分なる經驗を積んで、北海道は北海道として更に研究したいと思ひます。

次はバスケットボールと云ひまして棒の高さはいろいろあります、二間或は三間位のものもあります、籠の大きさも大小があります、紙屑籠位のものもあるし長さ二尺位の籠もあります、籠を棒に縛つて紅軍白軍に別けて置きまして兩軍互ひに籠の内へボールを入れると云ふ遊戯であります、是は男女共に喜んでやります、初めは大きな徑の籠でやりますが、馴るに随つて段々小さくして一尺八寸位の籠でやらせまします、籠が小さくなる程困難になりますから困難に伴れて兒童が努力する、それで自然競争遊戯になると云ふ風に仕組ませてある遊戯であります、是は二十四校でありますから餘程前よりは減つて居ります。

次は旗送り、是は尋常一年あたりから上級生まで、紅白青等の色々の旗を拵へまして旗を取つて來て送るとか、或は一列の先頭の方からずつと送つて復た元へ持つて來るとか種類がいろいろありますが兎に角旗を送る遊戯です、是が二十一校あります。

次に蛇行競走と申しまして蛇の歩くやうに仕組ませた遊戯があります、或は帶をしつかり纏んで離れないやうに蛇行して往くのもあり、或は門を潜るとかトンネルを潜るとか云ふ蛇行競走、是は十九校あります、次は陣取、是が十八校あります、斯う云ふ工合に統計で示して居ります。

○女兒ノ最も好ム遊戯  
(行進遊戯)

- 一田 每ノ月 五十四校
- 一十字 行進 四十六校
- 一連鎖 行進 四十三校
- 一タンツライゲン 三十四校
- 一ツバメ 三十二校
- (競争遊戯)
- 一バスケットボール 七十一校
- 一棒 取リ 五十三校



- 一 晝夜遊ビ 四十六校
- 一 旗送リ 三十八校
- 一 鬼ゴト遊戯 三十八校

女兒の方の遊戯は音楽に合せた遊戯は澤山ありますが、先づピアノ其他の楽器に合せて微妙なる行進を以て種々なる拍子に合せて一團となつて廻つて歩く所の行進遊戯、その中で最も喜ぶのは田毎の月と申しまして是はさうむづかしくなくて非常に面白い遊戯であります、是が五十四、それから十字行進と云ひまして十字に歩いて種々なる隊形を十字に依て形造る、始から終まで十字形を以てやるのであります、是が四十六、次は連鎖行進と申しまして鎖のやうになつて廻る、或は隻手を持つて廻つたり或は斯んな風にして(形を示す)廻る、それが丁度鎖のやうな工合に縫つて歩くのです、是が四十三、次はタンツライゲンと稱する舞踏でありまして夜會などで用ゐるのであります、是は稍上級の生徒にやらせませす、是が三十四、次はツバメと云ふのであります、是が三十二あります。

次は女兒の競争遊戯でありますがバスケットボールが七十一、それから擲取が五十三、是は標を掛けて紐が後の場合もあり前の場合もある、又一重の場合もあり二重の場合もある、初めは結び目を緩くし學齡に随つて段々堅くするのであります、それから晝夜遊が四十六、是は圓形の板に一方を白く塗りて晝と云ふ字を書き一方を黒く塗りて夜と云ふ字を朱で書く、そこで兩列を相對陣させて置く、八名でも十名でも二十名でも構ひませぬ、列の間は約一間乃至二間位距離を置いて線に足を著けて構へて居ります、向ふの方にもう一線引いて區劃をする、さうして教師が真中に居て審判官となつて圓板を合圖と共に投げる、下

に轉輾して往つて晝が出るか夜が出るか判らぬ、一方の兒童は逃仕度をし一方の兒童が追仕度をして居ります、晝が出ましたならば例へば前列を晝の組と假定しますと其の組が自分の區域内に逃げる、夜の組が一先懸命に追駈けて往く、さうして線と線との間に於て捕へるか打つかすると其の捕へられた者若くは打たれた者を區劃線外に出してしまふ、更に復た殘員を集めて第二回の戰鬥を始める、今度は反對の組が同様の競争をやつて第二回の勝敗を決するのです、大抵は第三回目位で止めた方が宜いと思ひますが、是は晝か夜かと云ふ合圖をさせてドンと投げる、さうすると拍手などをして居る時間が無いアツと思つて居る中にポツと出ますから、晝が出れば晝の組の者が一目散に逃げる夜の組の者が追駈けて往き捕虜にする、と云ふ競争遊戯でなか／＼面白いものです、之を日月遊とも或は晝夜遊とも云ひます、それから旗送り、其の次が鬼ごと遊戯、是は各三十八校と云ふことになつて居ります。

○男女共通に好む遊戯

- 一 バスケットボール 二玉送リ
- 三 旗取リ 四晝夜遊ビ
- 五 鬼ゴト 六徒競走
- 七 旗送り 八擲取リ
- 九 戦争遊ビ 十陣取リ

男女共通に好む遊戯を調べました結果が右の通りであります、第一がバスケットボール、それから玉送り、此の玉送りには種類が澤山あります、實は器具を持つて來まして實地やつて御覽に入れる考であり

ましたが、餘り急であつたので持つて参りませぬでしたから例を示すことが出来ませぬが、兎に角前から玉を送る場合もあり或は上から送る場合もあり、男兒でありますと股を擴げて下から送る場合もあります、是はいろ／＼やり方がございます、それから旗取り、晝夜遊び、鬼ごと、徒競走、旗送り、襷取り戦争遊び、陣取りと云ふ風に種々あります、是は番號を附してお示したのであります。

○禁止スヘキ遊戯

- 一 賭博的遊戯
- 一 衛生上禁止スヘキモノ
- 一 危険ナル遊戯

○非常ニ厭フヘキ遊戯

- 一 泥棒的遊戯
- 殘忍ナル遊戯
- 一 蛙ヲ 罾 ヲ 殺 ス
- 一 蟬蜻蛉ヲ 罾 ル コト

それから遊戯の中どう云ふ遊戯に就て注意しなければならぬかと云ふことを茲に項目として擧げて置きました、絶対に禁止すべき遊戯があります、殊に感化救済に關係して居られる方々には最も御注意を請ひたいと思ひますが、不良兒劣等兒などは兎角賭博的の遊戯を好む、何でも他人の物を取つてやらうと云ふやうな賭博に類した遊戯を非常に好みます、是は西洋の本を見ましても不良兒又は感化院などに送ら

れた所の子供が皆これで失敗して居るやうです、又近く廣島控訴院長の發表に係つた所の少年囚を調べて見ますと、主に賭博的に類した遊戯をやつたために牢獄に這入るやうになつた、詐欺をしたとか或は押領をしたとかさう云ふ事からいろ／＼連絡して有るべからざることをやつたとか云ふやうな事件が非常に多いのであります、是は普通の小學校でも最も注意して居りますが、是がために兒童をして遂に回復の出来ない子供にさせてしまひます、例へば俗名バッチ或は國取りと云ふやうな厭やでも應でも人の物を取つてしまふ、勝つことのために如何なる事でもやり徹すと云ふやうな種類の遊戯は諸君と共に、大に警戒をしなければならぬと考へて居ります。

次に衛生上禁止すべきもの、是は申すまでもありませぬが目隠しの遊戯などはいけないのです、トラホームの事は軍隊で非常に嚴重に取締つて居りますが、是は獨り軍隊ばかりではない國民一般に注意を要する事柄であります、此の目隠しの遊戯のためにトラホームに感染したと云ふ例が澤山あります、一體目を隠して遊戯をさせると云ふやうなことは遊戯としては殆ど無價値の仕事です、昔は由良さん此方にと云ふやうなことをやつたこともありましたが、今日はさう云ふやうな事に對して教育的の價値を論ずる者は殆ど無いのです。

次に危険なる遊び、是は十分皆さん御承知のことでありますし且つ時間の關係もありますから唯だ項目だけに止めて次に移ります。

それから非常に厭ふべき遊戯、是は殊に感化救済事業に關係なさる方々の御注意を願はなければなりません、出来るだけ教育して居るが一向其の心が直らぬ却て増長すると云ふ兒童が、諸外國の例を見ても

澤山あるやうであります。此處には非常に厭ふべき遊戯を書いてありまして是は少し書方が拙いのでありますが、例へば泥棒になるとか探偵になるとか或は巡査になるとか裁判官になるとか云ふやうな事を能くやりたがるものです。お前は泥棒になれ己れは探偵になる、己れは検事だとか裁判官だとか言つて、泥棒の役になつた者を引捕へて耳を引張つたり鼻を引張つたりしてサー白状しろなんてやつて居る、一方は言ふなど云ふことを約束して居りますからなか／＼白状しない、それで種々な残忍な事をして喜んで居ると云ふやうな例は日常、小學校及び家庭等でやることあります、斯う云ふ遊戯は私は未だ経験がありません、唯だ書物だけを見てお傳へするに過ぎませぬが、諸君の御關係の諸團體に於ては層一層御注意になることが必要と思ひます。

次は残忍なる遊戯、例へば蛙をうどむくりにするとか或は蜻蛉を捕つて羽根を取つたり胴腹へ紙縊を通して飛ばすとかいふやうなことをやる、斯う云ふ事を好きな子供は必ずや人を殴つたり或は刃物を以て傷けたり不具にしたりするやうなことを往々やるのであります、殊に感化院に收容されて居る子供とか不良兒などは是は普通であるやうに思ひます、それから蟬や蜻蛉等を無暗に捕つて来て仕舞にはどうするかと云へば、むざ／＼只だ殺してしまふと云ふやうな事柄は日常やつて居ることあります、之を看過して殆ど細心の注意を拂はないと云ふ場合も往々あることありますから、茲に項目を擧げて皆様方の御注意を促した次第であります。

次には此處に擧げませぬ遊戯で尙は御注意を願ひたいのは、此間もちよつと申上げましたが一例を擧げますと繩を高く張つて飛ぶ運動、或は滑り臺の運動、それから固定圓木、跨がる運動、是等の運動は一面から云へば性慾を發揮させる遊戯でありまして、外國邊の言語であるとか或は感化院に收容して居る子供等の遊戯運動に關する注意を見ますと、一層吾々の身の毛が竊立つやうな氣がしますが、飛ぶ運動をやつて横股を刺撃したとか、或はお尻に刺撃を及ぼしたとか云ふことのために低能兒になるやうなことがあるのであります、此處で統計表等を擧げてお話しれば宜いのでありますけれども、時間の關係上唯だ項目を擧げるに過ぎませぬが、固定圓木に跨つた／＼めに局部を刺撃して始終やるべからざることをやり、それがために腦の作用を悪くする、其の他弊害が澤山あります、女子などもさう云ふやうな實例が澤山ありますけれども此處で何處々と云ふことは憚りますが、繩飛びをして内股を擦つた／＼めに性慾を覺わしたとか或は滑り臺に乗つてお尻を刺撃したと云ふことのために性慾を覺わして、やるべからざる事をやるとか、或は甚しきは強姦罪を犯したとか、それがために子供が麻痺したる腦髓になつて取返し付かぬことになつたと云ふやうな例が非常に多いのであります、是等の事柄に就ても精しく申上げたいのですが時間の關係がありますから省察致します。

尙は最後に一つ申上げて置きたい事は、遊遊に就ては如何なる注意を要するか、先づ第一に兒童の心身に合致するやうにしなければならぬ、次には餘り費用の掛らぬもの、費用を多く掛けてやると云ふことは宜しくない、成るべく金を費さずに出来る面白い戯戯を御工夫になることが必要と思ひます、多くの費用を掛けて年に一度か二度運動會などで使つて、それ限りで打棄つて置くやうな遊戯の道具が澤山ありますが、さう云ふ事柄は餘程御注意にならぬといけませぬ、餘り費用を掛けずに日常どの學年の子供にも共通出来るやうな遊戯運動の道具を備へることが必要であると思ひます、次には遊戯運動の中で器械の設備は

どんなものが一番宜いかと云ふことになりますと、先づ主に運動の方であります。どうしても是から以後に育てになる子供は、胸廓を發達させる運動をお努めになつて戴きたいと思ひます。それから頭腦を良くする練磨運動、それにはぶら下る運動の器械が一番必要と思ひます。西洋各國でも皆さうであります。走つたり擱つたりする運動は左程必要でない、胸廓の發達及び腦の部分の發達を促す所のぶら下る運動が最も必要と考へます。此間も申上げましたが人としては最も胸廓の發達をさせなければならぬ、勿論人體の各器官の中では腦も大切、手足も大切、腹も大切、肺臟心臓も大切であります。取分け心臓肺臟を健全に發育させなければならぬ、それにはどう云ふ運動が宜いかと云ふとぶら下る器械が一番宜い、是は兩手で擱つて軽い者は四五貫目、重い者は二十貫目以上の身體をぶら下るのでありますから、自然に各器官の機能を旺盛にします。それで先程も申上げた通り是等の器械の中、四五種類は私の實行して居るものがあります。實は其の器械を御覽に入れ尙ほ私の實習等を親しくお目に懸けて此の講話を了る筈でありましたが、奈何せむそれが出来ませぬので甚だ遺憾であります。どうか今後之を御縁に、諸方からお出でになつて居らるゝ方々もあるやうでありますから、お歸りの上に若しやつて見やうと云ふ御計畫がございましたならば、不肖ながら御相談に應じたい考でございます。それに據つて種々の設備を爲さつて益々感化救濟の事業に貢献せられんことを希望致します。最早時間が來たやうでありますから此位で御免を蒙りたいと思ひますが、炎暑の折柄日々他の諸講師の講演をお聴になつてお疲れの所へ私の如き淺學不肖、諸君に話申上げるやうな資格の無い者が長時間御清聴を煩はし、一向纏らない話をしまして甚だ諸君に對して恐縮の至りと存じて居ります。重々此の感化救濟の事業に御從事なさるには、運動遊戯と云ふ事は

密接の關係を持つて居りまして、將來大に研究しなかつたならば、其の効果と云ふものは十分に擧らないと云ふことは、多分他の講師からもう云ふ關係のあるお話はお聴のことと思ひますが、どうか之を御縁に運動遊戯に就きましては不束ながら諸君と相提携して最善の努力を竭し、彼の憫れな子供、役に立たぬ所の子供を社會の一員として國家の爲めに盡す者に拵上げたいと考へて居ります。今後兒童の運動遊戯に就てはどうぞ層一層の御注意を拂はれんことを切望致します。これで私の講演は終局を告げた譯でございます。

## ○救濟事業經營に關する注意

六一

内務省囑託 相 田 良 雄

### 第一回

私は此の時間に於きまして救濟事業經營に關する注意と云ふ題に於て暫く御清聴を煩はします、先刻生江講師から救濟事業要義に就てお話がありました、其の前に次田書記官から救濟事業に對する希望と云ふ事に就て話がありました、私が唯今からお話申上げたいと考へて居りますのは、次田書記官の言はれた事の内容に就て申上げるやうになるので、是は次田書記官とお打合をした譯ではなかつたのであります、が丁度私の話をすると次田書記官のお話になつた事とが同様な項目に當るやうであります、私は事務に關する方面と事業に關する方面と二つに分けて、今日以後三時間に亘つてお話を致したいと思ひます事務に關するお話を致す以前に救濟事業に對する同情とでも申しませうか、一言お話を致したいと思ひます、石川縣の金澤市に小野慈善院と云ふのがございます、此の小野慈善院はどうして出來たかと申しますると、金澤市に小野太郎と云ふ人がありまして、此の人が難儀をする者を見て非常に同情に禁へず何とかしてやりたいと云ふので、乞食のやうな者、野宿をするやうな者を集めて救助してやつた、それが一番始めでありまして最初は自分の資産を以て救助して居りましたが、次第々々に救助してやる者の數が増して來た、救助する人員が増すと共に自分の財産も次第々々に減つて來ると云ふことで、遂に小野太郎氏が乞食と同じやうな生活をするやうになつてしまつた、丁度乞食の状態になつてしまつたのであります、と

ところが明治三十七年に日露戦争が起りました、其の時に今神奈川県知事をして居られる有吉さんが内務省の參事官で在られて、軍人援事業と戦時の地方の状況等を視察する爲めに金澤に參られました、さうして其の視察の結果を當時の警察部長や内務部長を首め知事さんに話をした、其際に金澤市には傳染病の策源地が在ると云ふ事を話された、其の時は戦争中でありましたから策源地と云ふ言葉が流行つた、傳染病の策源地と云ふことを言つたのでそんな處は無い筈だ、無いならば小野慈善院に往つて御覽なさい、實は警察部長も内務部長も未だ其處を視て居られなかつた、有吉さんの報告に依て見ると實に慘憺たる有様で、彼處で傳染病が発生しなかつたならば傳染病の發生する處は無いと云ふ位に言はれた、それ程小野太郎氏が自分の身を苦めて此の貧者弱者の爲めに骨を折つたのである、此の小野太郎氏が骨を折られた事に對して藍綬褒章を賜つたやうに私は記憶して居ります、斯う云ふ風に慈善事業をやると自分も終には窮民になつてしまはなければならぬと云ふやうな實に氣の毒な状態であります。

去る十六日でありました私は苗穂の監獄に參りました、さうして監獄の方から歸つて來ると其途中に山谷孤兒院なる標札を見た、斯う云ふやうな處に孤兒院があるかと思つて私は實に驚きました、或は皆さんの中に監獄に往かれた方は御覽になつたであらませう、丁度金澤市に於ける以前の小野慈善院の態ではなにか知らぬ、若も傳染病が此の札幌區に這入つて來たならば斯う云ふ處を一番先きに襲ひはしないか此處が傳染病の發源地になりはしないかと思ひました、山谷氏はどう云ふ人か私は存じませぬ、私が訪ねた時には誰か三十位の婦人が居りまして未だ歸つて來ないと云ふことが出來ませぬでしたが、是程までにして救濟事業をやらなければならぬものであるか、斯う云ふ事を考へて見ますと二面に於ては事業

經營者に對して少なからず同情の念を起します、併ながら又一面に於ては救濟事業と云ふものはあゝ云ふ風にしてやるべきものであるかどうかと云ふ事を考へて見ぬければならぬ、私の考としては救濟事業と云ふものは實に尊い仕事である、若も此の救濟事業を自分がやらぬければ其處に難儀して居る者が餓渴に追つて或は死んでしまふと云ふやうな状態に在つたならば、自分の力に應ずるだけやることは宜からう、併ながら自分の力に應しないにも拘らず之をやつて往くと云ふことはどう云ふものであるか大に考へなければならぬ事でもあります、私は山谷氏に其の翌日會ひまして色々難儀をされた話も聽いて十分同情は致しますけれども、今日山谷氏のやうなやり方は甚だ感心いたしません、此の救濟事業と云ふものはさう云ふ事をして經營すべきものではない、凡て人は自身がどんなに苦んで居ても其處に哀れな者が在つたならば自分の食を割いて助けてやる、それが人の道である、其の施と云ふことは實に尊い心である、即ち施の心は佛の心であると云ふことを佛教に於ては根本の話として、絶えず施を勸めて居ります、併ながら此の救濟事業と云ふものはそれとは事柄が違つて居ります、救濟事業とはどう云ふものであるかと云ふ事は先日來々お話がありましたして、もう諸君のお耳に肝臓が出来るやうにございませうが、私は自分の慈善心を満足させると云ふだけを以て救濟事業としてはいけないと云ふ考を有つて居ります、唯自分の心を満足させると云ふことだけではいけない、必ず其處に在る救濟さるべき目的物に對して本統に救濟しなければならぬ、乞食の状態を少し良くしてやる、と云ふのでは未だ救濟ではありません、乞食の状態を良くする復た少し良くする、さうして遂に乞食の状態から脱却せしめて普通の人間にしてやると云ふのが救濟事業の本旨ではありませんまいか、斯う云ふ考から私ば山谷氏のやうなやり方をするならば寧ろ此の救濟事業を

去つて貰ひたいと云ふ感を懷いたのであります、私は山谷氏に同情の念を有つと同時に、あゝ云ふ孤兒院が札幌に残つて居ると云ふことは實に遺憾に堪ぬ、札幌に彼の事業があつた儘に存在すると云ふことは札幌の爲めに否我國の救濟事業の爲に實に慨嘆に堪ぬませぬ。何とか改善をして戴きたいと思ひます。

前にお話を致しました所の小野慈善院はどう云ふ結果を來したか、其の時に有吉參事官の一言が金澤市氏に非常なる感動を興へまして、さうして旅順陥落戦勝の祝を機會として此の小野慈善院を市民の經營に移すことになつたのであります、そこで石川縣知事が遽に縣令を發して救濟事業を行ふ者は知事の認可を経なければいかぬ、其の認可を経るには是々の條項を具へて居らなければいかぬと云ふので、其の設備から資金の状況から一々條件を擧げて認可を受けさせることにしたので、而して其の縣令を發すると共に一面に於ては市民が此の小野慈善院を戦勝の紀念として改善しなければならぬと云ふことに氣が付いて、さうして遂に今日では立派な財團法人になりました、今日やつて居る所の状態が未だ私共の満足する程の状態になつて居りませぬけれども、非常に面目を革めたと云ふことだけは大變な進歩であると思ひます。

以上は私が此の救濟事業に對する同情と云ふ事に就て一言お話を致したのであります、次に本論に入つて事務に就てお話を致します、斯う云ふ事業に従事する人が事務を等閑に附すると云ふことはあり勝のことである、併しながら事務を等閑にして事業の成績の擧ることはありませぬ、事業の成績を擧げやうと思ふならば必ず事務を整理しなければならぬ、それで此の事務を整理するにはどう云ふやうにせんければならぬか、一々詳しくお話をする時間を有しませぬが、救濟事業を行ふには先以て救濟者の名簿を拵へなければならぬ、事務の第一著手として名簿を整理することを致さなければならぬ。

名簿にはどう云ふ事を書くかと云ふと、即ち其處に收容されて救濟を受ける者の氏名及び生年月日、次に其の者は何處の者であるか又現在何處に居るか即ち本籍と住所、丁度戸籍簿に書くやうなものであります、それから其は餘り必要でありませぬけれども士族であるか平民であるか其の族籍を書く、次に其の者の親族關係即ち父母兄弟姉妹の名前を書く必要がある、それから其の者の家計を營んで居る所の主たる人の職業を書く、其の收容する子供の父が生活の主たる人であるか、或は車夫とか或は人夫とか其の生活の資料である所の主たる者が誰であつて、さうして其の人の職業が何であるかと云ふ事を書く欄が必要であります、それから入院の年月日及び其の事由——どう云ふ理由で其處へ收容されたか、棄兒であつたか或は親が置去にしたのか或は區役所から何時送つて來たとかと云ふやうな事由を書く、其の他まだ澤山書く事がございますがそれは復た後で申します、それから今度は退院の年月日及び其の事由を書く、即ち何時退院した、さうして其の退院後何處其處に往つた、例へば何某から養子に貰はれたとか或は親が引取に來たとか、或は親族に引渡したとか、或は此の者は逃亡したとか退院の年月日及び其の事由を書く、是だけは少くとも孤兒院或は養老院其の他窮民を救助する場處に於ては名簿に記載して戴かなければならぬ私共が地方の視察に参りまして救濟院或は孤兒院のやうな處に就て此處に何人子供があるかと問へば、僅に十四五人の處でも十四人であるか十五人であるか十三人であるか判らぬ、指折り算へて漸く判ると云ふ有様であります、是は何故かと云へば名簿が拵へてない、偶々名簿が拵へてあつても唯生年月日と名前だけ書いてある、それではいけません、入院した者を記ける事と退院した者を除く事を忘れて居る、それだから判らぬのであります、事務の不整理も實に甚しい、それで今私の申述べたやうな事項を名簿に記載することはいはれぬ救濟院でも必要であらうと思ひます。

それから感化院或は孤兒院或は養老院と云ふやうな處になりますと名簿の書方を違へて貰はなければならぬ、感化院は今日北海道廳の管内には三箇處しかございませぬから數が少いのみならず、大に整頓して居りますから申上げる必要はありませぬが、孤兒院に至つては私はまだ一二しか見ませぬけれども、北海道以外の土地に於て見ましても名簿が甚だ不整頓でございしますから、孤兒院の名簿の記載方に就てお話したい事は、今お話しした事項の外に本人の嗜好(何が好きであるかと云ふこと)を調べて置くことが必要であります、それから其は別の名簿にして貰ひたいと思ひますが身分帳です、是には其の者の個性を調べて書いて戴きたい、例へば此の者は大層素直であるとか、或は此の者は甚だ頑強に身分は意志を主張するとか自分の行爲が過つて居つても一旦言ひ出したならば何處までもそれを主張すると云ふ性質であるとか、或は此の者は因循であるとかと云ふやうな、さう云ふ個性を調査致しましてそれを身分帳に書いて置く、是は孤兒貧兒を救養して往く上に非常に大切な事であり、前から話する通り此等の者を相當な者に仕上げてやらなければならぬと云ふことが救濟事業經營者の責任でありますから、能く其の個性を調べて之に訓練を加へる、さうして其の個性をズツと書きました其の下に訓練した状況を書く、此の者は非常な僻根性がある、それに對して保母なり經營者は注意を致しまして之をどう云ふ風にして直したら宜いか、其の直す方法を考へて斯う云ふ風な手段を執つて居ると云ふ事を書く、此の者に對しては斯う云ふ手段を執つて居る、斯う云ふ訓練を加へて居ると云ふ事を書いて置く、さうして其の個性の善くない所を矯正することを圖らなければならぬ、其の爲めに別の帳面で宜しうございしますが此の個性を調査した名簿が必要に

なつて來ます。

それから今お話ししました名簿は一人一冊にして戴きたい、一人一冊にしないと云ふと算へる時にも調査する時にも困ります、往々にして創立以來の名前が一冊の名簿にズツと書いてございます、其の中には死んだ者もあれば退院した者もあるが、それを調査するには甚だ困難でありますから一人一冊にして置く、さうすると算へる時にも調査する時には便利であります、或は之をカード式にして置く、私の今申した事項を一枚の厚い紙に印刷して書くのを之をカード式と云ふ、さうして此の中或者が退院しましたならば之を除籍の方の函に入れて置く、さうすれば今残つて居る者と退院した者とが直ぐ判ります、それを一列にズツと延べ書にして置きますと出入のあつた時に整理に困りますから、カード式にするか或は一人一冊にして置いて戴きたい。

カード式にするのはどう云ふ便宜があるかと云ふと調査をするに便利であります、内務省では毎年内務報告例に據りまして日本全國の救濟事業を調べることになつて居ります、其の報告例に據て北海道其他の府縣から調べて内務省に出します、それが五月の末日迄に届かぬければならぬ、ところが第一回の調査が翌年の三月に至つても届きませぬでした、是はどう云ふ理由かと申しますと、一つは報告例が改正になつてから初めてのことでありますとの、一つは名簿の整理が出来て居らぬ爲めに、大元たる救濟院に於て調べて府縣廳なり道廳なりに出すことが出来なかつた、それが爲めに遅れた、翌年は馴れたから宜いかと思ふと翌年も期日までには届かない、名簿の整理が出来て居らぬと云ふことはそれで能く判る、此報告例では年齢に依て調べる條項があります、又孤兒であるか貧兒であるかと云ふ事も調べる條項があるので

ところが一冊の帳面にズツと延べ書にしてありますと孤兒は孤兒で算へて往く、棄兒は棄兒と書いてある所を算へなければならぬ、其の算へる中に間違が生じ易い、合計して見ると三十人なければならぬのが、三十一人になつたり或は二十九人になつたりする、そこで復た棄兒を算へる孤兒を算へると云ふことになり、殊に年齢別に調べることは困難であります、ところがカード式に致しますと一人一枚でありますから孤兒は孤兒、貧兒は貧兒、棄兒は棄兒と分けて計算することか出来ます爲に孤兒は幾人、貧兒は幾人、棄兒は幾人と云ふことが直に判る、それから年齢を調べるにも例へば此處は明治三十年生、此處は明治三十年生、此處は何年生と云ふ風に置場をきままして其年齢の處に纏めて算へるために餘程便利であります斯う云ふやうな統計の仕方は獨り孤兒院に限つたことではありませぬ、總て斯の如き方法に依て調製したならば簡易で宜からうと思ひます、名簿は此位にして措きまして其の次に何が緊要であるかと云へば會計の整理であります、なか／＼會計の整理は出来て居ませぬ、例へば此の院の經費が一年に幾許要りますかと尋ねても容易に返答を得ることが出来ない、是は何故かと云へば豫算も作つてなければ決算もしてない豫算が第一出来ぬから決算も出来ない、此の豫算を作ると云ふことは一家の經濟の上にも必要な事でありませんが、殊に斯う云ふやうな事業には最も必要であります、何故かと云へば所謂入るを量つて出るを制さなければならぬ、例へば茲に三百圓の金が必ず這入る見込が立つて而して初めて三百圓の事業が出来るのであります、ところが今日救濟事業をやつて居る有様を見ますと、茲に三千圓の金が要るから其の金を拵へなければならぬと云ふ風で、出る方を先にして入る方を後にして居る、それでありますから豫算が立たない、初めて事業を起す時分には出る方を先に調査して而して之に依て收入豫算を立てなければならぬ



けれども、継続的に事業を經營する場合には必ず出る方を先にしてはなりません、入る方を先にせんければならぬ、例へば此の年度には三千圓しか収入がなかつたとするならば三千圓の仕事をする、今假に一人に百圓宛要るとして三千圓の収入があるならば三十人收容が出来る譯です、ところが今日の状態はどうかと云へばさう云ふ方法を執つて居るのが甚だ少い、さう云ふ譯であるから山谷孤兒院のやうな悲惨の状況に陥つて来るのではないかと思ふ。

先年關西方面を巡回した時分に或る孤兒院に於て三千圓ばかり經費が掛る、ところが昨年は千圓不足した、即ち収入が二千圓しかなかつた、それにも拘らず此の年度も尙ほ三千圓の豫算を立て、居る、私は其の時分に斯う言つた、毎年千圓宛不足をしたならば斯うして此の不足分を還すことが出来まつかと言つたところが、其處の主任者が斯う云ふ答をした、此處の院長は地方の資産家の息子である、地方の資産家の息子は小遣ひが千圓位要るから阿父さんが斯う云ふ道楽ならばと言つて出して呉れるから決して心配ありませぬと言ふ、そこで私が斯う言つた、それは結構な事です、けれども幾ら資産家の阿父さんでも斯う云ふ事の爲めに毎年一、千圓不足するといふことは是は考へなければならぬことであらうと思ふ、毎年必ず千圓宛出すと云ふ豫算が立つて居れば宜いけれども、足らぬ時分に千圓出してやると云ふことを當にして豫算を立てると云ふのは不完全な豫算である、是は三十人を俄に五十人としたから不足が立つのだ、此の地方に於ては孤兒院として經營するのは三十人でも多いと思ふ、それを五十人收容して居る、救濟事業の大なるを以て誇とするものではない、三十人でも多過ぎるのに五十人收容して居るから年々千圓宛不足するのではないか、斯う云ふことでは後に困る事が起りはせまいかと注意したことがあります、其の後四五

年經つて復び往きましたところが果せるかな財政困難な問題が起つて來ました、是は入るを測つて出つるを制する方法を採らぬ即ち豫算を立て、其の豫算の範圍でやらない實例であります。

第二回

此の時間に牧講師に願つて置きましたが未だ見ぬませぬ、空しく時間を費すことは遺憾でありますから私は此の次の時間にやることになつて居りましたけれども繰上げて今お話を致します、一昨日山谷孤兒院に就て非常に私は亢奮致しました爲めに豫定の項目をお話し得ませぬでした、今日は其の續を申し上げやうと思ひます。

豫算に關する事を申し上げかけて居りましたが豫算は必ず拵へなければならぬ、然らば豫算はどう云ふ風にして作るかと云ふと、左に示すやうな形式にして拵へることが必要であります。

| 科 | 目 | 本年度 | 豫算 | 前年度 | 豫算 | 備 | 考 |
|---|---|-----|----|-----|----|---|---|
|   |   |     |    |     |    |   |   |

此の内譯が先に出來ますとそれから豫算の總括が出來ますので、先づ歳入即ち収入豫算の調製方を申しますれば、事業を致しまするには必ず基本財産がござりませう、其の基本財産から生ずる所の収入が一番確實な収入でありますから之が幾許と云ふことを先以て考へて見るそれは財産収入と云ふ科目で整理致します、さうして此基本金の利子とか或は土地より生ずる収入即ち小作米とかと云ふ収入が財産収入の内譯になつて往きます、其一ヶ年の収入が幾許あるかと云ふことを計算致しまして其の高低が財産収入の

總額になる。

次に此の事業が會員の醗金に依て成るとするならば、會費の収入とか醗金とか云ふ科目を設けて整理する、一八一箇月十錢宛と云ふことにして一箇年が一圓二十錢になる、それで會員が三百人あるならば其の三百人分即ち三百六十圓を以て一年の収入に立てる。

次には斯う云ふ事業に對しては何處でも寄付金があります、それで寄付金の科目を設ける、此の寄付金は定期の寄付金と臨時の寄付金とございます、定期の寄付金は殆ど確定した収入と見て宜しうございませう、臨時寄付金と別にして整理するが宜いと思ひます。

次に官廳或は公共團體から補助がありますれば、其を補助金と云ふ科目を以て整理する、其の他斯業には事業の収入がありません、田を作るとか畑を作るとか或は木工手工を科するとかして事業の収入があるとすれば、それは事業収入で整理する、其の他用品を拂下げると云ふことがある、それは雑収入と云ふ科目で整理する。

斯う云ふ風に致しまして財産収入が幾許、醗金が幾許、寄付金が幾許、補助金が幾許、事業収入が幾許、雑収入が幾許、此の合計を見まして三千圓ある、今度は支出の豫算を調べます、さうして支出が三千圓以上になると云ふ時分には収入を殖すか支出を減ずるか云ふことになつて來ます、必ず此の收支は對照しまして収入よりも支出の方が多くなつてはいけません、豫算に於ては收支は常に同じでなければならぬ、無い金は支拂が出来ませぬから支出の方が多くなると云ふことは適當な豫算でありませぬ、若しどうしても此の支出の方が多くなる場合には収入増加の方法を講ずるか支出に於て削減をしなければならぬ、是は

豫算を立てる上に最も必要な事でありませぬ、或は職員給料を少くするとか、或は收容人員が假に三十人あるとしたならば二十五人にするとか、人數を減すと云ふことも一の方法です、どうしても此の支出の方が収入よりも多くならぬやうに致さんければならませぬ。

支出の科目に就ては色々あります、是は各院に歴史がありまして此の支出豫算の立て方が種々違つて居りますが斯う云ふ風な豫算をして居る處があります、俸給及諸給を款にしてある、収入で申せば財産収入と云ふが款になつて居る、此の内譯の俸給は職員に與へる所のもので、諸給は臨時雇給とか年末賞とかであります、次に旅費と云ふものを置いてある、それから院費と云ふものがあります、其の院費の中を備品費、消耗品費、通信運搬費、雜費、賄費と云ふ項に分けてある、詰り事務費に屬するものを院費と云ふ款で整理して居ります、それから院生費と云ふ款があります、詰り事務費に屬するものを院費と云ふ風に内譯をして居ります、食料費の中には米麥味噌油のやうなものを一切加へて計算する、被服は文字の通り著物を被せるのでありますが之には帽子や靴或は履物までも加へて整理する、給與費は子供に學用品其他色々な物を給與する、唯だ食べさして著せるだけでない其の上に給與する、それを給與費として整理する、それから雜費、是は遠足をするとか其の他色々な雜費が要る、或は子供に賞與として遣る物も此の雜費で整理して居ります、次に家屋がありますから修繕費と云ふものを設ける、是は款であります、凡そ是だけの科目を以て一院の支出の豫算の整理が出来やうと思ひます。

さうして此の款に當る所の費目は流用を許さぬことにして置かなければならませぬ、若し流用を許すことにすると豫算を設定した主意に悖ることになりますから款の流用は許さぬと云ふことにいたさねばなり

ませぬ、嚴格にやる所では項の流用も許さぬと云ふことにして居りますが、項の流用を許さぬと云ふことは斯う云ふ事業に對しては餘り必要がありません、それで款の流用を許さぬだけでよろしからうと思ひます。さう致しませぬと多く豫算が立つて居るけれども決算を見ると豫算と何れも合つて居らぬと云ふことになり、成るべく豫算は流用を許さぬと云ふことにして整理して往かなければならぬ、私が歩いて視ました處に斯う云ふ事例があります豫算を拜見致したいと言へば、今日殖む明日殖む日々増加する亦減ることもあるから逆も豫算が出来ませぬと云ふ處がありました、然らばどうして収入の豫算を立てましたか昔から生物には食絶わすと云ふて居ります、生物には何處からか食物が出て來ますから餘り心配が要りませぬと云ふことを言つて居る者があります、さう云ふやうな處に到ると子供に満足な物を食べさせることは出来ませぬ、或時は三度々々お粥を食べさせるやうなことをして居るかと思ふと或時は大層贅澤なことをさせる、さう云ふ風なやり方は子供を育てる上に於て適當な方法でないと思ひます。

それで豫算を立てたならば其範圍内で賄て行き決して豫算を超過しないやうにすることが最も大切であります、家庭でも其の通りで、嘉悦孝子や羽仁もと子といふ人などの拵へた家計簿でも皆豫算を立て、若し今日豫算を超過した時分には翌日節約する、例へばお客さんがある、賄費の豫算は毎日五十錢にして置いてもお客さんがあると其の五十錢を超過する、例へば豫算の五十錢を超過して其の以上四十錢掛るとすると、例へば病氣などしないことに豫算を立て、置いたが子供が病氣する、此の費用は何處から出るかと云ふと矢張り其歳に収入した中から出さなければならぬ、収入に増加の途があれば豫算の追加をするが若し其途がなければ詰り一般經費に節約を加へなければなりません、是は豫算を實行する上に於て必要な事

であります。豫算の事に就てはまだ詳しくお話しすれば申し上げなければならぬ事がありますが是だけにして置きます。

次に豫算を立て、決算報告をせぬ處があります、決算報告をしてもそれが豫算と對照してない處があります、決算は必ず豫算に對照して示さなければならぬ、此の決算報告に就ても詳しく申上げたいが時間が乏しいでございますから詳しく申上げられませぬ、此の決算報告を作る場合には豫算書の形式に據りまして上に豫算額下に決算額を書き増減を示すのであります、そうして決算をする時期は何時であるか、申しますと年度後三箇月以内に結了すべきものであります。決算をする場合に収入より支出の方が多くなつて居るところがあります、収入がなくて金を支拂へる道理がない借入金をするとか翌年度より繰上げて決算せねばならぬ。

それから決算報告をすると共に事務報告及財産報告をしなければなりません、其年度に於ける事務の状況と財産の増減及現在高を報告しなければならぬ、是は誰に向つて報告するのであるか、其の院には必ず評議員とか會員がおります、其の評議員とか會員に報告するのみならず、斯う云ふ事業は公益事業でありますして社會一般の人が注目して居るのでありますから、矢張り社會に向つても報告すると云ふ意味でなければならぬと思ひます、監督官廳にも報告すべきものであります、豫算決算は其れ位にして置きまして次に會計の方に移ります。

會計に必要なのは無論帳簿であります、ところが帳簿の出來て居らぬ處があります、或は出來て居つても唯金錢出入帳一冊しか無い處がある、斯う云ふ事では會計の整理と云ふことはむづかしい、いくら面倒

でも収入簿、支出簿、日計簿之だけは是非必要であります、普通の家庭では日計簿だけで收支を整理して行かせうが、慈善事業救済事業では此の収入簿、支出簿、日計簿に依つて整理せねばならぬと思ひます、収入簿にどう云ふ事を記載するかと云ふと、矢張り款項目に依り口座を設けなければならぬ、さうして其の記帳方は初めの欄に豫算議決額を記し収入の都度記入して豫算に對する差引残額を表はす、

第一款 財産収入

| 月 日   | 摘要      | 豫算額   | 収入額  | 残額    |
|-------|---------|-------|------|-------|
| 四月一日  | 豫算議決額   | 一五〇〇〇 |      |       |
| 七月十日  | 基本金利子収入 |       | 三〇〇〇 | 一二〇〇〇 |
| 七月二十日 | 何々収入    |       | 一五〇〇 | 一〇五〇〇 |

例へば財産収入であれば是は款であります、款の次に頁を更へて項として基本金の収入と云ふものを立てる、それで百五十圓の豫算のところは基本金利子の収入が三十圓ありしとすれば収入したものは収入額の所に記入し百五十圓の内三十圓収入したので残額が百二十圓といふことを示す、支出の方も其の通りであります、それで斯う云ふ風に記けて置くと支出が豫算を超過すると云ふことが出来なくなる、今例へば十圓しか残が無いのに十五圓拂ふことは出来ないといふことが直ぐに判る、故に此の會計簿は必ず収入簿と支出簿とを拵へて明に記載して置かなければいけません。

日計簿はどう云ふ風に拵へるか云ふと、

日計簿

| 月 日  | 摘要   | 収入   | 支出  | 現金  |
|------|------|------|-----|-----|
| 五月二日 | 會費収入 | 一〇〇〇 |     |     |
| 同    | 院費支出 |      | 五〇〇 | 五〇〇 |

斯う云ふ風にして上の方に収入額を書き次の欄に支出額を書き其の次に残としても宜いが現金を書く、例へば五月二日に十圓の収入があり五圓の支出があつたとすると此處に現金が五圓残つて居る、此の日計簿の必要は現金が幾許残つて居るか云ふことを知るが爲めであり、之を拵へて見るとカチ／＼合ひますから大變氣持好く整理が出来るのであります、それで斯う云ふ會計簿は必ず何處でも拵へてそして記帳を怠らぬやうにして戴かなければなりません。

それから収入簿だけでは實は収入に關する整理は出来ない、何故かと云へば基本財産の収入もあれば會費の収入もありますから、其根帳即ち収入臺帳と云ふものを拵へなければならぬ例へば會費収入臺帳とか或は寄附金の臺帳とかいふものが必要になつて來ます、さう云ふやうなものは便宜お考の上で拵へて戴きたい、それから支出の方も支出簿一冊だけでは整理が出来ない、補助簿が入用であります。

支出を爲すにも収入を爲すにも傳票を用ゐると云ふことが最も便利であります、此の傳票は収入又は支出の命令書であります、例へばコップ十箇を買ふ、コップは備品でありますから傳票には備品と云ふ科目を書いてそれにコップ一箇五錢なら十箇五十錢と書く此傳票が支拂の命令書で之に依つて支拂が出来るので大切な證據書類であります、此の傳票は領收證と別にして置いて宜し一緒にして置いて宜いが一日

に三口も四口も拂ふにしても一々此の傳票を附けて拂ひをすることに致したい。

會計の方から金を出すには傳票を用ひますが實際買物をする場合とか支出が頻繁な場合に一々帳面に記けることは出来ませぬから手控が必要になつて来る。又月末拂にして物を買ふ方法を探つて居る所がある其の場合には通帳と傳票とに依て整理する。通帳と傳票と合はなければいかぬ、此の外に色々な帳面を拵へても宜いが成るべく帳面の数は多くないやうにして戴きたい、さうして繰返して申しますが支出簿と收入簿と日計簿(或は收支差引簿と云つても宜い)の三つは是非必要でありますから必ず備へなければなりません、此の外に會計の整理をするには月計表を拵へることが最も便宜であります。

月計表の作り方は

大正(何)年(何)月月計表

| 科<br>目 | 入     |    | 支     |    |
|--------|-------|----|-------|----|
|        | 本月ノ収入 | 累計 | 本月ノ収入 | 累計 |
| 財産收入   |       |    | 俸給及諸給 |    |
| 寄付金    |       |    | 旅費    |    |
| 醸金     |       |    | 院費    |    |
| 何々     |       |    | 何々    |    |
| 計      |       |    |       |    |

斯う云ふ風に印刷して置いて此處に大正何年何月帳面だけは一目して判りませぬから、月計表を拵へて

置けば本月は幾許収入があつた、支出は幾許あつた累計何程になると云ふことが判る、さうして豫算に對照して見るとまだ何程収入せねばならぬ又幾許支出が出来ると云ふことが一目にして判る、それで月計表を拵へて會計の整理を圖ることも必要であります。

其の他必要な帳簿は財産臺帳であります、財産は動産と不動産とありますが其の中に色々種類がありますから財産臺帳と云ふものを拵へて置く、是も財産の種類に因て書いて置く、さうして此の財産臺帳には保管の方法までも書いて置く、或は國庫債券は郵便局に預けてあるとか或は銀行に預けてあるとか云ふ其の保管方法を書いて置かなければならぬ。

それから寄付金を募集致しましてそれを月報や年報に書いてあるけれども累計が書いてない、今月は何某から何々の寄付があつたと云ふ事は書いてある、計も書いてある、けれども累計が書いてない、寄付者に報告する爲めに月報を拵へるのならば報告書には必ず累計を示して貰ひたい、世間の人が救済事業に寄付をするけれどもどうなつて居るか判らぬと云ふ疑を起すのは此に在る、詰り累計を表はさぬからである毎月計は示してあるけれども累計が示してない、金は貰つたと云ふ報告はして居るけれども其の中實際何割收入したか判らぬと云ふことになる、斯う云ふ傾が今迄の救済事業にあるのです、澤山金を貰つたやうに書いてあるけれども其の實夫れ程貰つてない、さう云ふやり方は堅實でない、さう云ふ事は詰り世間の人を誤らせる因になりますから、報告する時分には必ず累計をして置くことが必要であります。

事務の方に於きましては帳簿や書類の整理が要ります、書類の如きは紛亂しないやうに事務處辨の便宜を圖る爲めに綴つて置くことが必要であります、綴つた上に前の方に目次を附けて尙ほ紙の上の縁に赤紙

を附けて番號を書いて目次と赤紙の番號と合ふやうにして此の一冊が何が綴つてあると云ふ事の方を分るやうにして置く、斯うして置けば何時でも自分の必要なものは目次を開いて見れば直ぐ判ります、それで澤山の書類の有る處では箱を拵へて置く、さうして此の綴は日本紙でも宜しうございますが西洋綴にして帳簿の脊の處に年度を書き其下に書類の件名を書き書箱に立て、容れて置くことが宜しいのであります、例へば大正三年度の書類は大正三年度として書箱の中に容れて置く、さうして置きますと其の箱の蓋を取つて見てユル／＼になつて居つたならば此書箱の中の書類が何處かに出て居ると云ふことが判りますから、直ぐにそれを探して容れると云ふ便宜もござります、故に此處(帳簿の脊に)書類の件名と年度を書いて置くと云ふことは書類の整理上に於て必要であります、事務に關する事は大凡此の位にして措きまして、次に事業の經營に關する事を申し上げたい。

救濟事業を行ふに就て最も注意すべき事は何であるかと云ふと、審査と云ふ事であり、即ち此の者は救助して宜いか悪いかと云ふ事を能く審査しなければならぬ、審査致しませぬと救助すべからざる者を救助したり救助しなければならぬ者を救助しなかつたりすることがある、此の審査の能く届いて居るのはエルバーヘルトのやり方であり、此處のやり方は訪問委員と云ふ者を置いて市内の細民窟を能く調べて、此の家には家族が何人在る、一日何錢あつたならば生活を立て、往くことが出来るかと云ふ事を調べて、例へば此の家には家族が五人ある、さうして収入が幾許ある、是だけの収入では五人の家族の生計を立て、往くことが出来ない、幾許足してやれば宜いかと云ふことを見て、さうして其の足らぬ分を補つてやると云ふことになれば本統の救助が行はれるのです、家族が五人ある處にも十人ある處にも同じ金を分

けてやると云ふことでは本統の救助は行はれませぬ、それで審査と云ふことが必要であります、尙ほ此の審査をやつた例其の他事業經營に關するお話があります、それは次の時間に譲りまして一寸休憩致します。

事務の方と事業の方とに關聯して此の間に於て申上て置たいことがあります、それは此の救濟事業を社団法人とか公益法人として經營致すことであり、法人にするには民法第三十四條の規定に據りまして主務大臣の許可を受けなければならぬ、其の許可を受ける事項は何のであるかと云ふと、社団法人であれば定款を拵へなければならぬ、其の定款には目的、事務所所在地、名稱、資産に關する規定、理事の任免に關する規定、社員たる資格の得喪に關する規定、それから社団法人は毎年一回宛總會を開かなければならぬ、其の總會に關する規定、是だけは社団法人として必ず定款に掲げて置かなければならぬ、此の事の許可を受けなければならぬのであります。

財団法人とはどう云ふものであるかと云ふと茲に私が金を持つて居る、其の金で以て或る事業を營まうとする、即ち私が此の金を寄付して或る仕事をしやうとする、或は孤兒院を經營するとか或は養老院を經營するとか或る事業を經營する、其の爲めに金を寄付するに就ては此の金は斯う云ふ風に使つて貰ひたいと云ふ其の希望を述べなければならぬ、それを寄付行爲と云ふ、即ち社団法人の定款に當るので詰り寄付する行爲を規定したものです、此の寄付行爲を定めて其の事業が内務省と文部省とに關係して居れば内務大臣と文部大臣に宛て許可を請はなければならぬ。

救済事業を法人にするやうにと云ふことを内務省が會て講習會の席上でも勧めました、又奨励金を下付する時分にも成るべく公益法人にせよと云ふことを勧めました、ところが段々公益法人が出来ました、けれども茲に困つた事が一つ出来た、此の公益法人であると云ふことを標榜すると云ひますか何と云ひますか適當な言葉を得ませぬが、公益法人と云ふことを看板に致して居つてさうして會計の整理が出来て居ない、前に申したやうな財産臺帳、收入臺帳と云ふやうなもの、整理が出来て居らぬ、社團法人でありますと毎年一回總會を開いて事業の報告をし豫算の決議をしなければならぬ、ところが斯う云ふやうなものが出来て居らない、唯公益法人にしたのは寄付金を募集する材料になつただけで、公益法人とした目的に適つて居らぬ所のが出来ました、此の地方講習會を初めて大阪に開くに就て、大阪府の囑託で又内務省の囑託であります所の小河博士に態々上京して貰つて相談をしましたところが、事務に關する事を講習科目の中に加へて貰ひたいと云ふことを申されました、即ち私が茲に事業經營に關する注意事項をお話することになつたのは其の譯です、何故小河博士がさう云ふやうな事を申されるかと云ふと、公益法人であることとを看板にして、寄付金を募集する材料に使つて居るけれども内部の整理が出来て居らぬ、寧ろ公益事業を勧めた結果が宜しくないかと云ふことになつて居るのです、是は勿論悪い心でやつて居るのではなからう、慈善事業をやつて居るのだから悪い心でやつて居るのではなからうが結果から見るとさう見る、是は何であるかと云ふと豫算の立て方を知らず或は帳簿の整頓をする方法を知らぬ爲めであるから、どうか此の事を話して貰ひたいと云ふことで、それで學科に屬せざる所のものをお話することになつたのであります。

さう云ふ譯でありますから若も公益法人になつて居らぬものでも、寄付金を募集して經營して居る事業でありましたならば、其の事業に屬する所の金と自分の金とは別にして貰はなければならぬ、是れは當然の話であります、經營者其の人を養ふ爲めに寄付をするのではない、寄付者は其處に收容されて居る所の子供が可哀相である、其の可哀相な者を代つて保護して下さるからそれに對して寄付するのであります、經營者其の人に報酬する意味ばかりではない其の事業を援ける爲めに寄付するのでありますから、其の金を自分の物と心得て自分の衣食の資に供するか、或は贅澤の費用に使ふとかと云ふことは出来ぬ筈であるのみならず、此處には劃然たる分界を設けなければならぬ、曩に次田書記官のお話の中に生活の資料を得ることは差支ない、無論何事業を致してもそれに對する所の報酬と云ふものはある、慈善事業經營者でも食へて行かねばならぬから生活の資料を貰ふことは差支ない、併ながら此の事業の金と自分の金とを一緒にしてはならぬと云ふことを申されたのは此に在る、是は往々にしてあります、私共が地方を巡回致して調べて見ますと色々な事を承はる、斯う云ふ事がありました。

日本育児院と云ふものがあります、あれは元と濃飛育児院と云ひまして日本では古い功勞の有る育児院であります、此の經營者が山形縣方面の人であります、會て鶴岡方面に往つて自分は斯う云ふ事業をやつて居る、世の中の困つて居る者を養うて一人前にしてやると言ふので、地方の人がそれは感心なことだといつて金を出して其の事業を助けた、ところが其處に收容して居る子供を立派に仕立てる、教育してやると宣言しながらそれを樂隊に使つて居る、のみならず經營者の細君が病氣をした時分に病院に入れた、それは細君が事業の爲めに心配して病氣を起したならば病院に入れることは差支ないとしても、地方の人

はさうは考へない、當時地方の人の觀念は病院に入れるのは餘程資産の有る人でなければ病院に入れないものと思つて居る、今日はさうではありますまい、病院は手當が届いて速く癒るから入院させるのは宜いけれども當時地方人の觀念は金持でなければ病院に入れないものと思つて居る、そこで細君を病院に入れてア、云ふ事をするならば、爾後彼の事業に對しては金を出さぬと云ふので郷里の信用を墮してしまつたのみならず其の以來到る處に信用を失して實に氣の毒な有様に陥つてしまつた、私等は常に救濟事業に對して力を盡されて居る方には同情を持つて敬意を拂つて居りますけれども、氣の毒なことには信用を墮してしまつた、これは餘計な話でありますが洵に氣の毒なことでありますからお話した次第であります、内務省が公益法人にせよと云ふのは自分の財産と事業の財産とを區別せよと云ふのが目的でありますから、此の目的を没却しないやうにせられたいのであります、此の事を茲に申上げて置きます。

今お話しかけてございました審査と云ふ事に就て審査の必要なる理由を申し上げます、茲に斯う云ふ實例がございます、新潟縣の北魚沼郡に小出町と云ふ處があります、其處に柳原庵と云ふ孤兒院があります、庵寺でありまして尼さんが居る、私が其の柳原庵に參つて名刺を出しました、さうすると私の名刺を逆に見て、私は名刺を戴いたが讀めませぬが誰方様でございますかと言ふ、それで傍に居る人が庵住さんは字が讀めないやうだがお經は誦めるかと言つたら、お經は和尚様に就て目で覺わたのではない耳で覺わたのだから知つて居ると言ふ、さう云ふやうな滑稽がありました、此の庵住さんがどうして孤兒院を經營して居るかと言ふと、少し長くなりますが面白いからお話します、此の尼さんは幼い時に尼になつて十九から二十三まで或寺に居つた、それから日本を廻國しやうと云ふ希望を起して新潟縣を出て九州四國中國邊を

歩いて歸つた、其の間に野に伏し山に寝ねあき御堂に宿ると云ふことが屢々あつて随分悲惨な目に遭つた併し又今日は父の命日であるとか或よ子供の命日であるからマア上つて下さいと言ふので招待されて大層優遇を受けたこともあり船の中で人の世話になつたこともある、併ながら今申した通り手が書かせぬから其の家に向つては禮の手紙を一本やることが出来ない、年始狀をやることも出来ない、常に人様の世話になつたと云ふことは念頭を離れませぬがお禮狀を出すことが出来なかつた、それで追々年も取つて來るし故郷忘じ難しで新潟縣に歸つて來た、ところが其處に小さな庵寺がある、其の庵寺に這入つて木魚敲いてお經を上げて居つた、一生懸命に毎日お勤をするものだから忽ちに其の地方の信用を得まして、克くお勤をする尼さんであると云ふので今日は供養であるから來て呉れとか何んとか諸方から招かれる、お布施が澤山上つて來る、さうして是は自分の家であつた物であるからと言つて尼さんに同情して色々な物を持つて來て呉れる、そこで自分が食べるよりも少し餘つて來た、之をどうしたら宜からうか、因より尼さんでありますから財産を造る必要も無いので其の時に深く思つた、自分は若い時分に諸國を歩き廻つて人様のお世話になつた、さうしては禮狀も出せぬで居るから其の御恩報じに百人の子供を育てると云ふ念願を起した、さうして難儀をして居る者が在ると云ふことを聞くと私がか世話して上げますからと言つて庵寺に收容する、子供が來ると頭を剃つてしまふ、私の參りました時分には是までに六十人ばかり收容したと云ふ話でありました、役場の人に拵へて貰つたと云ふ帳面を見ますと、其の子供の住所姓名と入院の月日と退院の月日を書いてある、初めの事は能く判りませぬが六十人ばかり收容したさうです、其念願の百人には未だ餘程の月日を要するが近頃は收容して居らぬやうです、それはどう云ふ譯でありますかと申しま



すと私が子供を引取つて育て、居ると云ふと庵住さんは他から貰つた金で育てる、此の世智辛い世に自分が働いて子供を育てると云ふのは馬鹿らしいから、庵住さんに頼めと言ふので自分の處へ子供を抛り込んで行く、親が子を産んでそれを育てないと云ふことはない、斯う云ふ風俗を起しては宜くないと考へたから止めたと云ふ話でありがした、それから又斯う云ふ事があつた、或る子供を六つから十一の年まで育てたところが、其の母親がやつて来て家が少し直つたから子供を返して呉れ、のみならずお頼みする時分に預けて置いた著物まで返して呉れと言ふ、そこで尼さんがサー持つて往かつしやいと云つて、其の子供の著て来た著物を夏冬風を通して微の生ぬやうにして仕舞つて置いたのを出したので、母親が顔色を變へてしまつた、と云ふのは自分の子供を預けて置いたのだから幾らか食扶持を納めて往かなければならぬ、若し著物をなくしてしまつたと言へばそれでは食扶持は上げませぬと言はうと思つたところが、豈料らんや著物を返したので母親が色蒼ざめて大層詫びた、そこで尼さんがナニそんなに心配するには及ばぬ、食扶持などは心配するに及ばぬ、此の子が守が出来るやうになつたを喜んで呉れと言つて歸してやつた、併ながら其の時分に熱々思つた、人情と云ふものは斯う云ふものであらうか、私は決して金を貰はうとは思はないが、二圓でも三圓でも是は僅かであるけれども志でありますからと言つて置いて往くの人情ではあるまいか、然るにそんな逆捻を掛けて往かうとするのは實は酷い、まだ斯う云ふ事がある、それは亭主が亡くなつて食ふに困るからと言ふので子供を預つた、ところが豈圖らんや其の家に男が這つて居る、子供が居ては男が来ないから尼さんに預けたのです、そこで尼さんが怒つた、お前達は畜生のやうなものだ、驚のやうなものだ、自分の産んだ子を育てぬやうなことがあるかと言つて早速其の子供を返してやつた、

自分はお慈悲で難儀して居る者を救助しやうと思つたけれども人情をして斯くあらしめてはならぬ、子供を育て、やつて却て斯う云ふ風俗を造ることは宜しくないと思つたから今は止めました、斯う言ふ尼さんの話でありました、私は其の話を聞いて、私の名刺を逆に持つやうな目に一丁字無しと云ふ其の尼さんが救済事業の眞諦を知つたと云ふ事に就て深く感じたのであります、此の事業に對してやり方が善いとか悪いとか言ふことは適當でなからう、未だ内務省から此の事業に對して奨励金は出て居りませぬけれども、其の庵寺は曹洞宗の管下でありますので森田悟由禪師からも亦今の石川素童禪師からも褒状を賜つたやうに記憶して居ります、私は救済事業をするならば斯う云ふ位に注意しなければならぬと思ひます。即ち審査を十分にやらねば却て悪結果を生ずるやうになると思ひます。

いろ／＼話が混雜しますけれども是から先きは事實を少しお話ししたい、先刻山形縣の鶴岡地方の人から聞きました話をしましたから序に申しますが、山形縣の鶴岡町に鶴岡育兒所と云ふのが出来て居ります、是はどう云ふ動機から出来たかと云ふと、日露戦争の頃に救助を受けなければならぬやうな細民が澤山出来ました、それで春山鐵太郎と云ふ人が町の委員か何かで各戸を訪問した結果、子供が多い爲めに救助を受けねばならぬ状態に在ると云ふことを見まして、是は何とかして子供の世話をしてやらなければならぬと云ふので鶴岡町に育兒所と云ふものが出来たのであります、此處では乞食の子とか棄兒とか云ふ者は收容させぬ、鶴岡町の人で將に貧民とならんとする者若くは將に乞食にならんとする者を救済する爲めに起したのでありまして通常の孤兒院とは異つて居ります、此の事業を始めるに就ては土地に風間幸右衛門と云ふ人がある、此の人が春山鐵太郎君と同年輩の人で春山君が萬事此の人に相談をした、どうも適

任者が無い、春山君が色々心配して探して見たけれども適當な人を得られない、遂に自分が言ひ出したのだからそれちや私が終生の事業としてやりませう、お前さんが仕舞までやり通せるならば金は私が出さうそれならば私がやると云ふことから始めたのださうです、此處で金が一年にどれだけ要るかと申しますと先づ二千五百圓貴方が出し下さつたならば宜からうと思ふ、それでどうか五万圓の公債證書を此の事業の爲めに分けて置いて、それから生ずる二千五百圓の利子を斯業に使ひ得るやうにして下さい、それは宜からう併し今直ぐに五万圓の公債を寄附することは事情が在つて出来ませんが、要るだけの金は私が出さうと言ふので事業を始めた、ところが風間氏の阿母さんが厄介な事をお前は始めると言つて喧しく言つた、其の時に幸右衛門氏が言ふのに私は兄弟が無い、若し兄弟があつたらば五万圓が十萬圓の金を分けてやらなければならぬ、さう思つたならば春山君が熱誠を以てやつて居るのだから私は少しも厭はぬと言つた、阿母さんも其の言に非常に感じて一家異議なく五万圓の利子を斯業に使ふことを得た。

それで春山君がどう云ふ風に子供を育て、居るか云ふことを見ますと、其處に這入つた子供は小さい時から時間は極めさせぬが出来得る者には網を編して居ります、其の網は悉皆北海道方面に送るのであります、閑があつて遊んで疲れたらば網を編く、其の料金は皆貯蓄させて置きます、院の収入を得る爲めに網を編かせて居るのではない詰り時間を無駄に使はない爲めです、多くの救済家が遊戯運動と云ふやうな事をやつて居りますが此處では只遊ばせるばかりでない其の間に仕事をやらせる、今日百圓以上の貯金をして居る者があります、貯金が三十一名ばかりの子供で千三百圓ばかり出来て居ります、それは皆網を編せた金です、此の春山君は他でやるやうな時間を極めて修身講話などはしない、事實に因て子供を訓

へて居ります、例へば乞食の子が物を貰ひに来る、さうするとお前方も阿父さんや阿母さんの言ふことを聴かないでブラ／＼して居ると彼の子のやうになるから、一生懸命にやらなくちやいけぬと云ふ風に教訓する、或時に斯う云ふ事があつた、是は北海道に關係して居りますが其の收容兒の中に一人私生兒がある私にはどうして本統の阿父さん阿母さんが無いのでせうか、お前の阿父さんは此の町に在るけれども今は名乗れない、なぜならばお前の阿母さんが或家に奉公に往つて居つた時分に若旦那の手が著いてお前が産れたのだ、今は名乗る譯にいかぬけれどもお前が出世したならば名乗つて来るに違ひない、今日はお前の阿母さんと阿父さんと大層身分が違ふから名乗ることは出来ぬと、マア一口に言へば勉強せよ／＼と言つて聞かせて居りました、ところが其の阿母さんが歸つて来た阿母さんは子供を産むと直ぐ北海道に出て来て奉公して居つたが、遂に娼妓になつて肺結核を病んで鶴岡に歸つて来た、けれども頼り處がありませんのでお寺のお和尚さんで大層同情心の有る人が自分の寺の物置に置いてやつた、お醫者さんも同情して薬を與へて居つたが寒さに向いて来ると段々病氣が悪くなる、薬は飲んで居るが滋養分を攝らないから此の一月は越せないかも知れぬと云ふ容態になつた、そこで春山君がお前の一人の阿母さんが病氣に罹つて北海道から歸つて来て今お寺の世話になつて居る、けれども滋養分が無いから三月生きるものが一月しか生きぬと云ふ、お前何とか考へて見ろ、さうすると其の晩休めと言つても休まないで先生私の貯金があるからあの貯金を出させて下さいと言ふ、何をするか、あれで以て阿母さんに鶏卵や牛乳やスープなどを買つて上げたいと思ひますが如何でせう、いや貯金を出すことはいけない貯金は容易に使ふべきものでないから今晚篤と考へて見ろ、其の翌日になると先生私はいろ／＼考へて見ましたが金は出来ることがあるけ

れども阿母さんは再び取返すことが出来ませぬから、あの金で鶏卵を買ふて上げたいと思ひます、どうか出さして下さいと言ふ、そこで春山氏が院児を皆其處へ喚んで、何某が斯う云ふことを言ふが貯金を使ふが宜いかどうかと云ふことを皆に諮つた、さうすると皆がそれは何某の言ふやうに今が金を使ふ時でありませうと言つた、そうか、皆がさう言ふならば今日は使ふ時だ、皆がさう思つたと云ふのは皆の心と自分の心が一致した結構なことであると云ふので貯金を出してよい心懸けであると褒めてやつた、其の金で滋養分を與へた爲めに六箇月長生きをした、けれども到頭其の婦人は死にましたのでお葬式も何も一切春山氏の方で行つてやつたさうであります、其の子は毎日々々朝早く起きて自分の仕事に邪魔にならぬやうに四十九日の間阿母さんの墓参りをしたと云ふ。

此の話を聽いて私は春山君の教育が徹底して居ると云ふことを感じました、毎朝々々講話をしてやつても徹底した講話でなかつたならば何もならぬ、復た先生がア、云ふ事を言つて蒼蠅い、先生はしないで自分達ばかりにしろと言ふ、どうかすると子供は斯う云ふ心を起します、現に奈良縣で斯う云ふ實例があります、特殊部落の風俗の改善をしなければならぬと云ふので肌脱ぎをしてはいかぬ、帯を取つてはいかぬなどと云ふ大變やかましいことを言つた、ところが特殊部落の人が大層怒つた、自分達ばかり責めて何故他の人は責めぬかと言つて反抗した、其の爲めに折角特殊部落の改善を企てたけれども中途にして挫折したと云ふ事があります、院長自行はないで院生ばかり責めたところが何も効果が無い、春山君は實に徹底したる教育をして居る、其の他の美談がありますが時間がありませんから春山君の話は此の位にして措きます。

其の次に救濟事業を行ふには家を建てなければいかぬ、收容する場處が無ければ救濟事業は行はれぬと云ふ人があります、成程さう云ふ場合もございますけれども家を建てなくとも救濟事業は行はれます、其の家を利用すれば行はれると云ふ實例をお話します、鳥取縣に寛雄平と云ふ人がありました、此の人は地方の篤志家でありまして自分は淨土宗である、所謂易行門の人でありますが人間は信仰は其處に置かなければならぬけれども、難行苦行をせんければならぬと云ふので、自分の居村に鎮西道場と云ふものを建てた、さうして臨濟宗の何んと云ふ坊さんでありましたか名前を忘れましたが滋賀縣の高名な和尚を招待して道場に於ける僧侶の難行苦行の態を村の人に見せた、詰り此の位苦行しなければならぬと云ふ状態を見せたのです、さう云ふ人であります、此の人がどう云ふ事をしたかと云ふと、種々な事業をやつて内務大臣から第一回の時に選奨に與つたのであります、其の事を詳しく云ふ時間がありませんから、唯一つ救濟事業に關係した事だけ申し上げます、其の村の人が秋期になりますと取入や何かの仕事に大變遠方まで往く、それで留守は小さい子供をほつたらかして往くために怪我をする者もあり、或は喧嘩が出来ると云ふやうな譯で子供の處分に甚だ困つた、そこで寛雄平君が自分の持家を青年の夜學校にして居るのがあります、晝間は明いて居るから留守の子供を喚集めて來た、さうしてどうしたかと云ふと其處に尼寺がある、尼さんは唯佛さんのお守りばかりして居る、お前さんは此の村の人の世話になつて居るのだから此の場合御恩報じをしなければいかぬ、此處へ來て子供を世話して呉れと云ふので尼さんに子供を世話させました、所謂晝間幼児保育所ですな。

斯う云ふ風に考へてやつたならば餘り澤山の金を使はずに救濟事業が出来ます、必ずしも孤兒院と云ふ

看板を懸けてやらなくても宜い、或家には子供が死んで乳が餘つて困つて居る處がある、其處へお願して世話して貰ふと云ふやうな方法もございませう、いろ／＼地方を調べて見たならば篤志の人がありますから、さう云ふやうな方法を執つたならば澤山の金を使はずに育兒事業が行はれるのでありませう、必ずしも金を澤山掛けなければ救済事業が行はれぬと云ふものではない、金を掛けなくても考へやうに依て救済事業が行はれる、是は救済事業を行ふ上に於て最も大切な事でありませう、經濟的に救助すると云ふことが最も大切です、濟生會の出来る時分に此の施藥救療はどうしたら宜いかと云ふ問題が出た、其の時に三宅博士が斯う云はれた、第一醫者は患者に接するに親切にしなければならぬ、普通の患者がどうも此の薬は苦くて服み悪いと云へば砂糖を加へて服ませる此の薬一方では餘り變な味がして食べられぬと言へば色々薬を調合して服ませる、さうすると薬價は高くしなければならぬけれども仕方が無い、併ながら貧民を救助するには少し位薬が苦くても經濟であつたならば砂糖を入れずにやつても宜い、即ち一人の患者に澤山に金を掛けて少數の者を救助するよりも、少い金で多くの人を救療が出来れば宜い、貧民には普通の人の服むやうに服しよくさせなくても宜いと云ふ議論を爲されたことがありました、是は實に此の救済事業を行ふ上に於て考ふべき事だと思ひます、貧民だから残酷にして宜いと云ふのでは決してありませぬけれども、薬は苦いものに極つて居りますから、普通の人以上に食べ宜いやうにしくとも、病氣さへ治してやれば宜い譯です、斯う云ふ風に經濟的に考ふことが救済事業經營の上に於て大切な事であらうと思ひます、まだ色々救済事業を經營した人の苦心慘憺の話もございませうけれども、此お話を申し上げますとまだ二三十分ばかり時間を要します私の申上げやうと思つた事柄は大體是れで盡したと思ひますから是れで終りと致しまする。(完)

## ○感化事業

### 第一回

家庭學校長

留

岡

幸

助

私の時間は六時間あるのであります、それで六時間で終るやうに申上げますから或る處は非常に畧さなければならぬと思ひます、此の不良少年感化事業と云ふ問題は近頃餘程やかましい問題でありまして、少し町かゝつた處には随分不良な子弟が居るやうであります、それで此の處分方法に就ては政府當局者は勿論、教育家宗教家社會改良家の非常に苦心をして居る所でありまして、ちよつと輒く之を改良感化することとは至難なのであります、それで色々専門の人が盡力して居るのであります、御承知の通りに我國の感化問題は法律の上から云ひますと明治三十三年に法律が出来ました、爾來今日に至るまで公私の感化院が五十七あります、其の中に不良の子供が千七百七十六人ばかり居ります、さうして是が爲めに毎年二十万圓ばかりの金を使つて居ります、是は既に設立した所の感化院の内に收容感化されてある所の實數であります、一體全國に亘つてどの位不良な子供があるかと云ふことを色々調べてありますが、未だ確實なものもございませぬ、稍信を置くに足るべきものは内務省が數年前調べました、八歳から二十歳未満の男女の者で五万二千人と云ふのが信ずるに足るのであらうと思ひますが、是も本統は當てになりませぬ、何故かと云ふと其の後に復た調べた所に依りますと一万余人と云ふ數が出て來て居るのであります、前には五万二千人と云ふ調で今度は一万余人と云ふのです、一體是は誰が主になつて調べたかと云ふと、地方長官の命に依て各警察署に於て調べたのであります、それでありませうからそれが果して本統の實數である

かどうかと云ふことが判らぬのです、そこでどの位迄が一番確かな数であるかと云ふことは確實な統計がありません、申上げざる譯に往きませぬが、事實は決して五万や六万の数であるまいと云ふことは確かであり、此の間も警視廳の不良少年専門の係の警部に阪口と云ふ有名な人がありますが、其の人の申すのには少くとも東京にて三千人は何時でも出して見せることが出来る、が然し何處かに之を收容して呉れる所があるかと云ふに乍遺憾今日では無い、と云ふことでありましたが、然るにその三千と云ふ数も事實でない、と云ふことの論はどう云ふ所から立つて来るかと云ふと、犯罪人と云ふものは一體どの位我國にあるかと云ふに先づ標準を取つて見ますと、我國の犯罪人は約五万と六万の間でありましてこの数が始終監獄に上下して居るので此の實數から考へて見ると犯罪人なるものは卵の殻を出た泥棒としては一人前のものでありますから、犯罪人の卵と云ふものが何處かにあるに相違ない、其の卵と云ふものは一人前になつた犯罪人の實數より非常に多いに相違ない、此の犯罪人の卵は何んであるかと云ふと不良少年であります、既に一人前になつた所の犯罪人すら始終監獄に居るのが五万と六万の間でありますから此等から考へて見ますと、不良少年が五万や六万でない、と云ふことが判る、爾うかと云つて誰も統計した者は無し統計するとしても算立の根據がむづかしい、何となれば警察の眼に留つて居る不良少年が五万二千人は居らぬけれども警察の眼を隠れて居る者が澤山ある、又今日の警察官全體が吾々の謂ふやうな感化事業不良少年と云ふものに就て吾々の頭と同様になつて居るか、と云ふと、銘々考が違つて居るのでありますから或人は之を不良少年であると思ひ或人はでないと思ふ、其の頭の違つた人が五万二千人と算へるのだから、どうも是は確實でない、と云ふことが出来る、又犯罪人がそれだけ居ることを考へて見ますと卵が五万や六万でない

いと云ふ證據が儘に立つのであります。

そこで是は私ばかりではありませぬ、他の人も爾う考へて居るやうであります、斯業に當つて居る人が言ふのに十万人以上あるだらうと申して居ります、さうして二千人足らず感化院に收容して居ると云ふのでありますから、また學校内にも不良少年が居る、私の實驗する所に依れば今日學校の中で一番不良少年の多いのは中學校です、或は中學校類似の學校です、一番中學校の學生の中に不良青年不良少年が多いのです、小學校は比較的少い、假し在りましても教師と生徒との間が比較的親密でありますから、教師の家へ伴つて往つて世話をして居る人もあります、さうでありませぬれば學校を離して相當の處で不良の兒童を親切に指導啓發して居るのも随分あります、小學校にも在りますけれども小學校では之をどうすることも出来ぬ唯だ隨機の處分を執つて居る、中學校には澤山ありますけれども是亦如何ともすることが出来ない、轉校させぬ以上は先生の眼を潜つて悪い事をする、随分他の學生を悪化して居るのです、それから其他中學程度に類似した所の學校に不良少年不良青年が居る、それから社會階級の上流の處にも居る、是は金の力、位地の力を以て不良少年不良青年を隠して居るから警察の手も及ばぬ亦感化事業家の手にも及ばぬので、どの位あるか判りませぬけれどもなか／＼澤山居る、それは追々申上げます、それから今現に不良少年でなくても一年二年三年と放任して置けば必ず不良少年になると云ふ見込の付いた少年が居ります、それは勿論不良少年になつてしまつた者の處分すら十分付かぬ位でありますから、此の處分は勿論付かない、それを豫防事業と社會學者が申すのです、でありますから不良少年或は不良青年と云ふものが十万以上あると言つても、是は大袈裟の言ひ方であるとは私共思はないのであります。

斯ふ云ふ大勢の不良少年或は青年を如何に處分をして往くか或は又不良少年不良青年を出さぬやうにするにはどう云ふ風にして往くかと云ふのが矢張り感化事業です、不良の少年青年を出さぬやうにする感化事業が最も大切なのです、之を適當な方法を以て良民にする事業と感化事業には前後に執るべき方針があります、でありますから是は感化事業に當つて居る者だけやるべき仕事でなくして、今日此處に御出席になつて居る教育方面に直接當つて居らるゝ方々、又宗教方面に當つて居らるゝ方々と共に、之に對して御心配を仰がなければならぬ問題でございます、甚だ廣い問題であります。

而して此の感化事業と監獄事業とは頗る密接の關係が有ります、沿革から申すと此の事業は監獄事業から生れて來た事業なんです、それで監獄の型が感化事業に遺つて居りますから本統の教育事業の範圍内に這入つて來て居らぬ、西洋文明諸國に於ける感化事業の發達した跡を討ねて見ますと監獄事業から來て居る、何故來て居るかと云ふと罪人を善くしやう、刑法の目的は罪人を懲罰してさうして之を減さうと云ふのです、減すには改良感化しなければならぬ、罪人を懲罰して之を悔改めさせて罪人を國家から減すと云ふのが刑法の目的なんです、其の刑法の目的を監獄で達しやうと思ふとなか／＼達することが出來ない、世界中何處の監獄を調べて見ても罪人が段々殖へて來て居る、其の殖へるのはどう云ふ種類の罪人かと云ふと、監獄學者の謂ふ所の習慣犯罪人と云ふのが一番殖へて往く、習慣犯罪人と云ふのがどうして殖へるかと云ふと、監獄へ一度這入るさうして出て來た者が再た這入る、又出て來た者が再た這入る、幾度も監獄を出たり入つたりします、さうすると初めは爾う悪くない者が監獄へ這入つて悪くなるのでありますから、刑法の目的たる罪人を懲罰して悪い者を減すと云ふ目的が達しない、今日だけの刑法及び監獄の制度

では監獄からして罪人を減すと云ふことが今日の學問の力では出來ない、是から出來るやうになるかも知りませぬが今日までは歴史上に於て出來て居りませぬ、習慣犯罪人が殖へて來て、習慣でない初めて悪い事をした者も習慣犯罪人になつて幾度も出入しますから、今日の監獄の制度、今日の監獄學では之を減すことが出來ぬと云ふ結論になつて居るのです。

然らば國家の罪人を減す方法が無いかと云ふと有る、それは何んであるかと云へば不良少年を感化すると云ふことが罪人を減す方法である、それと同時に育児院に這入つて居る孤兒或は貧兒を改良するのが罪人を減す道であると云ふ結論に達する、之を監獄學者が豫防事業と云ふ、さう云ふ所から詰り罪人を減すと云ふのには不良少年若くは孤兒貧兒を改良感化するにありと云ふ議論に到着したのであります、それでありますから監獄に従事して居る者にして此の不良少年感化事業に關係して居る者が多い、そこで感化事業の方法とか組織の中に監獄制度の型が遺つて居るのです、それを取つてしまはなければいかぬけれども矢張り型が遺つて居る、又或る不良少年不良青年は感化院に收容の出來ない者がある、例へば習慣的に火を放けたり或は人を斬つて血を見ることが愉快であると云ふやうな不良少年不良青年があります、此等は單純の感化院ではいかぬから之を監獄に送る、それが爲めに感化事業が監獄事業と紛しくなつて動もすれば感化制度の中に監獄の分子を持つて來るからいかぬ、けれども根本の起りは監獄事業を段々やつて罪人を減さうと思ふと監獄ではいかぬから、感化事業或は孤兒貧兒の教育事業に依らなければならぬと云ふ事から出て來たのであります、でありますから今日の感化事業と云ふものは監獄事業から生れ出たと云つても差支ない、型が遺つて居るから此の監獄臭味を段々取つて往くやうにするのが斯業を良くやつて往く

と云ふことになるのです、それで英吉利のモルソンと云ふ未だ生きて居る學者であります、矢張り少年感化と云ふことを善くやるのが罪人を減すと云ふことに就て、有名な少年犯罪論と云ふ中に斯う云ふ事が書いてあります。

予は廣く實地に犯罪者を研究したる後習慣犯者則ち犯罪を職業と爲す惡漢は其の犯罪の必ず幼時に萌芽せることの確信を得たり幼時に於て犯罪の習慣を爲すものにあらざれば老ひて習慣犯者と爲るは比較的僅少なるものなり凡そ犯罪者は大別して二種となすことを得、習慣犯者、偶發犯者則ち是なり時に其の差引實際不明なることなきにあらずと雖も概して犯罪人の間には此の二つの截然たる區別を存するものとす而して偶發犯者は幼時に於て犯罪的習慣を爲すにあらざるよりは習慣犯者となるもの甚だ稀にして其の前者より轉じて後者に移るは多く少年時代に起るを常とす茲に於てか知る習慣犯者を處遇するに最も有効なる方法の一は少年犯罪者を矯正し牢として抜くべからざる犯罪反覆の惡習に陥らしめざるに在る事を云々

斯う云ふ事を少年犯罪者論に言つて居るのでありますが實に其の通りであります、でありますから國家の犯罪を減すと云ふ早道は不良少年を改良感化するにあると云ふのは其處から來たのです、是は私の實驗であります、今から二十八年前に今はありませぬが空知の岩見澤の傍の市來知と云ふ處に空知集治監と云ふのがありました、其處に全國で一番むづかしい罪人を二千人集めて農業をやらせたり道路を造らせたりして懲罰を加へて居りました、其處に私は二十八年前に教誨師として三年間勤めて居りました、さうして其處に三年間居る間に二千人の四人の中から約三百名の者を一人々々自分の部屋に連れて來て、どう云ふ

譯で今日のやうな惡黨になつたかと云ふ身分調をした、ところが百人の中で八十五人位までは十二三歳或は十四五歳の時に於て不良少年であつた、今から二十八年前は日本に於て感化院と云ふものが微々たるものが唯だ二つしかなかつたのです、其の感化院に或處は五六人或處は二三十人の不良少年を收容してあつたのみで其の外は皆監獄に入れてしまつてあつた、それで其の三百名程調べた中に十八九名は十二三歳前後は皆不良少年であつて政府は勿論家庭に於ても之を取締る方法が無かつた爲めに、遂に牢平として抜くべからざる習慣的犯罪者になつて往くと云ふことが判つたので、此の監獄では到底罪人を減すと云ふことは出來ない、自分が他日志を得たならば感化院を起して十二三歳乃至十五六歳の不良少年を改良感化したと云ふのが、私が今日感化事業をやる動機であつたのです。

で今申述べました如く感化事業と云ふものは監獄事業から生れ出て、さうして今日の教育學や心理學や生理學やの光に依て今や純然たる社會的教育事業に入りつゝあるのです、今日は日本の感化院と云ふものは未だ極めて不完全であつて、此の監獄學と云ふものは一種の學問を成して居りますが、感化學と云ふものは未だ一科の専門の學問になつて居りませぬ、でありますから如何に此の感化事業と云ふものが不完全なものであるかと云ふことは諸君に於ては解りになることが出來やうと思ひます、そこで益々之に就て研究と實驗とを積んで此の不良少年を少くして、國家の犯罪者と云ふものを減すと云ふことが大切な問題である、又其の數を減すのみならず之を救うて立派な人間にすると云ふことが政府は勿論、教育家宗教家社會改良家の任務であると云ふことは明瞭であらうと考へます。

そこで感化教育の定義を少しお話ししたい私は感化教育一名之を改造教育と名けたいと思ふ、私共甚だ

研究の未熟なものでありますが、もう少し之を研究し實驗を積んだならば之を改良教育と變へてしまひたいと思ひます、一體感化事業と云ふ字は當つて居らぬのです、感化或は風化と云ふ字は此の不良少年の改良教育には當つて居らぬ字なんです、何故かと云ふと風化或は風化と云ふ事は從來名僧知識の徳化の及ぶ所不良な人間が立派な者になつた、或は高德の儒者學者若くは徳望家の力に依て間違つた者を有つて居つた者、低級の者を有て居つた者が立派な人間になつた、悪人が改良感化したかと云ふそう云ふ精神上の意味なんです、ところが此の不良少年を教育する事業に感化と云ふ字が當つて居らぬと云ふのはどう云ふ譯であるかと云ふと、感化と云ふ字は英語の *Reform* と云ふのは是が一番當て居ります、此レフォームは二つの拉典語から出て居るので「レ」と云ふのは再びと云ふ義で「フォーム」は形造ると云ふ義であります是れで再び形造る教育と云ふ事になるので何故再び形造るかと云ふと、人間と云ふものは立派なものと云つては語弊があるか知りませぬが無垢な人間に生れて來た、所謂支那の哲學者が人間は白い絲のやうなもので社會教育の力に依て之を黒い絲に染めることも黄に染めることも出來ると言ひましたが、人間は再う云ふものである、決して初めから悪く造られて居るものではない、初めから善く造られて居るものでも尚ほ人の感化教育に依てどうでもなるものだ、是れから私は不良少年の原因をお話申しますが社會境遇の宜しからぬ所、家屋状態の宜しからぬ所などからして人間を悪くしてしまつた、素と善かつたとは言はぬが素と無垢純白であつたものを廣き意味に於ける遺傳や社會教育に依て悪くしてしまつた、其の悪くしてしまつたものを今度は造り變へるのです、幼稚園の教育或は小學校の教育は改造教育と云ふ感化事業ではありませぬ、是は普通の教育で比較的無垢であるものを段々仕立つて往くのであります、ところが小學校の

教育とも違ふし幼稚園の教育とも違ふ亦中學校の教育とも違つて一度悪くなつた一悪くと云ふ意味は道學者の所謂善惡と云ふ意味ではなくして墮落して悪くなつた人間を再び改造して往く教育を感化事業と云つて居ります、此の感化と云ふ字は當つて居らぬ感化と云ふのは耳障りがありますと云ふので、獨逸では之を保護教育と云ふ、日本で感化事業と云ふのを保護事業保護教育と云ふ、そこで私は之を改造教育と云ふのが一番宜く當つて居ると思ひます。

然らば何故再び形造るかと云ふと第一身體壞がれてしまつて居る、私は家庭學校を創めてから實際三百四五十人取扱つて居ります、其の他監獄に於て或は他の場處に於て出會はした所の不良少年は澤山ありますが、不良少年は皆身體が壞れて居る、身體の壞れて居ない不良少年は一人もあませぬ、腦に於て缺點があるか神經に於て缺點があるかは何れ三宅博士から病的の兒童の取扱に就てお話がありますから其の時に多分述べられるであらうと思ひますが、神經系統に於てか身體の各部に於てか何れかに於て不良少年と云ふものは非常な缺點を有つて居るものであります、身體の満足な不良少年は無いものです、そこでそれは精しく三宅博士からお聽を願ひたいと思ひますが、第一身體の完全な者は無い普通の子供とは違つて居る、是れだから其の不完全な病的な缺點の有る身體の子供は身體から治して往かなければならぬ、改造教育は第一身體から治して往く教育です、是はどうしても斯う云ふやうな事が判然言へるかと云ふと、此處には感化院長の方々もた出でになつて居りますから諸君が就いて能く聽になつたら判りますが、身體の完全な者は無い、殊に英吉利などに於ては感化事業が最も進歩して居りますが、英吉利の調に依りますと小學校の子供と感化院の子供と同年齡の者を千人なら千人集めて研究した結果が、モルソンと云ふ學者の



調に依て出て居りますが、感化院の子供は身長も短い、握力も弱いそれから胸の幅が狭い亦眼の力が弱い耳の力が弱い、大抵不良少年は腦に缺點が有り耳鼻咽喉に缺點が有り總て各部の器官が悪い、それであるから改造教育は身體の悪くなつて居る者を先づ第一に身體から治して往かなければならぬ、それから次に智慧に及び道德に及んで所謂子供の身心を共に改造して往くと云ふ教育なんです、それだから感化と云ふ字は當りませぬ、改造と云ふ字が一番當つて居ると自分は信じて居るのであります。

そこで此の改造教育の恩澤に浴すべき所の者はどう云ふ人間であるかと云ふと、無垢純白な者が社會的缺陷、教育の缺陷其の他の力に依て悪くなつて居るのでありますから是非非常に範圍が廣い、私をして社會的に言はしむるならば感化事業の範圍は非常に廣いものであつて犯罪人、淫賣婦、賭博者、浮浪者、白痴低能、それから酔酣者即ち大酒を飲んで所謂泥酔の習慣になつて居る者、斯う云ふ者が廣き意味の感化を要するものであります、それだから感化事業には廣き意味に於ける感化事業と狭き意味に於ける感化事業と斯う二つあります、私が今日言ふ所のものは狭き意味の感化事業をお話するので、狭き意味の感化事業は大抵子供に限る、此の狭き意味の改造教育は之を三つに分けることが出来ます。

第一は遺棄の状態に在る兒童、是は生江囑託から充分話されたであらうと思ひますが、孤兒であるとか貧兒であるとか或は棄兒であるとか、殊に是は大都會に於て最も多い、此等の者が第一に狭き意味の感化事業の内に來るものです、貧兒の教育孤兒の教育は即ち廣き意味の感化事業の中の豫防事業の一つです之を放擲して置けば罪人になる、不良少年百人の中で大抵四十人位は孤兒です、どうして爾うかと云ふと食はせる者も教ふる者も無ければ人間が悪くなるに極つて居ります、是は各國の統計を詳しく調べて見ると

百人中大抵四十人位までは兩親を失つて居るか隻親を失つて居る、兩親揃うて扶養義務を全うして居る者の子供は滅多に不良少年にならぬ、さう云ふ風な意味から考へて見ると私等の親孝行と云ふ意味が非常な意味を有つて來る、昔は唯だ精神上或は道德上から親孝行を奨励したけれども、今日は小學校の子供を集めて話をする時分にお前さん等は兩親揃うて居るから仕合なものである、故に親孝行をしなければならぬ何故ならば感化院に往つて見ると不良少年百人の中四十人までは親の無い者である、お前さん方は兩親が揃うて居るのだから仕合なものだ、それだから親孝行をしなければならぬと言つて説くのが親孝行の意味を成して來るであらうと思ふ、それでありませぬから遺棄の状態に在る者、それから不良の状態に在る者則ち不良少年、今日で言ひますと感化規定にある所の行爲をなす者、或は二十才未満のもので刑法に規定してあるやうな悪い事をして居る者、此の三種類に屬する所の者が則ち改善教育の中で取扱うて之を善良な者に爲すと云ふ意味を有つて居るのであります、そこで感化と云ふ文字は漠然なものであります斯う云ふ風に分拆して考へて見ますと、一體今日の不良少年不良青年は如何に取扱つたら宜いか、如何なる方法を以て之を改良して往くことが出来るかと云ふ明瞭な考が起つて來るであらうと考へます、さう云ふ風になつて來ますと此の狭義の感化教育の中來る者の三種類を挙げますれば、是は十万や二十万の者ではない非常な多くの數になつて來ます、唯だ不良行爲の状態に在る者は十万位だらうと思ひますが、此の感化教育の恩澤を受くべき二十才未満の不良少年不良青年の數は決して十万や二十万ではないと云ふことを申上げ得るのです、さうして見るとなか／＼此の感化事業と云ふものは範圍の廣いものであると云ふことは御了解が出来る。

そこで私の茲に申し上げたい事は感化院長及びそれに關係して居る職員のみが感化事業をやるべきものと云ふ者が間違つて居るので、是は社會全般の人がやるべき問題なんです、殊に教育宗教の局に當つて居る人の御加勢がなかつたならば到底此の仕事は良くいかぬ、其の一二の例を申し上げますと此の頃私の處に十四になる子供が東京の深川から来て居ります、それが社會上の位置は中等位です、ところが物を盗むですさうしてお祖父さんお祖母さんなどは其の子供が眼に當つても痛くないと云ふ程可愛い、それで最初はさうしても家庭學校へ送らぬ、ところが其の受持教員に熱心な人があつて、此の子を此の儘にして置いてはいかぬから早く家庭學校のやうな處へ送つたら宜からうと云ふ受持教師の懇篤なる注意に因て遂に家庭學校へ送ることになつた、さうすると可愛いものだから始終お祖母さんが面會に来て、菓子を持つて來たり何かして動もすると件れて歸らうと言ふ、そこで受持教師が昨夜お祖母さんが來たがあれは間違つて居るからどうか此の家庭學校に置いて呉れ、多分此の子供はお祖母さんに依て救はれないけれども家庭學校の先生に依て救はれるだらうと言ふ、さう云ふ譯で宗教家なり教育家なりの助勢がなかつたならば中々此の不良少年と云ふ者を改良感化することが出來ない、さう云ふ譯で此の感化事業と云ふものは至難な仕事ではあるが併し社會の同情に依て輒く出來る仕事である、殊に宗教家の關係は最も密接な關係が有ると思ふのであります、又お寺の住職の方で自分の檀家に不良少年を出すと云ふことは寔に耻辱である、どうか社會に隠して感化して呉れと言つて件れ來た者があります、是は實に奇特な考であると思ひます、斯う云ふ宗教家がありますれば感化救濟事業に直接當つて居る者が微力でありましても、輒く不良少年を改良感化することが出來ると思ひます、社會の同情と云ふものが獨り感化事業のみならず一般の慈善事業に加つて

來ぬ以上は到底効果を擧げること出來ない、私か此の事業を創めたのは今から二十年前です、それから斯う云ふ種類の事業に關係したのが今から三十年前です、三十年前に遡つて考へて見ますと今日は非常な違ひです、今日は社會の同情、社會の盡力に依て感化事業慈善事業が進んで居ると思ひます、それを此の次の時間にお話して更に他の問題に移らうと思ひます。

## 第二回

唯今社會の同情が斯業を發達させると云ふことを言ひましたが私は斯う云ふ風に考へて居るのです、如何に畑が良くても良い種子を播いても亦良い老農が居ても、氣候が順當でないと作物が育たぬ、感化事業でも一般の慈善救濟事業でも社會が動いて來ぬ以上は役者ばかりでは決して本統の仕事は出來ないと云ふ事を三十年前に感じたのです、そこで私は當時内地で基督教の牧師をして居りましたが、さうか社會的方面の事業をやつて見たいと言ふ考で本道の空知集治監にやつて來た、其の時に皆留めました、そんな處へ往くでない、北海道は悪い事をしなくては往かぬ處だから往くでないと言つて皆留めました、それで一人も賛成する者が無い、私共の仲間の宗教家と雖も賛成しない、併し私は札幌に來て大に感謝したのは當時農學校に居られました新渡戸稻造博士或は宮部金吾先生それから大島正健先生等がそれは宗教家として大にやるべき事であると言つて非常な歓迎を受けましたが其の他は四面楚歌の聲であつた、之を以て見ても一般がトせられるのです、私共が斯う事を思ひ立つた時に岡山の石井十次君が孤兒を集めて教育をしかけた時でありました、けれども社會がそんな事をせぬでも宜いどうでも宜いと云ふ考を持つて居つた、そこで社會が動いて來ぬ以上は孤兒或は感化教育其の他特殊教育に従事する者が幾らやつても駄目だと思ひ

ました、氣候が良くないと作物が出来ないと同様で、社會の同情と云ふものが無くては斯業は到底發達しない、そこで自分は家庭學校の感化教育を三代事業と言つた（近頃は爾うは言ひませぬが）三代事業と云ふのは逆も此の事業は社會の同情が無いから自分と自分の子供それから孫の時代と云ふ意味です、社會の同情が加らないから到底自分の力では出来ないと言ふ考を持つて居りました、ところが近頃は社會の同情が出て來たから都合に依ると自分一代で自分の關係して居る事業が大體出來ると思つて居りますが、一般の慈善事業も今から遡つて三十年前と今日と比較して見ると非常に同情が加つて來ました、殊に私は今回の此の講習會に孤兒院、感化院、育兒院、免囚保護と云ふやうな方面の方々ばかりでなくして教育の方面に當つて居らるゝ方、宗教の方面に當つて居らるゝ方が多くお集りになつたと云ふ事を聞いて非常に愉快に思つたと云ふのは諸君の如き救済事業に近き關係を有つてござる方々が、社會と吾々との間に立つて吾々の仕事を取次がれ又社會に向つて鼓吹されると云ふことが、此の事業をやるのに非常な力となることでありまして、諸君の如き方々に斯業の何たるを御了解になつて戴くことは、斯業の非常な助になることであると思つて大に喜んだ次第であります。

私は其の時には監獄事業と云ふ考ばかりでありましたが、空知集治監に参りました時に御承知の通り空知は非常に雪の多い處で多い時には六尺も降つた、吹雪でなくして普通の道路に六尺位溜つた、御承知の通り殖民地でありますから板で拵へた家で比較的粗造な而も低い家である、其處へドン／＼溜つて來るのでありますから、今はどうか存じませぬが雪道を拵へて家の屋根よりは道の方が高くなつて居ります、或時警察署が此の下に家ありと云ふ札を建てた、ところが權などを牽いた馬などが暴れて寝て居る所へ馬の

足が抜け立てたと云ふ奇談があります、今頃の警察が此の下に家ありなどと云ふ札を建てるとかどうか知りませぬが、私の居つた時には何しろ非常な雪であつた、是が何時融けるであらうと云ふ考を起す、それで當時は未だ日本に社會事業、感化救済事業など、云ふものは起つて來ない、是は何時人間の堅い心が開けて來てさうして雪の融けるやうな風に此の社會事業、感化救済の事業が社會の同情を得て起るかと思つた位、そこで自分が腰折をやつた、和歌になつて居るかどうか解りませぬが其の腰折は斯う云ふのです。

大雪も何時しかとけてあら土の

中に生ね出む春の若草

彼のどうも空知の山も川も何處も彼處も一面に埋つて居る雪が何時融けるか知らん、ところが四月の中旬から五月の初になると一陽來復の日光の力で何時とはなしに消れて失くなつてしまふ、さうして其の中から實に美しい所の芽が出て若草が生ねて來る、時勢と云ふものが來たならば此の慈善事業と云ふものも社會の同情を得るに違ひないと云ふ意味で今の腰折をやつたのです、此の間私は大阪に参りました、彼處では小川法學博士が頻に此の感化救済の事業を鼓吹して居られます、さうして月に一遍づゝか宗教家教育家、社會改良家、慈善事業家を集めて懇談會がある、其の時分に非常な有益なる話がある、其の他救済研究と云ふ雜誌を出す、或は到る處に研究會を開き或は人の相談相手になると云ふ風に非常に鼓吹されて居ります、それで大阪府知事の話に五十万圓の金を持つて來て是で肺結核の療養所を建て、呉れと申込んだ人がある、又或る晩十萬圓節約して蓄めたからは是で補習教育をやつて貰ひたい、簡易な職業徒弟學校みたやうなものを起して呉れと言つて十萬圓持つて來た人がある、さう云ふ譯で大阪及び大阪附近では金持が

斯う云ふ事業に金を出すやうになつた、其の他全國到處此の社會的の考が起つて来て公共慈善の爲めに金を出すと云ふ氣運に向つて來た、三十年前に於ては三十年後に斯んな事が起らうとは思つて居なかつたでありますからどうしても輿論を一つ起さなければ仕事が出来ぬと思ふ、其の輿論を起すことに就て力有る所の方々は此の宗教教育の方面に當つて居らるゝ諸君であらうと思ひます、諸君が此の講義を聴かれて直接感化救濟の事業に當りなさらぬでも、輿論の鼓吹者として今後十分御盡力を仰ぎたいと云ふのが、諸君の如き方々が今回此の講習會に多く集りになつたと云ふことを聞いて私が非常に喜んで來た所以であります、輿論を起して社會の同情が起つて來なければ決して此の事業は起るものでない、昔自分が四面楚歌の聲であつたのに今日一陽來復の時が來たと云ふのは實に愉快に禁じませぬから、そこで斯う云ふ話をするのです。

そこで是から本論に還つて一體不良少年と云ふものはどう云ふ事から起るかと云ふ其の原因を研究して見たい、監獄學者が犯罪の原因を論ずるのに凡そ之を三つに分ける。

其の一つは自然的原因と云ふ、自然的原因と云ふのはどう云ふ事であるかと云ふと、天然自然に人間をして悪い事をさせるやうな勢力が有る、それは不可抗力で人間の能力を以て抵抗することが出来ないものと云ふ風に極端に論ずる、私共が今日不良行爲を論ずるに矢張り自然的原因がある、犯罪行爲を自然的原因と云ふのはどうであるかと云ふと、之をザツと話しなすと氣候と云ふものが人間をして悪い事をさせる大なる原因になると云ふ、監獄學の原則に依ると犯罪は一つは氣候に大變關係すると云ふ、例へば冬は財産刑が多い、財産刑と云ふのは金錢を盜るとか物品を奪ふとか云ふ財産に關係する犯罪が多い、何故

かと云ふと冬は著物を餘計著なければならぬ、焚き物が要る、其の他冬は色々生活するのに材料が餘計要るから自然金が餘計要る、其の爲めに冬は財産に關係する犯罪が多い、それから夏は生命犯と云つて人命に關係する犯罪が多い、即ち人を斬るとか毆るとか殺すとか云ふやうな犯罪が多い、それは氣候の加減で腦髓が變になるのでせう、それだから暑い國に往くと生命犯が多いし寒い國に往くと財産刑が多い、して見ると是は人間がやるのだけれども天然自然の勢で爾う云ふ悪い事をするのだ、斯う云ふ風に自然的原因を説く者があります、不良行爲も矢張りさうです、夏と冬とは不良行爲が餘程性質が違ふ。

其の次には個人的原因と云ふ、是はどう云ふ事かと云ふと不正な行爲をしたり悪い事をしたりの原因は一個人の内にあると云ふのです、之を監獄學者がどう云ふ風に説くかと云ふと、男女性を異にする犯罪が違つて來ると云ふ、歐羅巴各國では犯罪人百人の中で女が二十人位男が八十人位ある、日本では女の犯罪者と云ふものは百人の中で十三四人はかない歐羅巴より餘程少い、それには理由がありますが是は今お話しませぬ、斯く犯罪数が違つて來ると云ふのは男女性を異にして居るからで男が餘計悪い事をする、と言つて男と云ふものは悪い奴で女は善いものであると云ふ譯ではない、詰り社會的の事件に接觸して來ると犯罪と云ふものが多い、それで女は家庭の内働き男は家庭の外に出て社會百般の事に接觸する機會が多いから隨て犯罪の機會が多いので、男が總て悪いもので女が善いものであると云ふ意味ではない、けれども男女性を異にすることに因て女が犯罪を爲し難いし男が犯罪を爲し易いと云ふ關係になるので、女は容易に悪い事をせぬものであるが併し一度悪い事をしたならば女は直り難い、それから男は小さい悪い事を餘計やるけれども女は大きい悪い事をやる、例へば毒殺とか何んとか爾う云ふ殺人事件などになると

男より女の犯罪の方が非常に多い、さう云ふ事は男女性質を異にして居ることに因て違つて来るのです、個人的原因と云ふのは爾う云ふ事です。

次にもう一つは體質が違ひ體力が違つて居る、それだから犯罪の種類が違ふ、體力と云ふのは男は強盜をやるが女で強盜をやる者は滅多に無い、若し男と女と協同して強盜をやれば女は見張つて居る、さうして内で男が刀を抜いて脅したり腕力に訴へる、さう云ふ風に専門々々でやつて居ります、斯の如く體力に因て犯罪が違つて来る、さう云ふ事が矢張り不良行爲にもあるので男女體力の違ふことに因て不良行爲の現象が違つて来る。

それから又年齢に依て犯罪の種類が違つて来ます、一體犯罪と云ふものは十四五才から三十才までが一番多い、百分比例で十三才から三十才までが五十人位あります、それから四十才になつて来ると犯罪數がズツと減る、それから五十才になると又減る、六十才になると又減る、七十才八十才で監獄に這入る者は絶無とは言はぬけれども年齢が長けて来ると犯罪が減つて来る、又極く幼少の時には犯罪はやらぬが七八才乃至十四五才から三十才位までは犯罪をやる盛りなんです、そこで年齢の相違に因て犯罪が違つて来るさうすると犯罪の原因は個人の内にあると云ふことになつて来るので、それを個人的原因と監獄學者が言ふのです。

第三は社會的原因と云ふので犯罪とか不良な行爲をすることは社會的原因が多いのでせう、此の社會的原因に就きまして之を二つに分けたいと思ふ、一は家庭内の原因、一は家庭外の原因と斯う分けまします、犯罪でも不良行爲でも今は主として不良行爲の方を言ひますが、感化院を建るよりは良い家庭を造る方が宜い、良い家庭を造りさへすれば感化院などは要らぬ、良い家庭を造らずして感化院を幾ら建てても決して不良少年は減るものでない、皆家庭から製造して往く、家庭は善人の製造場處又悪人の製造場處である、況や悪人の卵たる不良少年を製造する處は家庭が多い、是は此處には教育家宗教家諸君が居られますから少し綿密に話をしてみたいと思ふ、此の物質文明の進歩する趨勢から考へて見ますと良い家庭が段々減ると云ふ社會的の現象が此に在る、是は英吉利でも亞米利加でも日本でも良い家庭が段々減ると云ふ傾がある、物質文明の進歩に伴れて良い家庭が段々減つて往くから幾ら學校で教育をしても私は効力の薄いことであらうと思ふ、家庭と學校との連絡の必要は何から来るかと云ふと、子供を善くするには家庭と學校と連絡を取らなければならぬと云ふので諸君が力を盡してやりになつて居るのでせう、凡そ人間を教育する處が三つある、一つは家庭―是は十五六才乃至十七八才まで居る處です、それから小さくても義務教育を受けて居る者は小學校に往く、家庭に居つても義務教育以上の教育をする處もあります、先づ多くは小學校に往く、それから家庭を出て學校を出て社會で働くから社會と云ふものも亦人間の仕上げに大變關係が有る、即ち人間を造るには社會と家庭と學校と此の三つで人間を造つて往く、其の中未成年者を善人にする勢力を有つて居るものが家庭です、私共が今日力を極めて言はんとする所の學校は多く智慧を授ける、人間を善くする徳義を授けぬと云ふことではないけれども今日の學校は大體に於て智慧を授ける、人物を造ると云ふことが目的になつて居らぬ、そこで私の思ふにはどうしても家庭と云ふもので七八分通り徳義的の人間を造つて置かなければならぬ、學校では學問を授けると共に二三分の徳義的の人間を造つて往く、家庭で十分やらないで、月謝だけ納めて家庭でやる事も共にやつて呉れと云ふそんな便宜法は

出来ぬ、徳義の問題は多く家庭でやらなければならぬ、ところが家庭が善くないから子供が悪くなる、そこで幾ら家庭學校を建てても家庭でドン／＼悪い者を製造して往くから駄目です。

そこで我國の昔の家庭と今日の家庭と較べて見ますと、子供を善くすると云ふ力は今日の家庭が權威を失して居ると思ふ、其の原因を少し言つて見たいと思ひますが、第一宗教の感化力と云ふものが家庭に無くなつて居る、徳川時代と今と較べて見ると宗教と云ふ力が今の家庭に無くなつて居ります、私自身の實例を申しますれば私の家庭は丁度中等程度の家庭ですが、私共が十二才まで家庭でどう云ふ事をして居つたかと云ふと、寺小屋へ往くとか學校へ往くとかと云ふことは別として家庭で私の務であつたのは、神棚にお燈明を上げてさうして柏手を打て引下るのが私の務であつた、神棚と云ふものは今日は有る處と無い處とありますが昔は何處の家でも到る處に有つた、それから最後に佛壇に復たに燈明を上げ線香を上げ鐘を鳴らしてお辭儀をして下るのが私の務でありました、今日我國の家庭で十才前後の子供に爾う云ふ事をさせて居る家庭がどの位あるか、斯う云ふ教育を受けた結果、御飯を食ふ時にそんな物は嫌ひだとか魚が無くちや飯は食はぬとか云ふと、親がどう言つたかと云ふに、罰が當ると斯う言つて吐つた、此の罰當りと云ふことは是は宗教的の言葉です、神佛の罰が當る、それが神棚にお燈明を上げたり佛壇にお燈明を上げたりして禮拜する觀念と罰當りと云ふ言葉と前後照應して居るので、罰當りと云ふことは非常に悪い事だと思つて居つた、それから又子供等が飯を食ふ時分に飯粒を零す、さうすると拾つて食べ勿體ないことをするなと云ふ、此の勿體ないと云ふ言葉が神棚へお燈明を上げたり佛壇へ往つて禮拜する事と前後照應して居る、それだから子供が遊々拾つて食ふ、今さう云ふ教育を日本の家庭でどの位致して居るでせう

それから又私は子供の時分に非常な悪戯者であつた、不良少年と名が付いてあつたかどうか知りませぬが随分悪戯者でなか／＼喧嘩をやつた、士族の子供と喧嘩する隣近所の子供と喧嘩すると云ふ風で實に持餘しものであつた、或時などは麥を引抜くと麥の株から蚯蚓が出て来る、それが面白いから他人の畑へ往つて約一畝程麥を引抜いた、それが到頭問題になつてお同心に引渡すと言ふ、お同心は朱い房の附いた十手を持つて居る、あれ程怖いものはなかつた、父親が私の襟首を捉へて佛壇に往つて先祖に對して言譯があるかと言つてコツ／＼やられた、斯う云ふやうな家庭が今どの位あるでせう、斯う云ふやうな風で昔の家庭に於ては神佛と云ふ觀念を非常に注込んだ、神と云ふものは理論上どう云ふものであるか、佛は哲學上どう云ふものであるか知りませぬが、神佛は敬ふべきものと云ふ觀念は確かに今日本の家庭では脱けてしまつて居ります、それだから宗教的の感化力と云ふものが家庭の内に於て非常に薄い、時々教會へ往つたり寺院に往つたり神社へ往つたりしても、一日温めて十日冷すと云ふ斯う云ふやり方では逆も駄目です、それだから私は宗教的觀念を家庭の内注込まなければ駄目だと言ふ、人が見て居れば悪い事を見ないが見て居らなければどんな悪い事をして宜いと云ふ考は詰り宗教的觀念の缺乏から起るのです、確かに今日の日本の家庭では宗教的觀念が薄くなつて居るが、それが不良少年を造り出す原因になつて居るか居らぬかと云ふことです。

それから第二番目は親の智識が子供に劣つて居る、子供の方が智恵が有り學問が有る、それが治まらぬ原因です、昔は親も無學、子供も無學で相互ひであつたから親が物を知らぬからと言つて子供が別にどうと云ふことは無かつたが、今日は學校から歸つ來て復習をする、さうして解らぬ所があると阿母さんの所

へ問ひに来る、阿母さんが知らぬ解らぬと云ふことになつて来ると、それが子供を統率して往く上に非常な弊害になるのです、私の家内が子供の教育に就て大變注意して學校へ往つて成績を調べたり夜復習せよと云ふ、復習せよと言ふならば一遍能く本を見て置けば用意があつたが、一遍子供に尋ねられた時分に塞つたことがある、そうするともう其の翌日は駄目です、阿母さんは知らぬから駄目だと言ふのもう言ふことを聴かぬ、子供が親と云ふものは何んでも識つて居ると思つて居る、ところが一遍解らぬと言ふと其の斟酌が無いから何を問うても解らぬと云ふ考を起す、今日中學校の三年四年五年位になると中々むづかしいから解らぬ所は親の所へ持つて来る、英語はどうだ地理はどうだ漢文はどうだと言ふ、悉く今の親は知らぬ、そうすると家の親父は物を識らぬと云ふことになる、それだから口には言はないけれども家の父親は無學者だ詰らぬと腹の中で思つて居る、詰らぬ者の言ふことは聴きはしない、教育を奨励する結果親が馬鹿に見ゆるやうになつた、是は子供の智恵と親の知識とが平均を失した結果です、それで今日の日本の家庭に於ては第一宗教的家庭力が足らぬ、第二に知識が違つて居る爲めに親の命令權が行はれないと云ふことになるのです。

第三は經濟上の問題です、經濟上の問題と云ふのはどう云ふ事であるかと云ふと、昔は生存競争も劇しくない、商工業の發達も鈍かつたからどんな事をして食へて居つた、ところが今日は食ふことがなかく困難だ、二三十圓の月給を取つて居る人は子供が五六人も有ると生活上困難です、今日我國の人口が年々七十七万人づゝ殖ねると云ふ、千人に付て十四人殖ねると云ふ割合になつて居るさうです、七十七万人づゝ殖ねると云ふことは有難いことだけれども、殖ねた人間に食はせるだけの用意が出来て殖ねるのは宜いけれども中々さうはいかない、今日中以下の者は娘も工場に往く息子等も稼ぎに出ると云ふ有様で、工場に往つた娘から月々三圓なり五圓なり送る、息子等は又各自一日の稼ぎ高に應じて十錢なり八錢なり出す、さうして親の収入を足して生計を立て、居るのです、中以下の者は夫婦共稼ではない子供と親夫婦共稼で家計の一部を子供に助けて貰つて居るから、どうも親の權利と云ふ譯にいかない、却て子供の方が私は十錢出して居る私は八錢出して居ると云ふので權利が有る、何か失錯をする、それを叱ると云ふことになる、親に叱られるのは有難いと思ふのが當然だけれども爾うは思はない、私等に稼がせた上に親が叱ると云ふはことはないと言ふ、阿父さん私は活動寫眞に往く、天麩羅を食ふ牛肉を食ふ貴様はよく金を使ふ、私が働いて私がお金を使ふ大きにお世話だと云ふやうな譯で親が小言を言ふ譯にいかぬ、昔は生存競争が劇しくなかつたから親が子供を養つた、言ふ事を聴かないと食はせて置くのに言ふ事を聴かぬと云ふことがあるかと一言で參つてしまふ、今日は稼がせて置いて叱ると親は酷いものだと言ふ、どうしても親を侮る機會を與へる、世の中の生活が段々困難になつて来ると爾う云ふ傾向が増して来る、是が不良少年の出来る第三の原因です。

それから次に富の悪用と誤用から不良少年が出来る、不良少年と云ふものが中以下及び下層社會の者ばかりかと云ふと爾うではない、東京邊では上流社會に却て多い、金持の階級に何うも斯うもならぬ不良少年不良青年が多い、それは何故であるかと云ふと、東京と地方とは事情も違ひませうが、東京の金持の家庭にはお客を招く際などに藝人が這入込む、相撲取が這入つて来る或は役者が這入つて来るそれから藝者が這入つて来る、富の用途を誤つて金の有るに任せて爾う云ふ詰らぬ事に金を使ふ、爾う云ふ事が自分の

子供を知らず識らずの間に悪くするのは、それから妾を置く或は妾宅を構へるとか厭な事が随分ある、それで藝者に出来た子供、妾に出来た子供、女中に出来た子供にして不良少年になつた者はなかく直らぬ、普通の不良少年よりも餘程性質が悪い、又多く不良少年に傾き易い、爾う云ふ事は西洋の感化學や何かの書物に書いてはありませぬが私の實驗に依れば爾うです、親がそれ程甚だしい事をせぬでも贅澤な事をやり華奢な事をして見せると子供が自然それを見倣ふ、是は親が金を悪用する又誤つて金を用ゐる所から起るので、金の使ひ方の解らぬ者が子供をして不良にならしむるのです、日本はまだ世界の各國に比べると貧乏だけれども十年前二十年前に較べれば金が出来た、さうして金持の階級が殖れた、ところが金持が金の使ひ方が解らぬから贅澤な或は風俗を紊すやうな行ひをするのです、是が中以上の家庭に不良少年が多く出来る原因です、それだから不良少年は決して下層社會ばかりでない、下層社會にも在るし中流社會にも在るし上流社會にも在ると云ふことを考へなければならぬ、其の上流社會の不良少年は金力や權威で隠してあるから警察などではなかく判らぬのです。

其の次の原因は士道の頹廢と云ふ事です、師弟の關係が昔より緩んで居る、是が爲めに先生の言ふ事を聴かぬ子供が多く出来る、私共の幼少の時には斯う云ふ事を訓へられたものです、三尺離れて師の影を踏まざ——先生と一緒に歩く時分に先生が先に立つて歩き弟子が後から歩くに極つて居る、さうすると影法師が映つて来る、其の影法師を踏まぬやうに歩かなければならぬ、師の影を土足で踏むのは失禮である、私共斯んな暑い時分に漢學先生の處へ往つて屢々講義を聴いた、決して扇などは使つたことがない、汗がだら／＼出ても決して扇は使はれない、況や眠るなどは甚だ不都合だ、眠つた時分にはお前残れと言ふ、殘

ると其處へ立つて居れと言ふ、私も或時斯う云ふ目に遭つたことがある、悪童であつたのですな、机を持たせて其の上に重を置いて斯う云ふ風にして二時間程立たされて到頭足が凍んでしまつて倒れたことがあります、それ位厳しくやつたものです、ところが今はどうです、三尺離れて師の影を踏まぬ所ではない、學校を出ると君ちや僕ちやと言つて居る、陰では呼流して居る、横山だとか留岡だとか言つて居る、昔は先生が生徒を逐出したものだが今は生徒が先生を逐出して居る、同盟罷校だとか同盟休校だとか言つて弟子が先生を逐出すと云ふ世の中です、士道の頹廢と云ふことは實に非常なものであります、そこで弟子が先生の言ふ事を聴かぬ、中學校ばかりではない高等女學校でも同盟罷校をやつて居る、極く軟い女生が先生が氣に入らぬと言つて男子の方の熱が感染して來て同盟罷校的の行動を執つた高等女學校が日本全國で二箇所あることを私は知つて居る、昔は爾う云ふ事は夢にも見ることが出来なかつた、何故昔は師弟の間が親密であつたかと云ふと是は種々原因がありますが、其の中の一つとして算ふべき事は、昔は先生と云ふ者が月給制度ではなかつた、昔は束修以上を納める者にあらざれば納めなかつたものです、束修は何程か持つて往つた、けれども先生は漢學先生であつて藩主から祿を頂戴して居るから私共が月謝を持つて往かぬでも食へた、それだから吾々に月謝を取らずに只だ教へて呉れた、只で善い事を教へて貰つて居るから言ふ事を聴く、それから又徳が非常に高かつたやうに思ふ、今日は月給制度になつて先生には學校から給料を拂ふ、學校は生徒から月謝と云ふものを取る、ナーニ俺は月謝を拂つて居る、物の賣買で俺は金を拂つて居る厳しいことを言はなくても宜い、斯う云ふやうに教育が賣買關係になつて來て居る、賣買關係ではないけれども生徒が爾う云ふ風を取る、又中には東京邊の大學の先生達が學問の切賣をする、鮪や鯛



の切實をするやうに學問の切實をして居る、さう云ふ風になつて來て弟子も悪いが先生も善くないと思ふそれで士道の頹廢と云ふことが即ち少年青年をして昔の如く言ふ事を聽かせることが出來ない、是は東修を取ることが宜い月給制度が悪いと言ふのではありませんが、大體に於て弟子の先生に對する態度が悪いさう云ふ所から先づ直して往かなければ教育と云ふものは行はれないものであると考へます、昔と今とを較べて見れば今日は士道と云ふものが大變衰へて來て居る、弟子の先生に對する態度と云ふものが昔から見ると今日は甚だ宜しくない、それが則ち此の少年青年が云ふ事を聽かない一つの原因、此等の者が竟に不良少年不良青年の仲間に入ると、まだ色々ありますが鐘が鳴りましたから復た十分間休憩致します。

## 第三回

それから其の次の原因は教育制度です、どうも教育制度は小學校からズツと大學まで改良する時期が來たのではないかと思ふのです、そこで高等教育會議などに於ては教育制度などに就てどう云ふ風に改良したら宜いか、中學校などの教育制度の改良等に就てチヨイ／＼論があるやうであります、教育制度と云ふものは今日は改良しなくてはならぬと思ふ、それで特に中學校に不良少年不良青年が多い、それは其の筈だらうと思ふのです、五百名も六百名も居るのだから校長が生徒の顔だけを覺ゆるのが困難です、少くとも校長は生徒の性行なり其の他色々な事が解つて居られなければならぬが、途中で逢うて顔を見ても是が我々の生徒であるかどうか判らぬ、況や名前が覺わられない、先生も受持々々の先生は判つて居りませうが一人の先生が縦し名前が判つて居つても此の者はどう云ふものだと云ふ教育上参考にすべき事が判らぬ、それから中學校の寄宿舎などは是もなか／＼問題でありまして、舎監などが非常に心配して私の處な

どへ熱心な人は調に來ることが往々ありますが、何たか頻に中學校に當るやうでありますけれども、學校制度の中で中學校などから不良少年不良青年が多く出來るから私は云ふのですが、私の考では女ならば十七八歳まで男の子ならば十五六までは両親の監督の下に置いた方が宜いと思ひます、詰り家庭から通はせられた方が宜いと思ふ、勿論高等女學校でも中學校でも農村であつて交通が不便で家庭から通はせることの出來ない場合に於ては寄宿舎に置くも宜いけれども、都會に於ては両親の目の届く處に置くが宜いと思ふ、そこで中學校或は高等女學校の寄宿舎になりますと家庭生活とは大變に違ふのです。

今日の中學以上の教育は智識とか爾う云ふ方面の事は十分立つて居りますけれども、感情教育と云ふものは殆ど無い、智識の方だけを獎勵しても感情の方を良く耕して往かぬと徳義の人間が出來て來ませぬ、そこで中學校などの生徒には感情教育情操の教育が足らぬ、殊に寄宿舎などは爾うでありまして私の觀た中學校の寄宿舎制度の中で最も此の點に注意して居るのは、兵庫縣の豊岡町の縣立中學校の寄宿舎ですが其處では寮母制度と云ふものを拵へて居ります、さう云ふ組織で四十歳位な學問も有り親切な而も權威有る婦人が寄宿舎の阿母さんとなつて、さうして病氣になれば看護もしてやるし或は着物も汚いものを著て居ると洗濯までしてやると云ふ風で、寮母制度と名けて所謂家族制度を行つて居ります、それは何かと云ふと情操と云ふ分子が足らぬから情操を育て、往くと云ふことになつて居ります、もう少し情愛を涵養する所の教育制度、教育の方法が付かないと不良少年不良青年は情が足らぬ、皆木で鼻を括つたやうな人間が出來る、況やズツと其の上の教育になつて來ますと師弟の情誼だの徳義の問題などは教へないで智恵ばかり教ふる。

そこで想ふに中學校高等女學校程度の年齢が一番危険でありまして、諸君は屢々新聞で御覽になるでせうが、去年でありましたか本年の何月でありましたか岡山中學に黒手組（英語で云ふブラックハンド）と稱する組があつて婦女を襲撃するとか或は同中學校の生徒に金錢を強請るとか、中には殺すとか云ふ事がありました、東京邊にて白狐隊とか其の他種々の名稱を付けて、不良少年不良青年が五人八人多い時には三十人も隊を組んで不良の行爲をやつて居ります、さう云ふ者は中學校の同年齡のやうな少年青年が悪い事をするので其の數が頗る多い、一番中學校の生徒には困るのです、それで今日の教育制度は何か中學校以下の教育制度殊に中學校程度の教育制度を改良して往きませぬと、あの時期が一番むづかしい時なんです、是は今度高島平三郎君が來られませぬから兒童心理の話がなかつたか知りませぬが、教育學者は生れてから満二十歳までを三期に分ける、第一期は生れてから十三歳まで、第二期は十四歳から十六歳まで、第三期は十六歳から満二十歳まで、ところが一番むづかしい時期は何かと云ふと十四歳位から十七八歳までとす、それを教育學者が危険時期と名ける、男も女も此の時期は身體も精神も變化し易い時ですから取扱方が悪いと悪く變化する、私は自分の實驗上から十六、十七、十八、十九此の四箇年を人生の瀬戸と名けて居ります、瀬戸と云ふのは船の漕ぎ様一つで顛覆する、此の船を操縦する人間が十六、十七、十八、十九と云ふ年齢に當るので、此の時期に於て教育家も両親も細心の注意を要するのです、醫者の言葉で云ふと此の時期は春機發動期と云ふので身體も非常に變化する、身長も伸びるし聲も變つて來るし非常な變化が起りますから、此の時期に於て取扱が悪いと所謂不良少年不良少女になつてしまふのです、此の時期が丁度中學校高等女學校の時期でありますから、此の時期の少年及び少女の取扱方が最も大切であります

此處で私は斯う云ふ統計を出して見たいと思ひます、毎年小學校を卒業して義務教育を了る者が八十七万人ある、其の中で高等小學校へ往く者が三十万人、それから農業商工業各種の實業補習學校に入る者が十九万人それから中學校及び高等女學校則ち中學程度の學校に入る者が十万人、總計五十九万人と云ふものは是だけの學校へ這入つて處分が付く、ところが義務教育を了る者が八十七万人ですから茲に二十八万人何れの學校へも往かぬものがある、是が毎年どうなつて居るかと云ふことです、尤も此の二十八万人中には丁稚に往く者もあり親に就て農業を見習ふ者もありませうが、大體に於て二十八万人處分が付いて居りませぬ、此等の者は只遊んで居ると云ふことになる、只遊んで居ると云ふ事から不良行爲を現すことになるのです、それから日本全國から考へて見ますと満十三才から満二十才の男女が約五百五十万人ある、此の五百五十万の未丁年者と云ふか幼年者と云ふか其の大多數は決して監督上安全の位置に置かれてあるものではなう。

そこで問題は感化院を建てることも大切であります、此の小學校を卒業して處分の付かぬ二十八万人の幼年者の爲めにモツと實業補習學校を澤山建て、さうして之に物を教ふると云ふことでないといかぬ感化院を建てるよりも其の方が實は大切なんです、それから五百五十万の人間の或者は商工業をやつて居るとしても大體に於て處分が付いて居らぬから、之に對して如何なる教育の設備をして宜いかと云ふことが大問題であらうと思ふ、何んでも遊ばせると云ふことがいかない、此の小學校を出た者の中二十八万人と云ふものが大體に於て何處へも往つて居らぬと斯う見れば、此等の者は親の脛を噛つて一定の仕事が無くしてブラ／＼遊んで居るものと看做さなければならぬ、活動寫眞に這入つたり安芝居を見に往つたり買

喰をしたり夜遊びをしたりする人間が、どう云ふ處から出て來るか云ふと今の二十八万人の中から出て來る、さう云ふ處に國家も個人も目を著けずして不良少年が出來たから直ぐ感化院を建ると云ふことは本を防がずして末を禦ぐのだから、建てぬよりも宜いけれどもモツと根本に向つて施設經營をしなければならぬと思ひます、子供を遊ばして置くのが一番悪い、例へば小學校に往つて居る多數の子供の夏休をどうするかと云ふことは、是は教育上又は社會問題上大なる問題であると思ふ、唯だ此の夏一箇月餘の休を如何にするかと云ふ事が教育上社會上の大問題であるとすれば二十八万人の人間が小學校を卒業して學校へも往かず只だブラ／＼して居る者に對して之を如何にするかと云ふ事に就ては是は尙更大問題であらうと思ふ。

そこで御地方にもありませうが東京では斯う云ふ事をして居ります、小學校の夏休の期間に於て私の家庭學校では林間學校と云ふのを始めまして、隣近所の小學校の生徒を集めて朝三時間授業をする、家庭學校は色々な樹木が澤山ありまして丸で構内は木の蔭になつて居りますから其の下に長椅子を三十脚ばかり置きまして地理歴史理科、唱歌軍歌讚美歌是だけの課目を授けます、それから教師が交々教育講談として面白い話をして聞かせる、其の後で家庭學校は三千六百坪の教育上の設備がしてありますから自由にしまして鞦韆、遊動圓木其の他色々な運動遊戯をやらせて居ります、鑑札を拵へてやりまして其の鑑札を腰に下げて居る者は自由に家庭學校に往くことが出來ると云ふことにしてありますので、隣近所の子供が大勢來て遊んで居ります、是は家庭學校ばかりではありません、矢張り夏休の一定の期間、小學校の生徒を集めて家庭學校と大同小異の事をして世話をして居る處が他にもあります、西洋各國に於ては（是は生江囃

託からお話があつたらうと思ひますが）殊に中以下の貧民の子供を小學校の夏休の間はどう云ふ風にするかと云ふ事が問題になつて、或は海岸へ暑を避けるとか或は山の中に天幕を張るとか、其處に多くは貧民の子供を伴れて居つて簡易な教育を授けると云ふ事を致して居ります、夏休の期間に於てさへ子供を遊ばせて置くのが悪いと言つて爾う云ふ設備をして居るのに、小學校を卒業して徴兵適齡になるまで之に對する何等の設備の無いと云ふのは、感化問題よりも更に大きい問題でありはしませぬか、そこで西洋各國に於てはソシアルゼイション、オブ、ゼ、スクールと云ふのが流行つて居ります、是はどう云ふ事であるかと云ふと學校を教育ばかりでなくして社會的にする、それはどう云ふ譯であるかと云ふと、例へば學校を八時なら八時間使つて其の放課後只だ遊ばして置くのはいかぬぢやないか、高價な建物を建て、教育に澤山の金を投じて置きながら放課後は運動場も空虚になつて居るし校舍も伽藍堂だ、夏休の期間は勿論た、であるから授業の了つた後若くは使はない時には之を社會的の意味に於て青年なり少年少女の爲めに使はにやいかぬ、則ち運動場を開放するとか夜學校を開くとか其の他種々の方法に依て小學校の建物を無益に費さぬやうにしたいと云ふので、放課後は社會の兒童の爲めに使ふとか或は父兄の爲めに父兄會を起すとか云ふ風に、ソシアルゼイション、オブ、ゼ、スクールと云ふ事が非常に盛に行はれて居ります。

そこで感化事業を盛に研究する必要がありますけれども、感化院には爾う云ふ遊ばして置く兒童が來易いと云ふことであれば、夏休に先生の講習をするばかりでなくして、大學校中學校其の他小學校の諸先生方が此の夏休に學校を利用して社會的教育を尙は一層施すと云ふことに御盡力下さつたならば、感化院を建てるよりもモツと有効な仕事が出来はしないか、又父兄なら父兄にしても夏休の有る方は唯だ其の期間

を娛樂のみに使はずして、娛樂を兼て子供の教育の爲めに使ふと云ふことにしたならば宜くないか、例へば伊勢の大廟に伴れて往く、さうすれば勤王の思想、敬神の念を篤うすると同時に汽車に乗つたり宿屋に泊つたりすれば娛樂にもなります、教育的であり娛樂的でもあります、娛樂と云つては語弊がありますが兎に角樂みがなくては教育の中に趣味がありませんから、父兄も只だ休むと云ふ事ばかりに使はずに子供と一緒に利用すると云ふ風に使ひ、學校の諸先生も其處に目を著けてやると云ふことになれば、感化院を建てるよりもモツと優つた効果が有ると思ひます、勿論感化事業も忽せにすべきことではありませぬが、斯くすれば不良少年の出来ることが非常に尠くなりはせぬかと思ひます、斯う云ふ風に考へて見ますと感化院の制度の外に不良少年を造らぬやうにする方法が、世の中に澤山あるではないかと斯う考へるのであります。

そこで此の不良少年不良青年の問題になりますと、例へば小學校を卒業して學校に往かぬ者が二十八万人ある、此等の者は往き處が無いから此の往き處を拵へてやらなければならぬ、それから中學校及び中學校の學校を卒業した後はどうかと云ふことは亦困つた問題であります、中學校の卒業生は中途半端でありますから中學校を卒業しても月給を取る譯にいかぬ、中學校を卒業して更に高等學校大學校に往く所の者は實に少數なものであります、大多數の者は學校へも往けないし月給も取れぬから只だ遊んで居る、それが爲めに又不良少年になる者が澤山あります、是亦不良少年不良青年減少の問題と共に大に考へなければならぬ問題であります、之を要するに不良少年不良青年の出来る原因と致しましては家庭の問題又教育制度の問題、士道頹廢の問題、斯う云ふ問題が直接不良少年不良青年を造るに大變關係が有るだらうと思ひます。

それから家庭内の方でも少しお話を申し上げますと、自分等が取扱ひました所の不良少年不良少女、所謂我儘息子我儘娘となるのは親の愛情が適度に子供の上に及ばぬ、之を解り易く云へば詰り愛の過不及が不良少年不良少女を造ると云ふことになるのです、子供を育てるも植物を育てるも同じことでもあります、例へば植物穀類を造るには太陽の熱が無くては出来ないでせう、併し今年の夏のやうに斯うどうも雨が降らずしてドン／＼照つて居りましては何も彼も枯れてしまつて居る、熱が無くては植物は育たぬのであります、熱が有り過ぎると旱魃で枯れてしまふ、植物を育てるのも子供を育てるのも同じことです、そこでどう云ふ所から多く不良少年不良少女が出来るかと云ふと、両親の愛情が餘り多過ぎるのはいかぬ、一口に言へば可愛がり過ぎると云ふ事實があります、それが爲めに我儘になる、それからお祖父さんお祖母さんが干渉して育つた子供はいけません、若夫婦が教育して居るとお祖父さんお祖母さんが出て来て、お前方はそんな教育をしてはいかぬ此方へ来いと言つてお饅頭を遣るとかお菓子遣るとかする、それから親が叱つて子供が悪いと得心して居るとお前が悪いことはない阿父さん阿母さんが悪いと言つて子供を煽り上げる、斯う云ふ事が不良少年不良少女を造る原因になるのです、熱が無いと植物は育たないが熱が有り過ぎると枯れてしまふ、それだから餘り可愛過ぎると云ふことはいけません、それから今度は熱の足らぬ方です、自分の本統の子でも両親及び關係の人が冷情で情の足らぬ人がある、殊に阿母さんが違つて居りますと、何も一概に繼母が悪いと云ふことでもありません、殊に阿母さんが違つて居りますと、其處が苦心の存する所です、又多くは繼母は情の足らぬ所がある、是も亦本統の阿母さんのやうにやれと言ふ

のは無理だと思ひます、そこで本統の阿父さん阿母さんでも情愛の薄い人、又両親の中何れか違つて居つて自然に情愛が薄いときに熱が足らずして子供が僻み親が僻み兩方僻むと云ふことになる、そこで其の邊はなかく苦心の存する所でありますが、兎に角熱の多い方もいかにぬし足らぬ方もいかにぬ、恰も適度の熱が植物の上に加らないと實らぬと同様に親の適度の愛情が必要であります、其の愛情が多過ぎたら熱けてしまふし足らなかつたならば冷けてしまふから成長が出来ない、斯う云ふ譯で熱の過不及愛情の過不及に因て不良の少年少女を造ることがあります、それから又自分の子供でも成績の良い子供もあるし悪い子供もある、成績の良い方には親が何んでも買つてやるが、成績の悪い言ふ事を聴かぬ子供には買つて呉れと言つても買つてやらぬ、斯う云ふ偏頗な事をしてはいけない、偏頗と云つては語弊があるか知れませぬが、兄弟を扱ふのに適當に扱はないと一方は僻んでしまふ、それが又無暗に買つてやつてはいかぬし、買つてやらなければ僻むと云ふことになつて来るから實はむづかしいが、兎に角子供の取扱が平均を得ないと不良の少年少女が出来る。

それから不良少年不良青年と云ふものは、決して中以下の者ばかりでない上流の方にもあると云ふ一の證據は、非常に是は参考にせにやならぬ事ですが、他人を家庭の内に無茶苦茶に入れると云ふことは問題です、日本のやうな家族制度では親も甥も祖父も祖母も來いと云ふので兎角親族が寄つて來る風がありますが、親族でも餘り懸け離れた者を家庭の内に入れるのは不和の基です、況や書生とか何んとか云ふ關係の無い人間を家庭に入れるのはいけません、人を世話すると云ふことは宜いけれども無暗に家庭の内に入れるのはいけない、書生の悪い者が來て其の家のお嬢さんや坊ちゃんを悪くした例が澤山あります、書

生を入れるなら餘程吟味して良い書生を置かなくてはなりません、書生の爲めに家庭を紊亂させることは東京邊に於ては夥しい、獨り其の家が迷惑するのみならず息子や娘を不良にする、それから又是は一般ではありませんが馬丁とか自働車の運轉手とか、それから女中にしても五人も六人も居る處があります、そこで女中の撰擇、馭者運轉手の撰擇が必要であります、時に或は家内中留守にすることがある、さうすると息子さんなども女中部屋に往つたり馭者部屋に往つたり或は運轉手部屋に往つたりして、悪化されて不良少年になることがあります、女中の給料などは問題でない、女中の爲めに不良少年になつた者を大分私は取扱つて居ります。

それから次は職業の問題であります、両親の知合の人で善い人ばかり家庭に來れば宜うございますが爾うはいかない悪い人も來る、私の學校へ來た子供の中で到頭本統に教育しきれなかつた者があります、其の子供の阿父さんは鑛山師で本統に自分が鑛山を持つて居るのではない、山を賣つたり買つたりする所謂山師ですな、其の阿父さんの友達が來て始終大きな金儲けの話をしたり大きな法螺話をやつて居る、それを其の子供が陰で聞いて居た、其の爲めに遂に不良少年になつてしまつて私の學校へ參りましたが、到頭自分は彼を能う感化し得なかつた、それがどう云ふ所から不良少年になつたかと云ふと、一つの原因は阿父さんの友達の大張り山師が始終來て法螺話をして居るのを陰で聞いて居た、私は子供と云ふものは露探とか獨探とか探偵みたやうなものだと思ふ、何を聞いて居るか判らぬ、子供の事だから差支あるまいなと思つてやつて居ると、易ぞ料らん親の行動をちゃんと探偵して弱點を握つて居ります、阿父さんも斯うだ阿母さんも斯うだと言ふ、何時覺けたらうかと云ふと親が不注意に話したり行ふたりして居るの見聞

して居るのです、さう云ふ風だから今申上げます子供が山師の家へ山師が這入つて来て話すのを聞いて到頭山師的の不良少年になつてしまつて大きな事ばかり言つて居る、一體蒸汽船で亞米利加へ往くなどと云ふのは馬鹿なことだ、俺は水上自轉車を拵へて亞米利加へ往くと云ふ、さうして二箇月も掛つて自分が水上自轉車を發明した、成程器用なものでありまして水の上を駛る自轉車のやうなものが何うか斯うか出来た、さうして亞米利加へ往くかと云ふと亞米利加へ往く時の辨當が算用の中に入れてない、さう云ふ突飛な事を考へた、私の家庭學校の生徒が彼を呼んで恩人々々と言ふ、と言ふのは彼が生徒に始終金を遣つたり物を買つて遣つたりするからであります、それで學校の先生の言ふ事はなか／＼聽かないが恩人の言ふ事は能く聽く、一方に彼は千疊敷と云ふ名前が付いて居る、どう云ふ譯かと云ふと始終法螺ばかり吹いて居る、校長が何か言ふと俺の家は非常な立派な大きな家で門構ひは斯うで女中も澤山居るし疊敷が千疊敷も敷ける、何か言ふと俺の家は千疊敷から疊敷敷けると云ふので皆彼を千疊敷／＼と呼ぶ、斯う云ふ次第で親の職業が子供を不良にならしむる原因になることがあります、私の學校へ来て居る子供の中には、親が待合をして居る料理屋をして居る或は役者であつたと云ふやうなものが澤山あります、論理の結果親が爾う云ふ職業をして居れば子供が不良ならざるを得ない、斯う云ふやうな事が家庭の内部に於て種々な原因を成して不良な者になるのであります、私が今社會的原因と云ふことを申上げましたが、社會的原因の中では家庭と云ふものが子供を善くすることにも悪くすることにも大なる關係を持つと云ふことであります、それで今日は時間が來ましたから是で措きまして、明日は初めの一時間に於て家庭以外の社會境遇と云ふものが如何なる不良な子供を造るか、又如何なる不良な行爲を爲すかと云ふ事を申上げ、後の二時間

に於てさう云ふ風にしたならば此の不良少年を直すことが出来るかと云ふ、實際問題に就て話したいと思ひます、

#### 第四回

昨日は社會的境遇の中で家庭の事を話しました、今日は家庭の外の社會即ち家庭以外の處で少年青年が不良になる原因はどう云ふやうな事であるかと云ふことをお話しします。

地方を歩きました特に感じますのは、先輩の感化力の後輩に及ばす力と云ふものは非常なものであると云ふことを感ずるのであります、是は善い方にも悪い方にも感ずる、例へば社會公益事業などに就て特に感じましたのは、品川彌二郎と云ふ有名な方が居られました、彼の方が政府の當局者であつて大臣たりし時或は大臣を罷められた後にも全國を行脚して歩かれて到る處に遺された事蹟が、今猶ほ政府の役人の中でも亦民間の多くの人々でも頭の内に印せられて居るやうであります、さうして能く額を書かれたり或は軸物を書かれた、其の家に往つて貴下は品川子爵とどう云ふ關係が有るかと訊くと、斯う／＼云ふ譯で自分は今斯くも仕事をやつて居るのは、品川子爵の感化力を享けた爲めであると云ふ話を聞きます、そこで官吏の方が地方を歩かれる時に於て良い型を遣して往かれるのと、悪いと言つては語弊がありませうが感化力の無いやうな事をして歩くのとは社會公共の事業の上に影響することが大變違ふ、今日全國に於て實業上に對して非常に盡力して居るやうな人に就て尋ねて見ますと、大抵品川子爵の感化力を受けて居るやうに思はれます、京都の故川島甚兵衛氏の如き或は現在公益の爲めに色々働いて居らるゝ金原明善氏の如き、何れも品川子爵の感化力を大分受けて居ります、さう云ふ例を擧ぐればまだ澤山あります、それか

ら悪い方の先輩が若し在るとしましたならば其の悪い先輩の感化も澤山あります、そこで私は家庭の外の少年青年を不良ならしむる原因としては、地方々々に於ける先輩が善い人でなく大酒を飲むとか放蕩に身を委ねるとかと云ふやうな風があると、矢張り少年青年がそれを真似る、そうして其の結果遂に不良少年不良青年の原因となつて往くのであります、斯う云ふ事は統計を以て挙げ得ないことでもありますけれども地方の先輩者が少年青年の上に感化力を有して居ることは偉大な力を有つて居ると考へる、是が一箇條であります。

それから少年青年が不良になつて来る原因は、其の人の居る境遇が不健全な處であれば多くは不良になる、例へば劇場の近傍であるとか、或は料理屋の近所であるとか、或は女郎屋の近傍であるとか、或は寄席の附近であるとか活動寫眞の附近であるとか、又は飲食店の近傍であるとか云ふやうな處に生育つた所の少年青年者は男女共に不良になつて居ります、それでありますから西洋各國の教育の制度に於て良く行届いた處になりますと、酒屋から何丁離れなければ小學校を建てることが出来ぬとか、女郎屋から何里離れなければ學校を置くことが出来ぬとか、或は監獄の近邊に學校は建てられぬとか、或は墓場の近傍に持つて往つて幼稚園を置かれぬとかと云ふ規定を、市なら市、町村なら町村に於てちやんと設けてあります、是は何から起つたかと云ふと、位置の境遇から起る刺撃が人の上に悪い感化を與へるが爲めである、諸君は御承知でありませう、長崎縣長崎の近傍にタスケと云ふ港があります、其處は非常に船の澤山集る處でありますして隨て水夫船頭みたやうな人が澤山居る、さう云ふ處には御承知の通り女郎屋が何處にも在る、其處の小學校を七八年前に視察に往きました時に校長が斯う言つて居りました、どうも斯う云ふ處では小

學の教育は出来ない、九つ位の娘に或時自分が質問をしてお前は大きくなつてどう云ふ者になるかと訊ねたら、私は家のお姉さんのやうになると言ふ、お姉さんは其處の女郎です、皆相當の年頃になると女郎に身を賣つて居る、斯う云ふ處で修身をやれ倫理を説けと言はれても私共には出来ない、此處の教育の困難はそれであると云ふことを小學校の校長が言はれたことがありましたが、是はさう云ふ方面を代表する所の一の好い例であると思ひます、そこで家庭が良くても家庭に近い其の人の住居して居る所の周圍の境遇と云ふものが悪かつたならば、どうも人間は境遇の力に制せられ易い、人は境遇の奴隷であると言ふ言葉があります、境遇は人を善くするし又悪くもする力を有つて居ります、都會に不良少年不良少女の多いのはどう云ふ譯かと云ふと爾う云ふ意味です、そればかりではありませぬが爾う云ふ意味が少年少女を悪化させるのでありますから、居所は撰ばなければなりません、何時の内務省の通牒でありましたか明治三十四年八月感化法實施前に内務大臣から地方長官に對して、感化院を建てる場所は成るべく靜謐の地に之を設け道徳上厭忌すべき場處及び感化に妨ありと認むる場所に建設することを避くるを可とする、爾う云ふ通牒が出て居ります、是も矢張り感化院を建てる場處は注意しなければならぬ、女郎屋の近傍であるとか、墓場の近邊に建てゝはいかぬと云ふ意味であります、で先づ少年青年は其處の居住地の場處の性質如何を能く考へて教育をしなければならぬと云ふ意味は是で十分解ることであらうと考へます、それから又例へば博徒の多い處或は女子であつて不正な業をして生活をして居る處が例を擧ぐれば全國に澤山あります、爾う云ふ處に子供が生れて又成長すると云ふことが不良な原因になつて来るのであります。

特に家庭の外の境遇としまして不良少年を多く出す處は何處であるかと云ふと都會です、農村町村と大

都會とを比較すれば大都會には不良少年が非常に多い、前にも申述べた通り警視廳の係の警部が三千人や四千人の不良少年を檢舉することが都市では難くないと言ふ、さう云ふ風に一體澤山の不良少年が都會に居るのはどう云ふ譯であるかと云へば、都會は不良少年を製造して居ると云つて宜からうと思ひます、近世文明の一つの特徴は都會が非常に發達すると云ふことです、是は我國のやうな農業國でありますと商工業がモツと盛にならなければなりませんから、農村の人が都會に出ると云ふことも或る程度までは決して憂ふべき事ではないけれども、今日全體の模様は、都會は良い處であつて農村は悪い處であると云ふ考から農村の人が都會に多く出る、是が都會が益々膨脹する大なる原因であります、都會と云ふものは都會其の物の生産から云ふと、都會の人は身體が弱いから隨て出産の力と云ふものが農村に比較すると少い、それでありますから都會其の者は農村から人間が流込まぬとすれば今日のやうに膨脹しないけれども近來は人間同じ住むなら都會に住みたいと云ふので農村の身體の強い人々が誰も都會に出て来る、そこで都人士は出産力が少いけれども農村から出て来る人の爲めに段々都會の出産力が多くなつて往く、元來農村の人が都會に住みたいと云ふのは何かと云ふと詰り虚榮心でせう、さうしてどう云ふ人間が多く都會に集つて来るかと云ふと、農村の中でも最も農村に必要な青年男女が都會に出て往く、老人が往くか子供が往くかと云ふと爾うではない、農村に於て最も必要なる青年男女が都會に流込んで往くのであります、さうして十中八九都會で墮落するので、此等の者が則ち不良少年不良青年になる、都會の少年青年も不良になりますけれども、此の農村から往つた者が亦生活の途に迷うて不良青年となり、不良少女の如き淫賣婦になると云ふ事が爾う云ふ所から来るのであります、そこで一番不良少年の多い處が都會と云ふことになるので、是に於て都會で少青年が不良者になつて往く原因をお話申し上げたいと思ふ。

第一は都會に住んで居る人は身體が弱い、殊に農村から出た所の青年男女は都會で健康を喪ふ、此の健康を喪ふと云ふことが不良になつて往く原因の一つであります、それは二つの關係から健康を喪ふた人間が不良になるのです、一つは身體の加減が悪いと精神状態が宜しくない氣分が悪い、そこで不良の考が起つて来る、不健全な考が頭に起つて来る、それからもう一つの問題は經濟的問題です、身體の弱い者は何處に往つても長く雇うて呉れない、例へば下女奉公に往つても丁稚奉公に往つても身體の弱い者は直に解僱される、解僱されれば生活に困つて来るからそこで不良な考が起つて来る、一は思想上の問題と一は生活上の問題とに因て、健康を喪ふた青年男女が則ち不良に傾く大なる原因を成すのであります、數年前内務省に於て細民調査を致しました、大阪市と東京市とに於て貧乏人の住んで居る町を長い間掛つて調査しました、さうして人間がどうして貧乏になるかと云ふ原因を調べたことがあります、其の結果は貧乏になる一つの原因は病氣に罹つた或は身體の弱いために何處に勤めに出ても永く務まらぬ、それが爲めに段々窮して来る失業者になると云ふ譯で、其の状態が永く續くと貧民になる、斯う云ふ風に考へて見ますと人間の健康と云ふことは實に貴いものである、そこで感化院の教育は先づ第一に身體から改良して往く、身體の強い人間を造らねばいかぬと云ふことになるのです、それは後に再々詳しく申し上げたいと思ひますが此の健康の喪失と云ふ事が遂に不良行爲を爲すに至る一の原因である。

それから第二番目は、此の物質文明の潮流と云ふものが社會學者の言ふやうな風に人間の階級を二つに分けてしまふ、則ち中流社會が段々減つて來まして上の方の金持と下の方の貧乏人とが段々殖ねると云ふ



傾向を生じて來た、英吉利人の譬に『砂糖樽で一番砂糖の美味いのが樽の真中に在る下の方はドロ／＼して密砂糖みたやうになつて居るし上の方はカラ／＼して居る』斯う云ふ言葉がありますが如何にも其の通りで、人間社會で一番良い人間が何處に居るか云ふと中流社會に居る、人の世話にもならず又人をも餘り世話しない中流社會の人間が多うければ社會は健全だと云ふ社會學者の鑑定です、ところが物質文明の潮流は中流社會の人間を少くして比較的所持と貧乏人とを多くする、さうでなく上中下釣合を取つて往くのが社會政策です、けれども今日物質文明の流込む潮流を見ると中等の人間が減つて上と下とが多くなる是が不良少年不良青年を造る第一の原因になる、貧民社會に於ては非常に不良少年が多い、貧民と云つても範圍が廣いのでありまして東京の警察などで貧民の定義を下して居るのは、三日の間は雨が降つても食物が有る四日目から食物が無いのを貧民と云ふ解釋を付けて居る警察もありますが、單に貧民と云へば私の如きも貧民である、けれども爾うでなく社會的の貧民は二日位は食物が有るが三日四日目から食物が無いと云ふのが貧民だ、不就學兒童が多い、それで保護會を設けて學用品を與へて學校へやると云ふ一種の慈善事業などがあります、それで極く最下級の貧民になつて來ますと、其の子弟を養ふことも十分でなし教ふることは勿論出來ないから、非常に此の社會に於て不良な子供が出來て參るのです。

それに就て斯う云ふ面白い話があります、往年私が倫敦市の或る感化院を觀に往きました、其處はインターステアールスクールと云ふ學校で十四歳以下の少年少女の往く感化院であります、是は男女に別けてあります、私の觀たのは女の方でありました、其處は家族制度にしてやつて居るので院長さんも女、總ての先生が皆女であります、其處に十四五人の者が一軒の家に居りまして家庭と同様に煮炊きをして居る、そ

れで晝のお菜が無いと云ふことになる朝幾許かの金を持たして不良少女の善くなつた生徒に命じて野菜を買ひに出す、日本に譬へて言へばマア十錢程持たして菜つばを買ひにやつた、ところが持つて戻つた野菜が二十錢が程あるやうに思はれる(院長の話ですが)そこでどう云ふ譯で斯んなに澤山野菜を呉れたかと訊ねると、是だけは十錢で買ひました此方の半分は搔拂つて來ましたと云ふ話だ、それから院長さんがどうも爾う云ふ事をしてはいけない、搔拂ふのは泥棒をするのだから爾う云ふ事をしてはいけないと言つて折檻したところがア／＼泣出した、さうして言ふのは私の家で斯う云ふ事をやると阿母さんが褒美を呉れます、成程さう云ふものでせう、極く貧困な者になりますと子供が物を盗つて來ると賞様は感心だ腕があると云ふ風に獎勵をする、それでありますから極く最下級の貧民は少々盗つて來ても宜いと言ふ、私は巢鴨の極く場末に住んで居りますが彼處に居る貧民などは他の家の垣根が古くなると壞して持つて往つて焚物にする、或時は巢鴨がまだ今日のやうに開けない時分で、あの邊には私の家一軒で他には何も無かつた程でありましたが、巢鴨は非常に野菜を作る處で野菜の本場です、私が南瓜畑を通つて往きましたところが小さい子供が路傍に二人出て居る、さうして私の顔を見るとア／＼と泣出した、おかしいわわと思つたが田舎の兒だから口髭の生けて居るのを見て怖くて泣出したのだなど思つて一丁程往きますと、おかみさんが南瓜を採いで五つ六つ抱えて出て來た、そこで初めて判りました、阿母さんが南瓜畑へ泥棒に往つたので誰か人が來たら泣けと子供に言付けてある、それだから子供が私の顔を見て泣出したのです。斯う云ふ風で泥棒を獎勵して居るのだから不良少年の出來るのは當然です、それから又さう云ふ處に藝娼妓を買出に往く事を一つの營業として居る者がある、十圓か十五圓かの金で顔の綺麗な子供を買つて

来て、之を藝者に仕立てて賣つたり女郎に仕立てて賣る、さう云ふ譯で最下級の貧民になりますと經濟上の關係から不良の少年少女が出来る、是が又非常に多い、此の細民社會と云ふものが段々物質文明に依つて殖ねると云ふことが、不良少年不良少女の殖ねると云ふ原因になつて居ります。

それから細民から見ると比較的少數でありますが金持と云ふ者も亦少くない、商工業が殷になると金持が殖ねる、そこで昨日も申し上げました通り富の悪用誤用から不良の少年青年が出来る、金を儲けるのは宜いが、儲けた金を意味有る事に使ふと云ふことは難い、儲けることも難いけれども儲けた金を有益に使ふと云ふことは尙ほ一層難い、そこになると西洋の金持は國が先に開けただけあつて、馬鹿遣ひをする人もありますけれども多くは金を比較的有益に使ふ、日本に於ては今日大分輿論が出て來ましたけれども金を有益に使ふと云ふことよりも虚榮の爲めに使ふ方が多い、富豪が地方を歩く際に一夜に二百圓使つたとか三百圓使つたとかと云ふことを以て誇として居るやうな譯で、待合遊びや或は妾を置くとか風俗を害するやうな事に馬鹿遣ひをして恬として省みない者が多い、でありますから金の殖ねると云ふことは一面に宜いことではありますけれども、儲けた金を使ふのに清らかな考の無い者が金を儲けると云ふことは、社會の風俗を紊したり何かしますから、私共は金の殖ねることを好みますけれども、今日のやうな殖ね方で使ひ方が悪ければ寧ろ殖ねぬ方が宜いと云ふ考を有つて居ります、兎に角不良少年不良青年の多く出るのは上の階級と下の階級であります。

此の上下の階級の多いのが都會です、私共は二十年ばかり東京に住んで居りまして貧民窟を能く研究して居るのであります、地方から出て來る人が東京は良いと言ふけれども其の良いと云ふ意味が私共に解らぬ、唯だ大通を電車で歩いてキラ／＼光つて居る處だけ見て東京が良いと言ふのでありますけれども、其の大通の一步裏の小路に這入つて見ると實に醜惡極つたものであります、或處は地方の人が獨りで歩けない處がある、淺草公園の側の千束町一丁目二丁目邊へ往きますと到底獨りでは歩けぬ、其處は淫賣窟です、千軒ばかり淫賣窟が軒を列べて居ります、酌酒屋とか或は圍碁集會所とか或は新聞縦覽所とか云ふ看板を懸け、新聞を二三枚置き碁盤碁石を置いて其處で淫賣をやつて居るのです、其處に往くと入口と出口とに破落漢が番をして居つて、さうして地方から出た青年が烏糞付いて居ると這入れと言つて引張る、這入らないと引摺上げる、巡查が滅多に廻つて來ない廻つて來ても只だ通り過ぎる、這入ると淫賣を買へ、買はなければ打毆る或は打殺すと言つて脅して金を取る、巡查でも爾うです、若い巡查が通つた跡から年取つた巡查が往く、若い巡查の機嫌を取る爲めに淫賣をやらせる、それだから其の跡から年を取つた巡查が往くのです、巡查でも然うです實に恐い處がある、綺麗な娘でも有つて居ると之を藝者に賣らせやうと思つて専門に歩いて居る奴がある、さうして色々な悪計を運らして藝者に賣らせる、それだから私共が都會生活を研究して見ると都會と云ふ處は餘り良くない、人間の住む處としては最も不健全な場處であるさう云ふ處に貧富の懸隔と云ふものが非常に劇しくて不良な者を多く出すと云ふことになつて來たのです物質的文明が社會の階級を貧富の二階級に分けてしまつて中等民族を少くすると云ふことが、不良少年の殖ねると云ふ一の原因になつて來たのであります。

それから娛樂と不良少年との關係です、是は各地方共に近來は活動寫真とか芝居とか浪花節とかと云ふやうなものが段々殖ねて來ました、御當地にも活動寫真館などが諸所に在るやうです、私は活動寫真が絶

對的に悪いものであるとは言はない、是は善い活動寫眞を仕込んでやれば教育の普及になりますけれども今日のやうな悪い活動寫眞をやつては不良少年が益々殖ゆる原因になります、私共の學校に来る不良少年は多くは都會の者であります、寢言に活動寫眞の辯士をやつて居ります、或は役者の聲色をしたり身振をしたり不良少年の難物になつて來ますと殆ど活動寫眞狂です、さうして物を盗んでは直ぐ活動寫眞を見に往く、それだから活動寫眞とか安芝居へ往きますと泥棒した生徒を大抵捕へて來ることが出來ます、是は一方に於ては教育の上から改良して往かなければなりません、一方に於ては警察でウンと取締つて貰はなければなりません、東京に於ける活動寫眞の悪い事を申すと随分面白い例がありますが、活動寫眞が悪いと云ふことを申上げたらそれで皆様は大抵お解りになるであらうと思ひます、それから安芝居だの其他種々な不健全なる娛樂です、大都會には其の設備が限なく行互つて居りますから、それに因て不良なる者が多く出來る。

私が東京で娛樂の必要であると云ふ事を感じましたのは、御承知の通り東京では職工徒弟等が毎月一日と十五日とに休みます、私が内務省に居りました時に淺草警察に立會つて貰つて晝間女郎屋を調べたことがあります、さうすると休日に十五六歳位の子供が女郎買をやつて居る、それが丁稚子僧なんです、況や活動寫眞や安芝居に往つて悪い感化を受ける者がウジャ／＼して居る、一日と十五日の休日に淺草へ往つて見ますと親子顔を合せて見ることの出來ぬやうな活動寫眞を拍手喝采して見て居る、それで教育と云ふものは唯だ正面から行くものでなくして娛樂其の物が伴はなければいかぬ、一方にはフロックコートを着てやかましい事を言ふ教育も必要であるけれども、一面には又面白くやる娛樂から來る教育が必要であり

ます、そこで東京市でも爾うであります、殊に農村には娛樂の無い處が多い、私が内務省に居りました時に斯う云ふ事を提案したことがあります、内務省に娛樂局を設けて淨瑠璃、芝居、活動寫眞は勿論軍談講釋浪花節と云ふやうな良いものを撰んで比較的人格の善い藝人にそれを演らして、さうして内務省が教育と同時に社會教育の意味を以て小は娛樂の玩具から大は芝居に至るまで學術的教育的に研究して、誰に見せても差支ない益になるやうな娛樂を始終獎勵する、それから府縣に於ては娛樂課と云ふものを置いて此處で取締る、それから町村に於ては衛生費或は役場費と云ふ費用があります、其の中に娛樂費と云ふものを加へて良い役者が來た時分に村が芝居を打つ、それは平常租税で取立つて居る金であるから無料で村民に見せる、萬一已むを得ない時には一錢か二錢取つて風呂に這入る賃錢で良い芝居や活動寫眞を見せるやうにしたら宜い、吾々が講演をしても解る人は極く少い、教育の無い人が多いから吾々が田舎へ往つて講演しても二階から目薬と云ふ譯で徹底しない、ところが浪花節で忠孝仁義を説くとか軍談講釋で節婦貞女を説くとすれば是は誰にも解る、則ち日本の淨瑠璃と云ふものが忠孝仁義の道を鼓吹したと云ふことが興つて力が有る、そこで社會が進んで來れば租税で以て國民の娛樂を研究してそれを安く見せるやうな方法を講じなければならぬ、一體娛樂と云ふものは都會では安く見得るけれども地方に往けば高い、又設備が行届いて居らぬために容易に見ることが出來ませぬから、娛樂を社會教育の大なる機關として政府の費用或は町村費を以て之をやると云ふことになつて來たならば、小學教育の上に或は中學教育の上に其他一般の教育と相並んで教化をする上に於て偉大な力が有らう、若し然らずして高い金を以て悪い娛樂を見ると云ふことになれば、國民の思想が低級で卑い考になつて來ます。

茲に活動寫真から不良少年の出來た一の面白い例を申し上げませう、是は私の家に居た生徒であります。火を放けることを以て殆ど自分の唯一の樂とする子供でありました、此の子供の爲めに百八十圓ばかり掛けて拵へた所の肥料小屋を焼かれました、段々調べて見ると平常はちよつとも先生に叱られぬ子供です、生徒と喧嘩もせず別に缺點は無いが唯だどうも火が放けたくなる、火を放ける、肥料小屋に火を放けて燃上つたので警察から唧筒を持つて來る消防夫が來る近所から大勢來ると云ふ譯でマア消してしまつた、そこで此の子供を調べて見ましたところが、八王子の生れで東京に出て來て淺草の金龍と云ふ大きな漬物屋に奉公して居つた、暫く其處に居る中に或晩其の漬物屋に火を放けた、是は未遂でありまして燃の上らぬ中に消れた、そこで此の子供は火を放けるさうだと言ふので、私の學校の代用感化院と云ふことになつて居りますから、東京府知事の命令で入院して來たのです、二年程居つて缺點が無いから氣を許したところが今お話をした肥料小屋に火を放けたのです、此の子供がどうして火を放けるやうになつたかと云ふことを段々研究して見ますと、淺草の金龍と云ふ漬物屋に奉公して居る中に、近所に活動寫真が澤山ありますから見に往つた、或時火の玉子僧と云ふ活動寫真を見た、火を放けることに名人な悪少年があつて處へでも火を放ける、それを見て自分が非常に愉快に感じた、火を放ける燃上る大勢出て來る、其の模様を見て是は活動寫真を見るよりも自分が火を放けたら面白からうと云ふので、天性氣違ひで火を放けるのかどうか其處は判りませぬけれども、到頭火を放けるやうになつたと云ふ、其の外に言ひ分の無い子供でありますけれども火を放ける、斯う云ふ例は感化院に這入つて居る子供の履歷を調べたら澤山あらうと思ひます。

斯う云ふ一例を見ても不健全なる娛樂が如何に人間を悪くする上に於て恐るべき力が有るかと思ふことが能く解りませう、其の他例へば俊傳兵衛——俊傳兵衛の芝居を見ると青年男女は好い心持にならぬ、爾う云ふ風な事を直接に形で見せるのでありますから、娛樂と云ふ事が教育界の輿論となつて來て、恰も小學校教育費を町村費で取るやうに町村費で娛樂費を取つて、教育と相並んで風化を助けて往くやうにしなければならぬ、是は感化院を建てるよりも必要だと思ひます、一寸一休みます。

#### 第五回

次には悪い麵麴種が善い麵麴種を腐らせると云ふ事でありませう、それはどう云ふことであるかと云ふと不良少年が多く集つて居る都會でありますから、それが原因になつて善い少年を悪化する、昨日も一寸申上げたやうに考へて居りますが、敷島團だとか白狐隊だとか仁義組だとかと云ふやうな不良少年の團體が幾十組も東京などにはあります、さうして其の團體の中にはそれ／＼規約がありました、丁度博徒の仲間規約があるやうなもので、如何なる事があつても悪い事をしたと云ふことは言はぬと云ふ血判を取つて居るのです、それを警察で責めても首が千斷れても言はぬと云ふ、さう云ふ徳義は彼等の仲間ではなかなか堅い、一人不良少年不良少女が擧つて來ると、其の性質にも依りますが感化院長などは是は不良少年の團體が在るなと云ふことが必ず判る、中には單獨でやる者もありますけれども稀です、不良少年には必ず二三人の友達が有る、甚だしきは團體が有ります、それだから一人の不良少年を親又は警察から感化院へ送つて來る、此の者だけを感化したならばそれで立派な者になれるかと云ふと決して爾うではない、即ち是は根が張つて居る、友達があれば其の友達を善くしなければ之を善くすることが出來ませぬ、斯う云